「岩手の幸福に関する指標」研究会（第８回）

日時：平成 29 年８月 30 日（水）
16：00～17：00
場所：岩手県立大学アイーナキャンパス
７階学習室１

次　　第

１　開　会

２　挨　拶

３　協議事項
「岩手の幸福に関する指標」研究会報告書（案）について

４　閉　会

「岩手の幸福に関する指標」研究会　委員及びアドバイサー　名簿

（研究会委員）

氏名	役職名
竹村　祥子	岩手大学人文社会科学部　教授
谷藤　邦基	株式会社イーアールアイ　監査役
山田　佳奈	岩手県立大学総合政策学部　准教授
吉野　英岐	岩手県立大学総合政策学部　教授
若菜　千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事

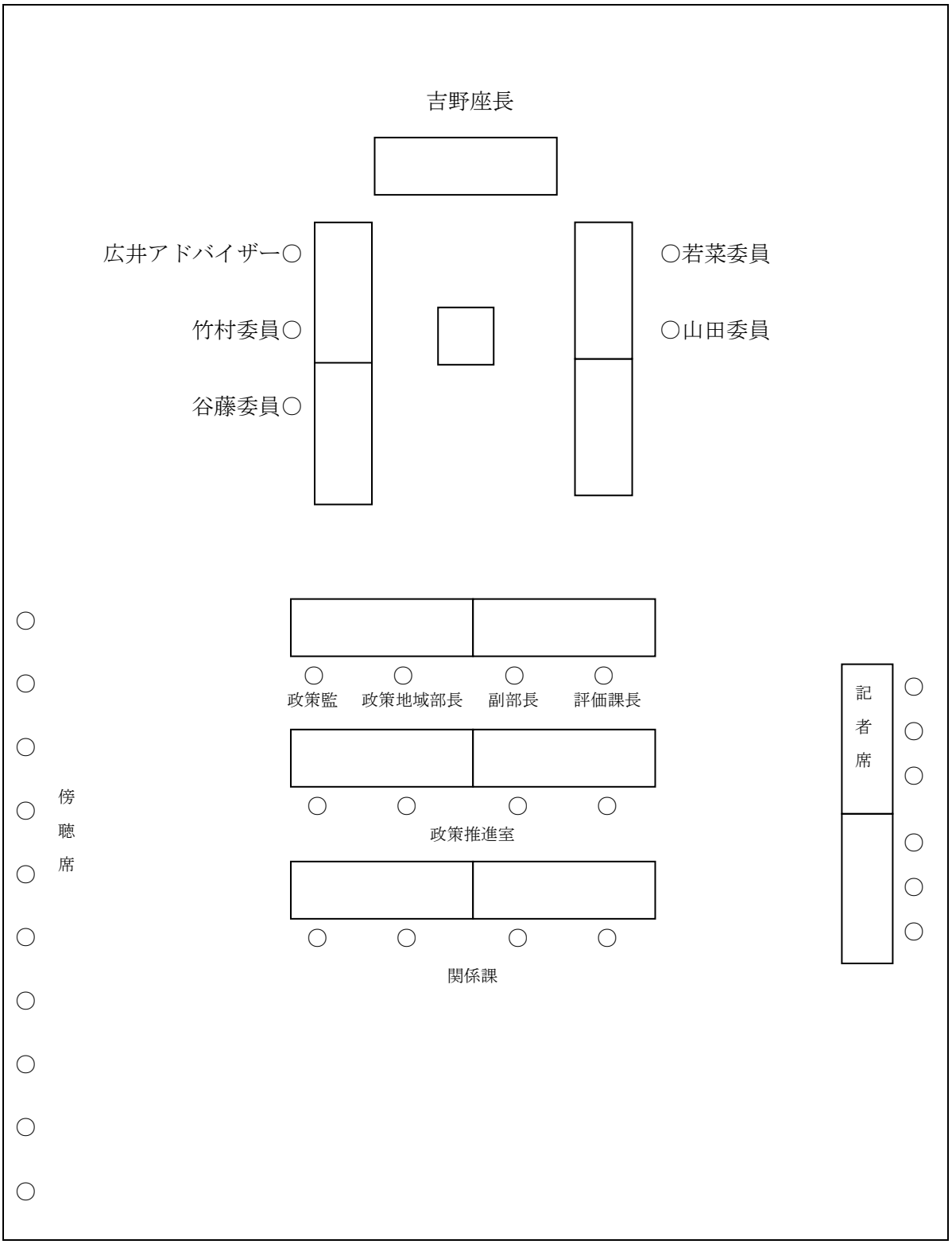
（アドバイザー）

氏名	役職名
広井　良典	京都大学こころの未来研究センター　教授

（敬称略　50 音順）

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第８回）座席表

日時：平成 29 年８月 30 日（水）16：00～17：00
場所：岩手県立大学アイーナキャンパス７階学習室１



「岩手の幸福に関する指標」研究会　報告書の概要（案）

平成29年８月30日
岩手の幸福に関する研究会
（事務局　岩手県政策推進室）

1　今なぜ幸福に関する指標を研究するのか

○　経済成長は必ずしも人々の幸福とは繋がっていないとの研究結果（幸福のパラドックス）もあり、物質的なゆたかさだけではない様々な要素に着目することが重要。

○　このような背景の中、県民の幸福を的確に把握することや、県民が自らの幸福について考えるきっかけとすること等を目的として、「岩手の幸福に関する指標」を策定する。

○　そして、指標の次期総合計画への反映等を通じて、個人として、また、社会として幸福を求めることができる岩手県を目指す。

2　指標策定の基本方針

（1）新たな施策の展開に活用できる指標とする。

短期的な数値の上昇や、他地域との比較を主眼とするのではなく、本県の強み弱みを多面的に分析し、よりよい施策への活用を重視する。

（2）県民の実感を踏まえた指標とする。

県民意識調査の結果を重視した指標とする。また、指標を活用し、県民が自らの幸福について考え、身近な人や地域の幸福についても意識するきっかけとする。

（3）物質的なゆたかさに加え、岩手が目指すゆたかさにも着目した指標とする。

幸福に関連する様々な要素を考慮し、物質的なゆたかさ以外の要素である、「岩手ならではの生き方」や「人のつながり」といったゆたかさにも着目する。

3　指標の策定

（1）指標体系等の考え方

○　指標は、多面的な分析を可能とする観点から、個別指標の集まりである「ダッシュボード方式」で示す。

○　幸福は主観的な面の影響が大きいことから、主観的指標を中心とし、統計データによる客観的指標で補足する。

○　主観的指標は、「主観的幸福感※1」と、主観的幸福感に関連する領域ごとにその実感を評価した「領域別実感※2」等で構成する。

○　岩手が目指すゆたかさを表す指標として、「協調的幸福感※3」と「ソーシャル・キャピタル※4」を設定する。

（2）県の施策に関する県民意識調査結果

○　指標体系等の妥当性を検証するため、県民意識調査に新たに幸福感等に関する設問を追加し、県民の幸福に関する実感等を把握した。

○　主観的幸福感と従来計測していた生活満足度を比較したところ、両者は異なる傾向がみられ、新たに主観的幸福感を測定する意義が確認できた。

○　先行事例等を参考に設定した12領域ごとの実感（領域別実感）は、強弱の差はあるものの、主観的幸福感と一定の相関が確認できた。

○　協調的幸福感は、主観的幸福感と強い相関が確認できた。

○　本県のソーシャル・キャピタルは、他の全国調査結果に比べ高い傾向が確認できた。また、ソーシャル・キャピタルの実感と主観的幸福感及び領域別実感との間に、一定の相関が確認できた。

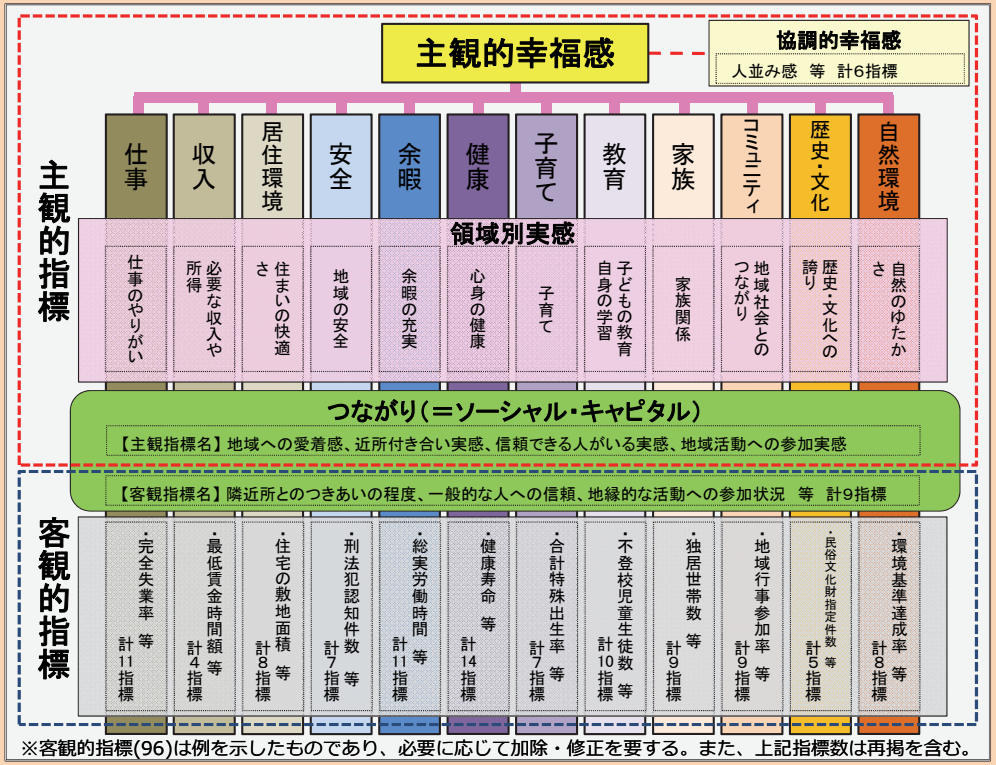
（3）指標体系の設定

○　県民意識調査結果や先行事例に基づき、次の12領域を主観的幸福感に関連する領域とし、領域ごとの実感を領域別実感として設定する。
【仕事、収入、居住環境、安全、余暇、健康、子育て、教育、家族、コミュニティ、歴史・文化、自然環境】

○　協調的幸福感は、主観的幸福感との因果関係が明らかではなく、政策として関与しにくい概念であるが、岩手ならではの生き方といった観点から、今後も継続して把握が必要な概念と考え、参考的な指標として設定する。

○　ソーシャル・キャピタルは、本県の特徴の一つである「つながり」を示す指標として、全領域に関連する横断的な指標として設定する。

○　客観的指標例は、主観的指標ではとらえにくい点を補足する観点から領域別に設定することとし、経年把握や全国比較が可能な96指標を一例として示す。



※客観的指標(96)は例を示したものであり、必要に応じて加除・修正を要する。また、上記指標数は再掲を含む。

※１　主観的幸福感
県民意識調査等で「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、５段階で評価されたもの。

※２　領域別実感
県民意識調査等で、主観的幸福感に関連するとされる領域ごとの実感を問う設問に対し、５段階で評価されたもの。

※３　協調的幸福感
他者との協調性、平穏な感情状態、人並み感等を総称する幸福感。他国に比べ日本は、これらを重視しながら自らの幸福を考える傾向があるとされ、岩手県でも類似の傾向が確認された。

※４　ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）
交流、信頼、社会参加等の個人間のつながりのことを示す。これらが豊かな地域は幸福が高い傾向にあるとされており、岩手県でも類似の傾向が確認された。

4　県民参画の手法

○　幸福研究の目的について県民に理解していただくとともに、県民の意見を聴き、また、幸福について考えていただくきっかけとなる県民参画の手法を検討するため、新たに「幸福について考えるワークショップ」を試行的に３回開催した。

○　ワークショップの試行結果を踏まえ、県民が地域等でいつでも、どこでもワークショップを開催できるようにするためのマニュアルとして「ワークショップの手引き」を作成した。

○　また、自身の幸福を簡便的に「見える化」でき、ワークショップの際の議論のきっかけとするためのツールとして、「幸福カルテ」を策定した。

5　未来の幸福に向けて

○　本指標体系は生活者の視点が重視されていることから、政策等に活用する際は、産業政策、インフラ整備等、生産者への配慮を期待する。また、現役世代の幸福のみを優先することなく、将来世代にわたり社会の幸福が持続可能となるよう期待する。

○　幸福研究の目的を県民に理解してもらうとともに、県民一人ひとりが幸福について考えてもらうきっかけとするため、ワークショップ等を活用した県民参加の取組が継続することを期待する。

○　本報告書を皮切りに、個人や地域の幸福を考えてみようという動きが広がることで、本指標体系が、それぞれの地域にふさわしい内容に修正されながら、広く活用されることを期待する。

「岩手の幸福に関する指標」研究会
報告書
（案）

平成 29 年８月

目次

第１章　今なぜ幸福に関する指標を研究するのか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第２章　指標策定の基本方針と基本的考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　　１　指標策定の基本方針
　　２　研究に当たっての基本的考え方

第３章　指標の策定
　第１節　指標体系等の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　　１　幸福に関連する領域
　　２　指標の表現方法
　　３　指標の種類等
　　４　岩手が目指すゆたかさを示す指標

　第２節　県の施策に関する県民意識調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　　１　主観的幸福感
　　２　幸福を判断する際に重視した項目
　　３　領域別実感
　　４　協調的幸福感
　　５　ソーシャル・キャピタル

　第３節　指標体系等の設定　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　　１　指標体系の設定
　　２　主観的指標の設定
　　３　客観的指標例の設定
　　４　岩手が目指すゆたかさを示す指標

第４章　県民参画の手法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
　　１　ワークショップの試行的開催
　　２　「ワークショップの手引き」の作成

第５章　未来の幸福に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　　１　研究結果のまとめ
　　２　指標を活用するに当たって
　　３　今後への期待

委員・アドバイザー所感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

別紙　客観的指標の例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

参考文献・資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
「岩手の幸福に関する指標」研究会設置要領　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
検討経過等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

【別冊】

参考資料１　先行事例等
参考資料２　幸福について考えるワークショップの概要
参考資料３　幸福について考えるワークショップの手引き
参考資料４　平成 28 年及び平成 29 年「県の施策に関する県民意識調査」調査票
参考資料５　平成 28 年及び平成 29 年「県の施策に関する県民意識調査」の分析結果

第１章　今なぜ幸福に関する指標を研究するのか

(1) 近年の「幸福」を取り巻く状況

近年、世界各国で「幸福」を視点とした研究や、指標の策定が進められています。OECD（経済協力開発機構）が、「より良い暮らし指標（Better Life Index：BLI)」を策定し、また、ブータンの提唱する「国民総幸福量（Gross National Happiness：GNH)」の考え方も注目を集めています。国内でも、内閣府が設置した幸福度に関する研究会が平成23年に「幸福度指標試案」を示しており、東京都荒川区や熊本県等、複数の自治体で幸福の概念を政策評価等に用いるなど、行政において、「幸福」を施策の展開に活用しようとする事例が見られます。

高度成長期においては、社会経済の状況を評価する指標として、主に国内総生産（GDP）のような経済指標が用いられてきました。しかし、その後GDPの増加で示される経済成長は、必ずしも人々の幸福とは繋がっていないという、いわゆる「幸福のパラドックス」が示されるなど、経済指標のみで社会の状況を評価しようとすることの限界が現れ始めており、これから目指すべき社会を考えるためには、物質的なゆたかさだけではない様々な要素に着目することが一層重要となっています。

(2) 「岩手の幸福に関する指標」策定の目的

こうした背景から、岩手県は、次期総合計画の期間である次の10年を見据え、県民の幸福を的確に把握するための方法を研究するため、「岩手の幸福に関する指標」研究会を設置しました。そして、指標の次期総合計画への反映等を通じて、個人として、また、社会として幸福を求めることができる岩手県を目指していくこととしています。

そこで本研究会では、「岩手の幸福に関する指標」を策定する目的を、次の３つに整理しました。

①　様々な要素からなる県民の「幸福」を的確に把握できるツールを確立し、施策の展開に活用すること

②　幸福に関する指標の策定に向けた研究を通じて、これから岩手県はどのような社会を目指していくのかという問いに、「幸福」という切り口から１つの考え方を示すこと

③　県民が自らの幸福について考えるきっかけとすること

(3) 研究に当たっての視点

幸福は様々な要素から構成される概念であり、研究に当たっては、全国に共通するような一般的な視点に加え、地域ならではの視点を考慮することも重要です。

岩手で生まれ育った宮沢賢治が「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉を残しているように、岩手には、その歴史や風土、生き方に支えられた幸福の捉え方があるのではないでしょうか。

また、岩手県は、東日本大震災津波からの復興に当たって、「一人ひとりの幸福追求権を保障すること」を原則に掲げながら進めており、その際、県内外の「つながり」が復興の大きな力となりました。東日本大震災津波という未曾有の被害を経験した岩手県において、未来を見据えて幸福を研究することには大きな意義があると考えます。

本研究会では、これらの点にも着目しつつ、研究を進めました。

参考１　幸福をテーマとした主な先行事例

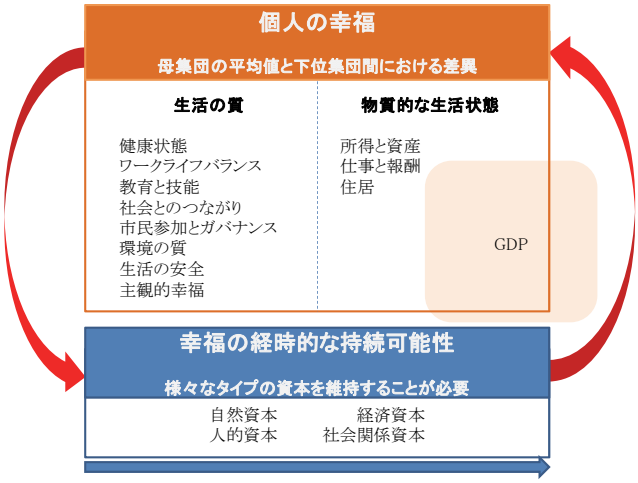
(1) ブータン王国　「国民総幸福量（Gross National Happiness ： GNH)」

ブータン王国では、1972 年に、物質的な側面よりも心の豊かさに着目した指標として、「国民総幸福量（Gross National Happiness ： GNH)」を提唱し、実際に GNH の向上を政策目標としています。GNH は、①心理的幸福、②生活水準、③健康、④地域の活力、⑤教育、⑥文化、⑦環境、⑧時間の使い方、⑨良い統治という９つの領域からなり、2006 年以降実際に調査が行われています。

この取組は、GDP に代表される経済指標とは別の視点からの試みとして、世界各国の注目を集めました。

(2) OECD「より良い暮らし指標（Better Life Index：BLI)」

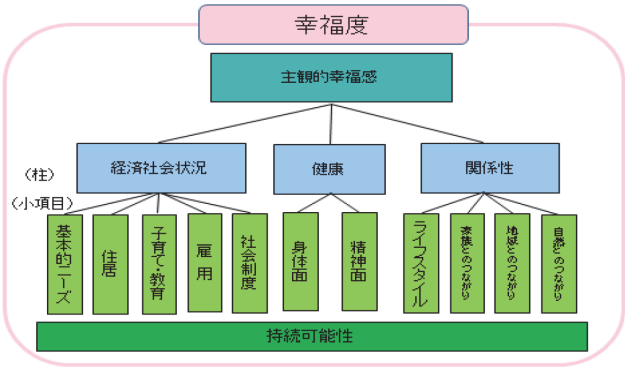
OECD では創設 50 周年記念行事において、「より良い暮らしイニシアチブ」に着手し、幸福度に着目した指標として「より良い暮らし指標」を策定しています。本指標は、「経済パフォーマンスと社会の進歩の測定に関する委員会（CMEPSP)」からの報告書（2009）に基づき、公共政策に有益な情報を提供することや、社会の進歩について市民参加型の議論を進めることを挙げており、幸福を評価するための三本の柱として、「物質的な生活状態」、「生活の質」、「持続可能性」を置き、それぞれの柱ごとに設定した指標から加盟国間の比較を行っています。



(3) 内閣府　幸福度に関する研究会「幸福度指標試案」

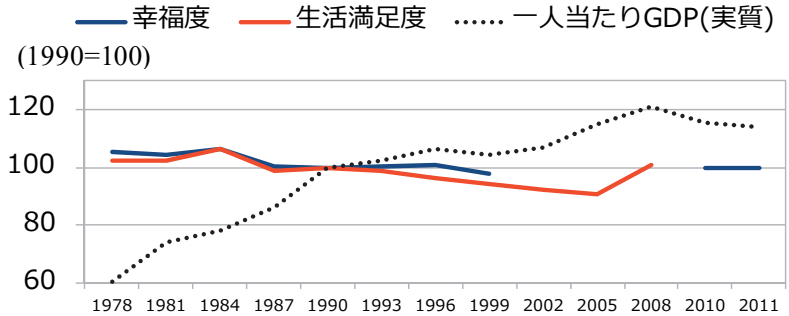
内閣府では、幸福度に関する調査研究を推進するため、「幸福度に関する研究会」を設置し、研究会の研究成果として幸福度指標の試案を示しています。

体系として、主観的幸福感を中心に据え、「経済社会状況」、「健康」、「関係性」の３つの柱を立て、現代世代の幸福感が将来世代の幸福感の犠牲の下に進むのは望ましくないという観点から、別途「持続可能性」という視点を置き、それぞれの柱において指標案を示しています。



参考２　幸福のパラドックス

経済学者であるイースターリンが示した考え方であり、イースターリンのパラドックスとも言われています。先進国では、所得水準と幸福度の平均値に相関がないことを示したものであり、日本国内においても、１人当たり実質 GDP の動きと幸福度の動きは正の相関を示しておらず、経済成長が必ずしも国民の幸福感や満足感につながっていないことがわかります。



出所:内閣府(2011)『幸福度に関する研究会報告　―幸福度指標試案―』。

（備考）

1. 「幸福度」、「生活満足度」は内閣府「国民生活選好度調査」における３年度ごとの回答に基づく平均値を1990年を100として相対化したもの。

2. 一人当たり GDP は内閣府「国民経済計算確報値」及び「四半期別 GDP 速報」、総務省「推計人口」により算出し、1990 年を 100 として相対化したもの。

第２章　指標策定の基本方針と基本的考え方

１　指標策定の基本方針

岩手の幸福に関する指標を策定するに当たっての基本方針は、前章で示した指標策定の目的、研究に当たっての視点に基づき、以下のとおりとしました。

(1) 新たな施策の展開に活用できる指標とする。
(2) 県民の実感を踏まえた指標とする。
(3) 物質的なゆたかさに加え、岩手が目指すゆたかさにも着目した指標とする。

(1) 新たな施策の展開に活用できる指標とする。

指標の活用に当たっては、短期的な数値の変動やランキング等による他都道府県等との比較に主眼を置くのではなく、その指標が表す具体的な「意味」に着目することが重要です。

そのため、策定する指標は、次期総合計画を見据え、「幸福」という新たな切り口で、県民の実感やそれを支える様々な要因を評価し、ひいては岩手県の強みや弱みを多面的に分析することが可能になるものを目指しました。

(2) 県民の実感を踏まえた指標とする。

幸福には個人差も含め様々な面があることから、幸福に関する指標を策定する際に、行政が「何が幸福であるか」を定義すること等により、価値観を押し付けることは避けなければなりません。

そのため、策定する指標は、岩手県が実施する「県の施策に関する県民意識調査」（以下「県民意識調査」という。）等の結果を重視することで、県民がどのようなことに幸福を感じているかを的確に把握できるものを目指しました。

また、県民運動として、地域や県民が指標を活用し、幸福について考えるきっかけとなるようなものを目指しました。

(3) 物質的なゆたかさに加え、岩手が目指すゆたかさにも着目した指標とする。

「幸福のパラドックス」にも表れているように、幸福は、物質的なゆたかさのみを要素とするものではありません。また、幸福の様々な要素を重視する観点から、地域ならではの視点を踏まえることも重要です。

そのため、指標の策定に当たって、物質的なゆたかさ以外の要素も考慮するとともに、岩手の将来を見据えた「岩手ならではの生き方」や「人のつながり」といったゆたかさにも着目しました。

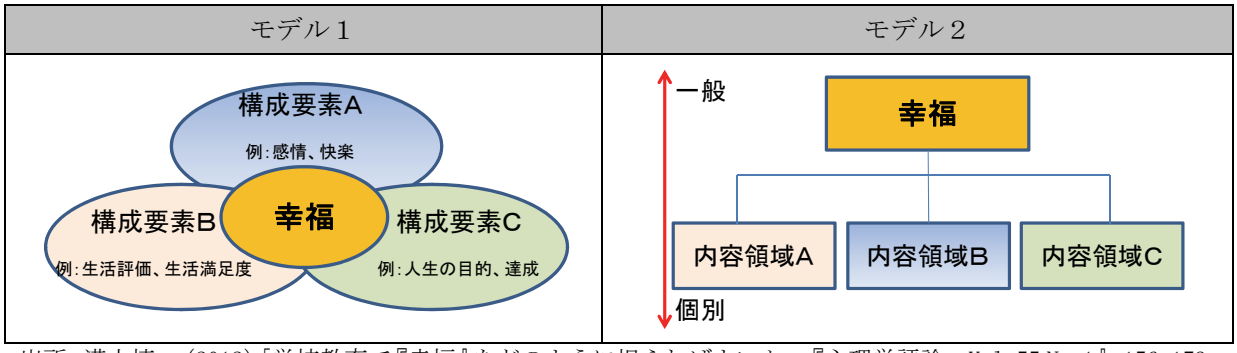
２　研究に当たっての基本的考え方

(1) 研究モデル

幸福に関する研究モデルは、図１に示すとおり、短期的な感情などの個人的な要素にも着目するもの（モデル１）も含めて複数ありますが、本研究会では、新たな施策の展開に活用できる指標を目指すとの基本方針を踏まえ、幸福を総合的な面と個別の内容領域に分けて理解するモデル２を採用しました。この考え方は、内閣府の幸福度指標試案や東京都荒川区の荒川区民総幸福度等、行政における先行事例でも用いられています。

一方、幸福には個人的な要素も含めた様々な面があるのも事実であり、県民に幸福について考えていただくためのきっかけとする観点からは、モデル１にも留意する必要があります。

図１　幸福研究のモデル



出所：溝上慎一（2012）「学校教育で『幸福』をどのように捉えればよいか」、『心理学評論　Vol.55 No.1』：156-173、心理学評論刊行会を参考に研究会で作成。

(2) 用語の整理

「幸福」は多面的な概念であり、受け手によって意味の違いが生じうることから、研究に当たり用語の整理を行う必要があります。

「幸福」と類似の用語として、幸せ、生活満足度、福祉・厚生、生活の質等が挙げられます。先行研究等においても、その用法は必ずしも統一されていませんが、例えば、OECD 等の先行研究においては、「幸せ（happiness）」という単語は一時的な感情が強調される[1]、「生活満足度（life-satisfaction）」という単語は経済的な面が強調される[2]、との指摘がなされています。

そのような中、本研究会では、県として幸福を研究するに当たって重視すべきなのは、多面的な観点から「よい状況（well-being）」を保つかどうかにあるという視点で研究を行いました。

また、先行研究等において「幸福度」や「幸福感」といった様々な用語が使用されていますが、本研究会では、それぞれの用語を以下のとおり整理しました。

各用語の関係性を図示したものは、図２のとおりです。

[1] OECD（2015）『主観的幸福を測る　OECD ガイドライン』明石書店。
[2] 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編（2010）『日本の幸福度―格差・労働・家族―』日本評論社。

本報告書で使用する主な用語の整理

①**幸福度**…幸福感を表す**主観的指標**と、領域別実感に関連する統計データで構成される**客観的指標**で示されるもの。

②**主観的指標（幸福感）**…**主観的幸福感**と**領域別実感等**で構成されるもの。

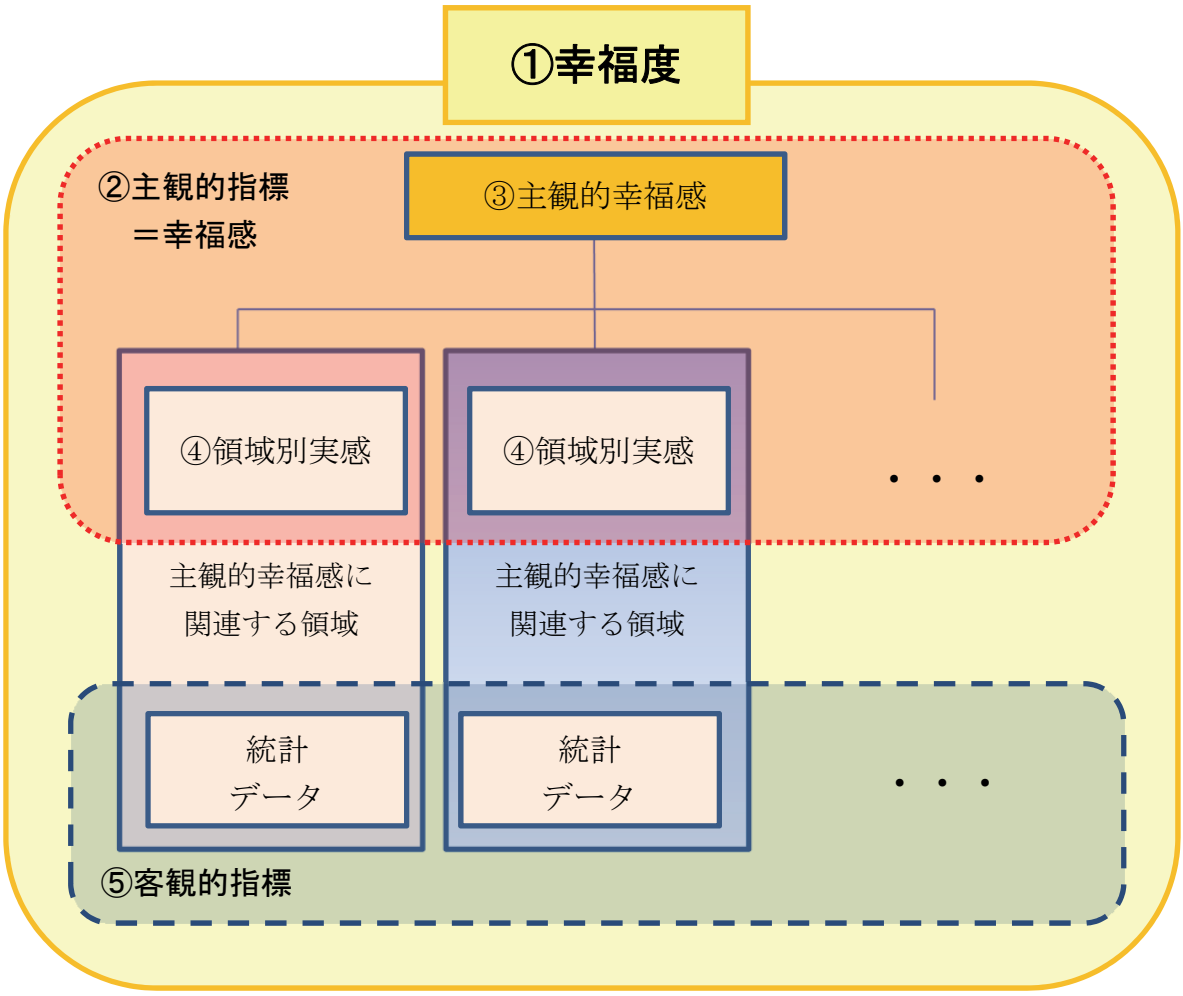
③**主観的幸福感**…県民意識調査等で、**「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、５段階で評価**されたもの。

④**領域別実感**…県民意識調査等で、主観的幸福感に関連するとされる**領域ごとの実感を問う設問に対し、５段階で評価**されたもの。

⑤**客観的指標**…領域別実感に関連すると考えられる**統計データ**。

※主観的指標と客観的指標の両方を表現する場合、「指標」と表現する場合がある。

図２　各用語の関係



第３章　指標の策定

第１節　指標体系等の考え方

指標体系に関する主な論点についての考え方は以下のとおりです。

指標体系は、県民の実感を踏まえた内容とする必要があることから、県民意識調査を実施することで、県民の主観的幸福感や領域別実感等の実態を把握し、内容の妥当性を検証しました。

１　幸福に関連する領域

先行研究や先行事例に基づき、**次の 12 領域を主観的幸福感に関連する領域として設定することを検討**する。

【仕事】、【収入】、【居住環境】、【安全】、【余暇】、【健康】、【子育て】、【教育】、【家族】、【コミュニティ】、【歴史・文化】、【自然環境】

先行事例等において、主観的幸福感に関連するとされている領域の一覧は表１のとおりです。また、主な先行事例等を整理したものは、別冊参考資料１のとおりです。

多くの先行事例等で、上記の 12 領域を主観的幸福感に関連する領域として位置付けています。

表１　先行事例等における主観的幸福感に関連する領域

実施者	仕事	収入	居住環境	安全	余暇	健康	子育て	教育	家族	コミュニティ	歴史文化	自然環境	その他
ブータン		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
イギリス	○	○	○	○		○		○		○		○	○
CMEPSP※	○	○		○	○	○		○		○		○	○
OECD	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
法政大学	○	○	○	○		○	○		○				
内閣府	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
東北活性化研究センター	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	
福井県他	○	○		○	○	○	○	○	○	○			
富山県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
京都府	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
三重県	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○
熊本県	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	
新潟市	○	○		○		○	○	○	○	○			
荒川区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
滝沢市	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	

※CMEPSP：経済のパフォーマンスと社会の進歩の測定に関する委員会のこと。2008 年にフランスのサルコジ大統領（当時）が、GDP とは異なる新たな社会進歩を測る指標を検討するため、ジョセフ・スティグリッツ　コロンビア大学教授（2001 年ノーベル経済学賞受賞）を座長として設立した委員会。

出所：（公財）荒川区自治総合研究所『荒川区民幸福度（GAH）に関するプロジェクト中間報告書』、（公財）東北活性化研究センター『「幸福度の定量化に関する調査研究」中間報告書』を参考に研究会で作成 。

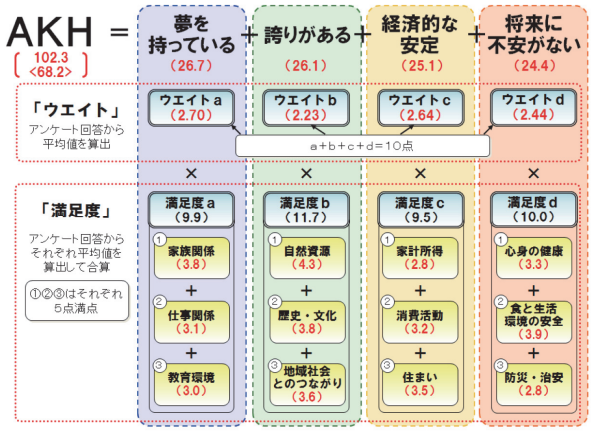
2　指標の表現方法

○　指標の表現方法には、複数の指標を１つの数値に統合する「統合方式」と、個別指標の集まりである「ダッシュボード方式」が考えられるが、**多面的に分析し、新たな施策の展開への活用を重視する観点等から、ダッシュボード方式を採用**する。

○　一方、ワークショップ等において、幸福について県民に考えていただくきっかけとして活用する際には、わかりやすさの観点から、統合方式を採用する。

表２　指標の表現方法の例

統合方式の例	ダッシュボード方式の例
・県民総幸福量（Aggregate Kumamoto Happiness：(AKH) 複数の数値を１つの数値（AKH）に統合している。	・とやま幸福度関連指標 複数の個別指標からなる指標群で示している。



出所：熊本県（2015）『幸せ実感くまもと４カ年戦略　2015 進捗レポート』。

柱		指標	富山県数値	順位
主観的幸福感		主観的幸福感（今後、調査）		
経済社会状況	基本的ニーズ	生活保護被保護実人員比率	2.5‰	1
		食料自給率	77%	11
		食品表示が適正な店舗の割合	95.2%	
		自主衛生管理に関する講習会（食の安全アカデミー）の受講者数（累計）	25人	
		消費生活相談解決率	98.7%	
		１世帯当たり負債現在高	437万円	20
		１世帯当たり貯蓄現在高	1,701万円	20
	住居・居住環境	住み良さに関する意識（今後、調査）		
		持ち家比率	78.3%	1
		１人当たり畳数	17.62畳	1
		下水道普及率	78.6%	8
		住宅の耐震化率	68%	
		高齢者が居住する住宅のバリアフリー化率	40%	4
		刑法犯認知件数（人口1万人当たり）	61.1件	6
		交通事故発生件数（人口１万人当たり）	47.2件	16
		気管挿管及び薬剤投与が可能な救急救命士数	77人	

柱		指標	富山県数値	順位
経済社会状況	住居・居住環境	都市公園の面積（都市計画区域内人口比）	14.5㎡	10
		低床バス導入割合	28.1%	11
		市街地の道路網密度	1.86km	13
		高速道路の利用しやすさ	20IC	
		道路の走りやすさ割合	67.8%	10
		市街地ゆとり歩道割合	77.6%	
		良好な景観形成が必要な道路の無電柱化率	50.1%	
		冬期走行しやすさ割合	51.1%	
	教育・子育て	合計特殊出生率	1.42	33
		産婦人科・産科医数（出生千人当たり）	12.1人	6
		小児科医数（小児人口1万人当たり）	11.1人	6
		授業が分かると答える生徒の割合	60.1%	
		県立学校の耐震化率	71.5%	
		子どもの教育において、家庭が役割を果たしていると思う人の割合	10.6%	
		いじめの認知件数（千人当たり）	小5.8件 中9.2件	
		保育所入所待機児童数	0人	1
		病児・病後児保育事業実施箇所数	57か所	

出所：富山県（2012）『新・元気とやま創造計画』。

3　指標の種類等

(1) 指標の種類

○　幸福は主観的な面が大きく影響することから、**主観的指標を中心とした上で、主観のみでは捉えにくい点等を客観的指標で補足する構成**とする。

(2) 主観的指標

○　主観的指標は、**短期的な数値の増減に着目するのではなく、長期的な視点での数値の維持・向上を図る**という観点で設定する。

○　主観的指標は、総合的な幸福を示す主観的幸福感と、関連する領域ごとに設定した領域別実感等で構成する。

(3) 客観的指標例

○　客観的指標例は、**岩手の強みや弱みなど、現状を的確に把握するため、原則として、全国との比較ができる指標を選定**する。

○　客観的指標例は、主観的指標のみではとらえにくい点を補足するとの方針に基づき、各領域に関連すると思われる指標項目を複数設定し、指標項目ごとに例示する。

○　客観的指標例は、世代やライフステージ等の属性によって、幸福を判断する際に重視する項目が異なることが考慮されたものとする。

4　岩手が目指すゆたかさを示す指標

岩手県では、「つながり」を総合計画である「いわて県民計画」において位置付ける等、これまでも「つながり」を重視して施策を推進してきました。先行研究でも、自らの幸福度に対する、他者との関係性、協調性、つながりなどの影響が注目されています。

そこで、「岩手ならではの生き方」や「人とのつながり」といった岩手が目指すゆたかさを表す指標として、以下の「協調的幸福感」と「ソーシャル・キャピタル」の設定を検討しました。

(1) 協調的幸福感

○　表３に示すとおり、北米に比べて日本は、自らが幸福かどうか考える際に人との関係性を重視し、他者との協調性や平穏な感情状態、人並み感に焦点を置く傾向があるとされており、これらを踏まえた幸福感の考え方として、近年、協調的幸福感という概念が示されている。

他者との協調性、平穏な感情状態、人並み感等を重視する傾向は、岩手にもあてはまる特徴であると考え、**岩手が目指すゆたかさを表す指標として、協調的幸福感の設定を検討**する。

(2) ソーシャル・キャピタル

○　ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）は、個人間のつながりのことを指すものとされており、ソーシャル・キャピタルが豊かな地域は幸福感が高い傾向にあることが示されている。

近年、経済資本や人的資本と並ぶ重要な概念としても注目されており、岩手が目指すゆたかさにもつながる概念と考え、**岩手の特徴の一つと考えられる「人とのつながり」を表す指標として、設定を検討**する。

表３　文化と幸福の関係性

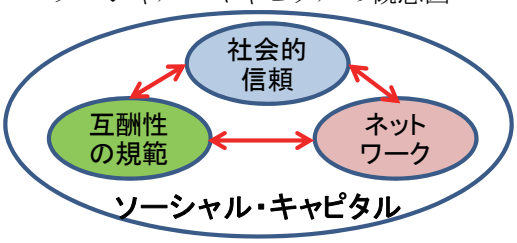
項目	日本	北米
幸福感情	低覚醒感情「おだやかさ」 関与的感情「親しみ」	高覚醒感情「うきうき」 脱関与的感情「誇り」
幸福の捉え方	バランス志向的幸福像	増大的幸福像
幸福の予測因	関係志向 協調的幸福、人並み感 関係性調和　等	個人達成志向 自己価値・自尊心

出所：内田由紀子（2013）「日本人の幸福感と幸福度指標」、『心理学ワールド 60 号』：5-8、日本心理学会。

参考３　ソーシャル・キャピタルとは

- OECD では、幸福を持続可能なものとするために、４つの資本、すなわち①経済（物的）資本、②人的資本、③自然資本、④社会関係資本の維持を重視しています。
- これらのうち、社会関係資本、いわゆるソーシャル・キャピタルとは、提唱者とされている R. パットナムによると、「人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、【信頼】、【規範】、【ネットワーク】といった社会組織の特徴」とされています。
- 【規範】とは、「情けは人の為ならず」「持ちつ持たれつ」「お互い様」といった互酬性の規範、【ネットワーク】とは、人やグループの間の絆を意味しており、ソーシャル・キャピタルが豊かな地域ほど、完全失業率や犯罪率が低く、合計特殊出生率が高い、などの結果が報告されています。

ソーシャル・キャピタルの概念図



出所：内閣府（2003）『ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』。
滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所（2016）『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』。
OECD（2015）『OECD 幸福度白書２』明石書店。

第２節　県の施策に関する県民意識調査結果

岩手県では、毎年、県民 5,000 人を対象に県民意識調査を実施し、生活全般の満足度である生活満足度のほか､｢いわて県民計画｣に基づいて実施する施策の重要度や満足度を調査しています。第１節で整理した指標体系等の妥当性を検証するため、平成 28 年と平成 29 年の県民意識調査に新たに幸福感等に関する設問を追加することで、県民の幸福に関する実感等を把握しました。

調査結果の概要は次のとおりです。また、調査票及び調査結果の詳細は、別冊参考資料４、５のとおりです。

表４　平成 28、29 年県民意識調査の概要

項目	平成 29 年調査	平成 28 年調査
調査対象	18 歳以上の男女	20 歳以上の男女
抽出方法	選挙人名簿等からの層化二段無作為抽出	
対象者数	5,000 人	5,000 人
回答数（率）	3,422 人（68.4%）	3,576 人（71.5%）

１　主観的幸福感

主観的幸福感と生活満足度を５段階評価で調査したところ､それぞれ異なる傾向がみられたことから、新たに主観的幸福感を測定する意義があるものと考えられます。

○　**主観的幸福感は生活満足度よりも高い傾向があるなど、両者は異なる結果**となった。

○　主観的幸福感は、性別や年齢階層別等、多くの属性別集計結果において、先行研究等における調査結果と同様の傾向となった。

図３　主観的幸福感と生活満足度

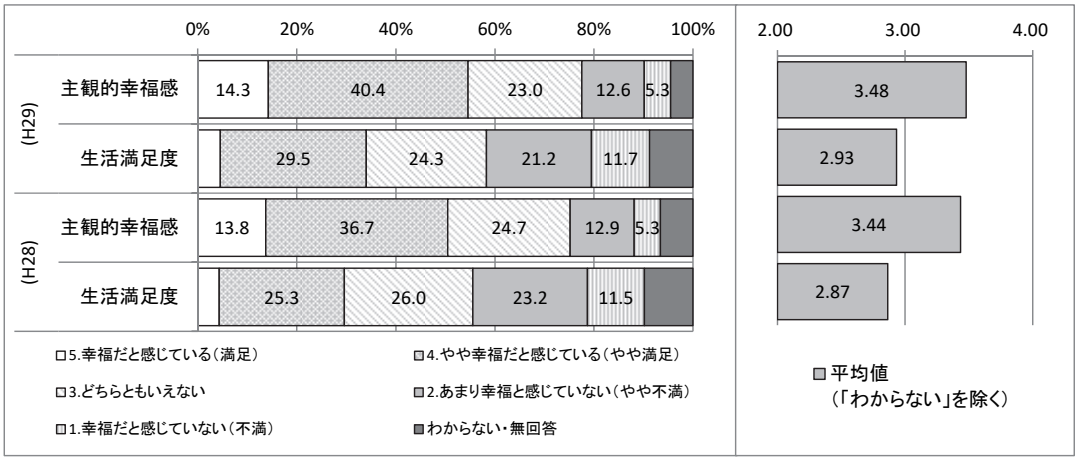
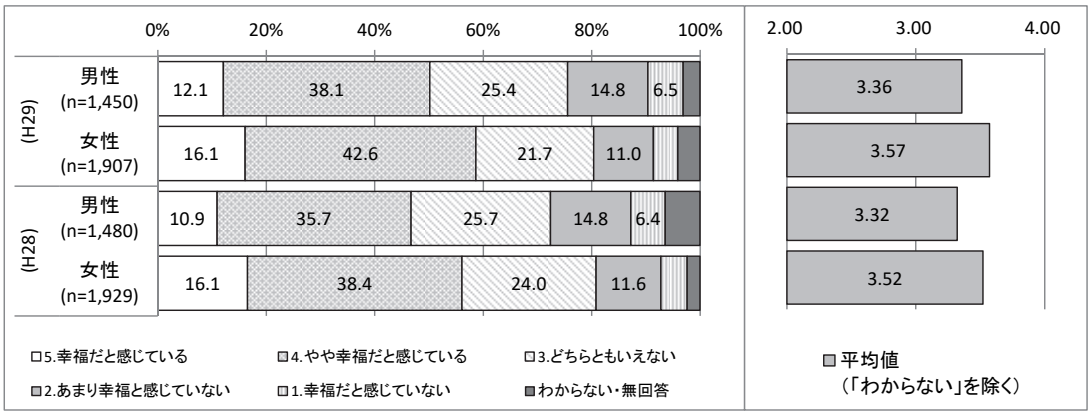


図４　主観的幸福感（性別）



２　幸福を判断する際に重視した項目

幸福を判断する際に重視した項目（17 項目から複数選択）を調査したところ、次の結果となりました。

平成 28 年と平成 29 年の調査で類似の結果が得られたことから、幸福を判断する際に重視した項目は、短期間で大きく変化しないものと考えられます。

○　性別や年齢階層によって重視した項目が異なる結果となった。

○　幸福を判断する際に重視した項目の順位は、先行事例と大きな差は確認できなかったが、岩手県では、職場の人間関係や地域コミュニティとの関係を重視した割合が高い傾向が確認できた。

○　主観的幸福感が高い層は家族関係や友人関係といった関係性を、低い層は家計の状況を重視する傾向があった。

表５　幸福を判断する際に重視した項目（属性別順位）

平成29年

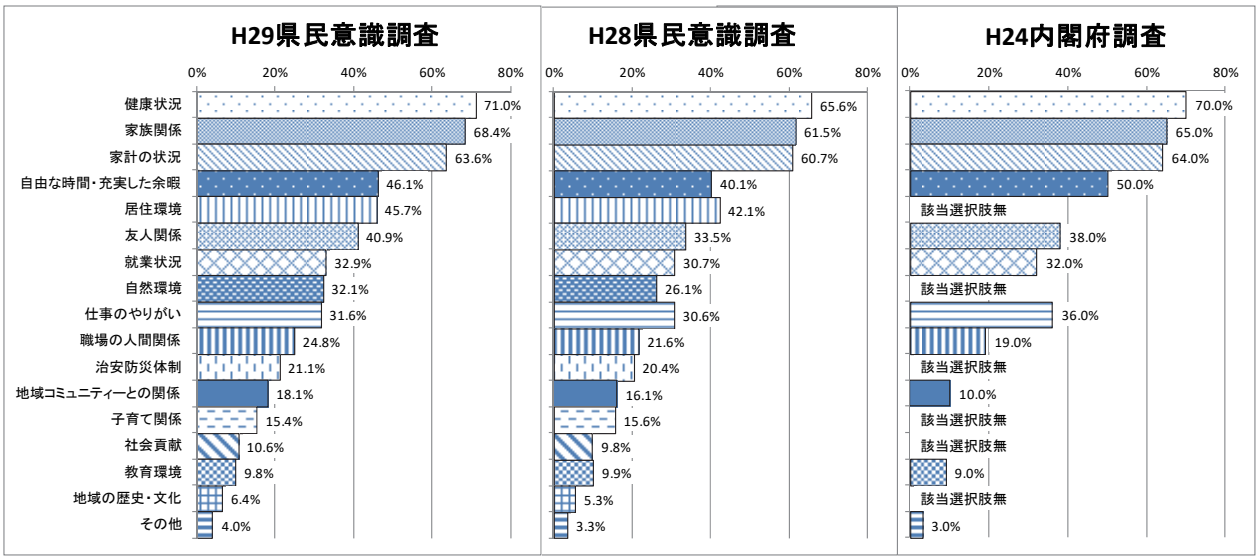
	全体	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1位	健康状況	健康状況	健康状況	友人関係	自由な時間充実した余暇	家計の状況	家族関係	健康状況	健康状況	健康状況
2位	家族関係	家計の状況	家族関係	自由な時間充実した余暇	健康状況	家族関係	家計の状況	家族関係	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家族関係	家計の状況	健康状況	家族関係	健康状況	健康状況	家計の状況	家計の状況	家計の状況
4位	自由な時間充実した余暇	居住環境	自由な時間充実した余暇	家族関係	友人関係	自由な時間充実した余暇	就業状況	居住環境	居住環境	居住環境
5位	居住環境	自由な時間充実した余暇	居住環境	家計の状況	家計の状況	就業状況	自由な時間充実した余暇	就業状況	自由な時間充実した余暇	自由な時間充実した余暇
6位	友人関係	友人関係	友人関係	居住環境	就業状況	居住環境	居住環境	自由な時間充実した余暇	自然環境	友人関係
7位	就業状況	仕事のやりがい	就業状況	就業状況	仕事のやりがい	友人関係	仕事のやりがい	仕事のやりがい	友人関係	自然環境
8位	自然環境	就業状況	自然環境	教育環境	職場の人間関係	仕事のやりがい	職場の人間関係	友人関係	仕事のやりがい	治安防災体制
9位	仕事のやりがい	自然環境	仕事のやりがい	自然環境	居住環境	職場の人間関係	友人関係	職場の人間関係	就業状況	地域コミュニティーとの関係
10位	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	仕事のやりがい	自然環境	子育て関係	子育て関係	自然環境	治安防災体制	仕事のやりがい

平成28年

	全体	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1位	健康状況	健康状況	健康状況	－	自由な時間充実した余暇	家計の状況	家計の状況	健康状況	健康状況	健康状況
2位	家族関係	家計の状況	家族関係	－	家族関係	家族関係	健康状況	家計の状況	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家族関係	家計の状況	－	健康状況	健康状況	家族関係	家族関係	家計の状況	家計の状況
4位	居住環境	居住環境	居住環境	－	家計の状況	就業状況	就業状況	居住環境	居住環境	居住環境
5位	自由な時間充実した余暇	自由な時間充実した余暇	自由な時間充実した余暇	－	友人関係	自由な時間充実した余暇	自由な時間充実した余暇	就業状況	自由な時間充実した余暇	自由な時間充実した余暇
6位	友人関係	仕事のやりがい	友人関係	－	就業状況	仕事のやりがい	仕事のやりがい	自由な時間充実した余暇	友人関係	友人関係
7位	就業状況	就業状況	就業状況	－	仕事のやりがい	居住環境	居住環境	仕事のやりがい	自然環境	自然環境
8位	仕事のやりがい	友人関係	仕事のやりがい	－	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	友人関係	仕事のやりがい	治安防災体制
9位	自然環境	自然環境	自然環境	－	居住環境	友人関係	友人関係	自然環境	就業状況	地域コミュニティーとの関係
10位	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	－	子育て関係	子育て関係	子育て関係	職場の人間関係	治安防災体制	仕事のやりがい

調査対象外

図５　幸福かどうか判断する際に重視した項目（割合）



出所：H24 内閣府調査は、内閣府経済社会総合研究所(2013)『生活の質に関する調査』をもとに研究会で作成。

図６　主観的幸福感が高い層が重視する項目

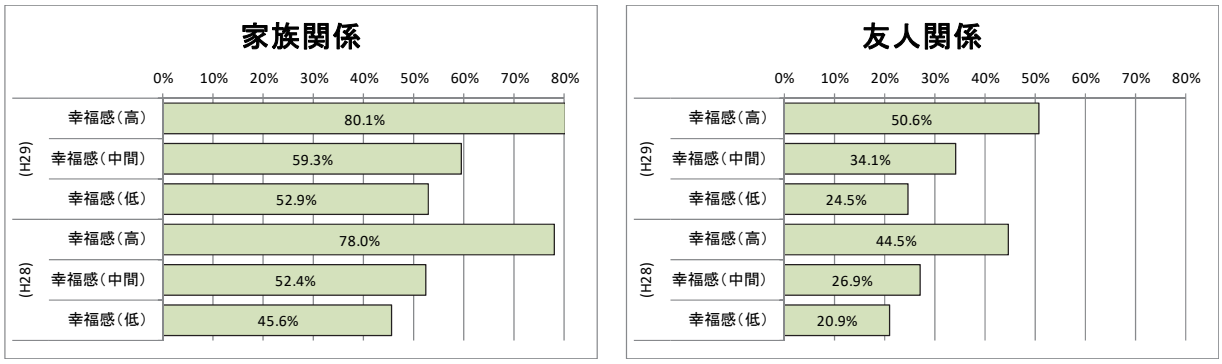
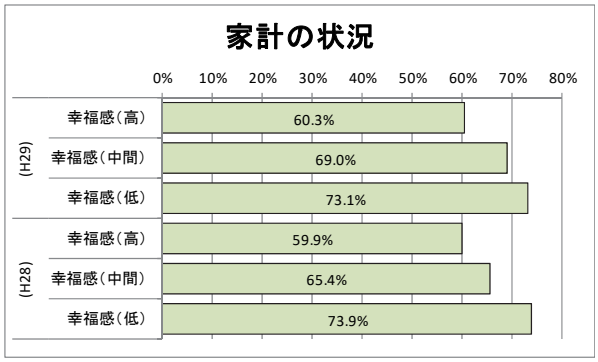


図７　主観的幸福感が低い層が重視する項目



［凡例］　・幸福感（高）：主観的幸福感の設問で、「幸福」「やや幸福」を選択した回答者
・幸福感（中間）：主観的幸福感の設問で、「どちらでもない」を選択した回答者
・幸福感（低）：主観的幸福感の設問で、「あまり幸福でない」「幸福でない」を選択した回答者

３　領域別実感

第１節で設定した主観的幸福感に関連するとされた 12 の領域について、県民意識調査でそれらの実感（領域別実感）を調査したところ、次の結果となりました。

平成 28 年と平成 29 年の調査で類似の結果が得られたことから、領域別実感と主観的幸福感及び生活満足度との関係性は、短期間で大きく変化しないものと考えられます。

○　第１節で設定した 12 領域は、強弱の差はあるものの、**主観的幸福感と一定の相関が確認できたことから、全ての領域が主観的幸福感に関連する**と考えられる。

○　「家族」や「安全」に関する実感が高く、「健康」、「子育て」、「余暇」及び「収入」に関する実感が低い。

○　領域別実感と主観的幸福感及び生活満足度の相関を比較すると、生活満足度は収入との相関が高く、主観的幸福感は家族や健康等の非経済的要素との相関が高い傾向が確認できた。

図８　領域別実感

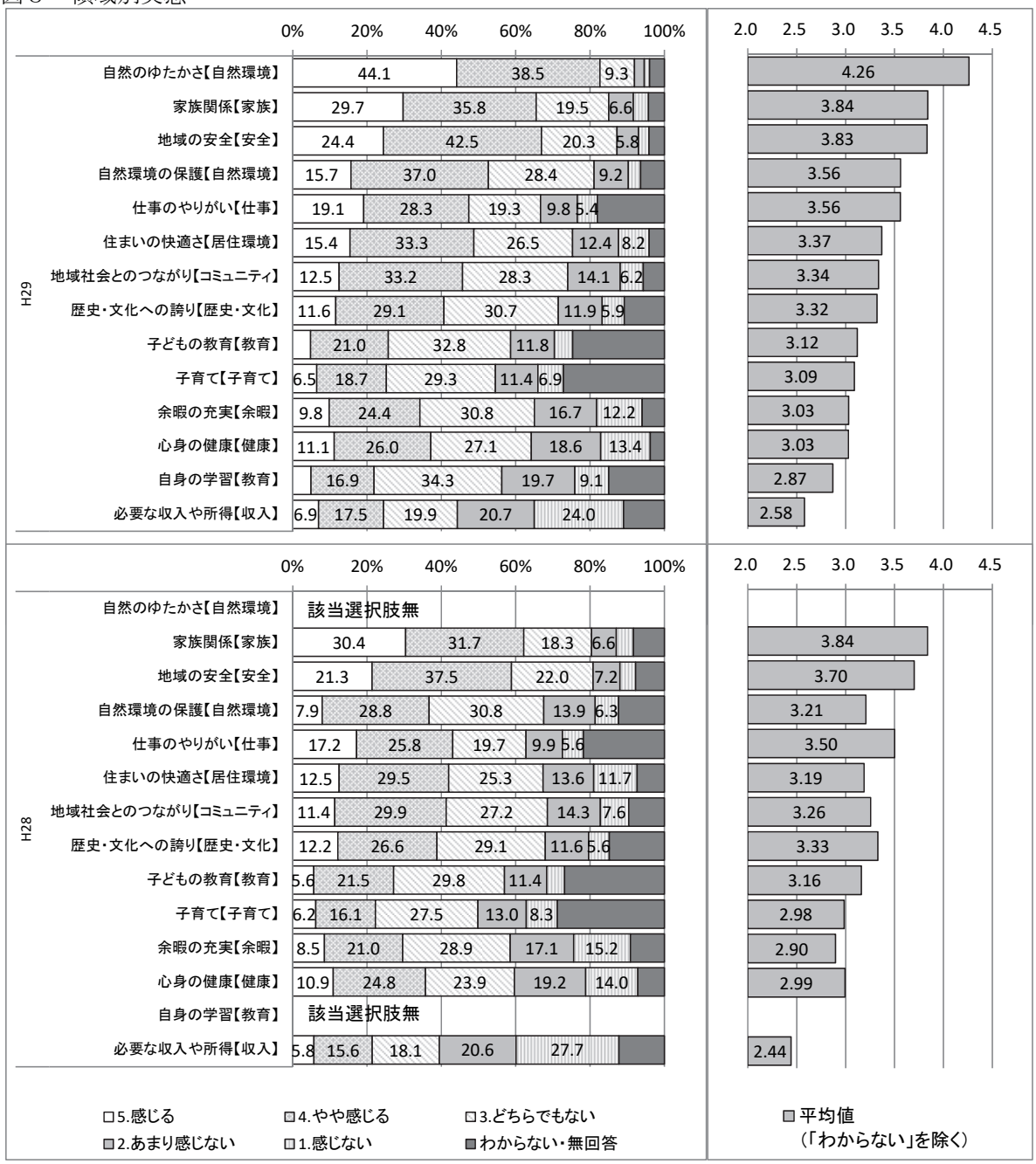


表６　主観的幸福感と領域別実感の相関

順位	項目名	相関係数	
		H29	（参考）H28
1	家族関係	0.51	0.52
2	余暇の充実	0.49	0.53
3	心身の健康	0.47	0.50
4	住まいの快適さ	0.47	0.50
5	子育て	0.42	0.40
6	必要な収入や所得	0.40	0.41
7	仕事のやりがい	0.38	0.42
8	自身の学習	0.33	－
9	地域社会とのつながり	0.33	0.33
10	歴史・文化への誇り	0.30	0.24
11	地域の安全	0.29	0.34
12	子どもの教育	0.26	0.28
13	自然のゆたかさ	0.20	－
14	自然環境の保護	0.18	0.24

表７　生活満足度と領域別実感の相関

順位	項目名	相関係数	
		H29	（参考）H28
1	必要な収入や所得	0.50	0.46
2	余暇の充実	0.45	0.44
3	住まいの快適さ	0.44	0.44
4	心身の健康	0.39	0.40
5	子育て	0.36	0.34
6	家族関係	0.33	0.31
7	自身の学習	0.32	－
8	仕事のやりがい	0.30	0.30
9	地域社会とのつながり	0.28	0.28
10	地域の安全	0.28	0.30
11	歴史・文化への誇り	0.27	0.18
12	子どもの教育	0.27	0.23
13	自然環境の保護	0.19	0.23
14	自然のゆたかさ	0.14	－

領域別実感の調査項目

平成 28 年調査は、各領域 1 問ずつ、計 12 の設問を設定しました。

平成 29 年調査は、【教育】領域として、「子どもの教育」に加え「自身の教育」を追加しました。また、【自然】領域として、「自然環境の保護」に加え「自然環境のゆたかさ」を追加しました。この結果、平成 29 年は、計 14 の設問を設定しました。

参考４　相関とは

相関とは、対になっている２つの事象間のかかわりのことを言い、相関係数が１に近いほど両者の相関が高いことを示します。

本報告書で使用した相関係数の大きさの目安は、下表のとおりです。

なお、相関があるからと言って、必ずしも一方の事象が他方の原因及び結果であるという、因果関係を示すものではないことに留意する必要があります。

表　相関係数の大きさの目安

相関係数の値	解釈の目安
0.7＜｜相関係数｜≦1.0	高い相関がある
0.4＜｜相関係数｜≦0.7	かなり相関がある
0.2＜｜相関係数｜≦0.4	相関はあるが低い
0.0≦｜相関係数｜≦0.2	ほとんど相関はない

出所：山上暁・倉智佐一（2003）『新版　要説心理統計法』、北大路書房。

4　協調的幸福感

岩手が目指すゆたかさを示す指標の一つとして設定を検討していた「協調的幸福感」について、平成 29 年県民意識調査で、他者との協調性や平穏な感情、人並み感等を調査したところ、次の結果となりました。

○　協調的幸福感は、主観的幸福感とかなりの相関が、領域別実感と一定の相関がそれぞれ確認できた。領域別実感との相関に比べ、**主観的幸福感との相関が大きいことから、主観的幸福感に直接関連する**ものと考えられる。

○　先行研究等からも主観的幸福感との因果関係が明確ではなく、また、政策として関与しにくい概念であるものの、**岩手ならではの生き方といった観点から重要な視点であることから、今後も継続的に把握が必要な参考的指標**として位置付ける。

図９　協調的幸福感

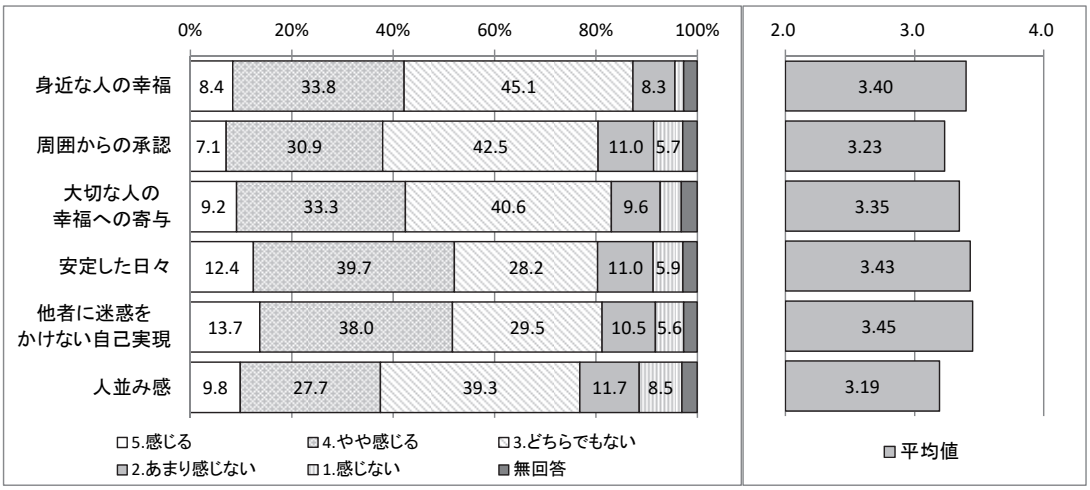


表８　協調的幸福感と主観的指標（主観的幸福感・領域別実感）の相関

協調的幸福感	主観的幸福感	領域別実感													
		仕事	収入	居住環境	安全	余暇	健康	子育て	教育		家族	コミュニティ	歴史文化	自然環境	
		仕事のやりがい	必要な収入や所得	住まいの快適さ	地域の安全	余暇の充実	心身の健康	子育て	自身の学習	子どもの教育	家族関係	地域社会とのつながり	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ	自然環境の保護
身近な人の幸福	0.32	0.19	0.20	0.24	0.23	0.29	0.24	0.27	0.23	0.28	0.23	0.23	0.24	0.18	0.21
周囲からの承認	0.42	0.36	0.30	0.32	0.25	0.33	0.39	0.32	0.30	0.26	0.34	0.35	0.32	0.23	0.25
大切な人の幸福への寄与	0.51	0.26	0.27	0.34	0.23	0.37	0.40	0.37	0.29	0.28	0.46	0.26	0.25	0.15	0.20
安定した日々	0.60	0.34	0.41	0.43	0.31	0.47	0.48	0.41	0.31	0.28	0.45	0.31	0.28	0.18	0.21
他者に迷惑をかけない自己実現	0.49	0.29	0.34	0.35	0.28	0.45	0.43	0.33	0.33	0.25	0.36	0.30	0.20	0.16	0.20
人並み感	0.67	0.32	0.40	0.44	0.31	0.46	0.48	0.41	0.35	0.27	0.45	0.35	0.30	0.20	0.20

0≦r≦0.2　　0.2＜r≦0.4　　0.4＜r≦0.7

5　ソーシャル・キャピタル

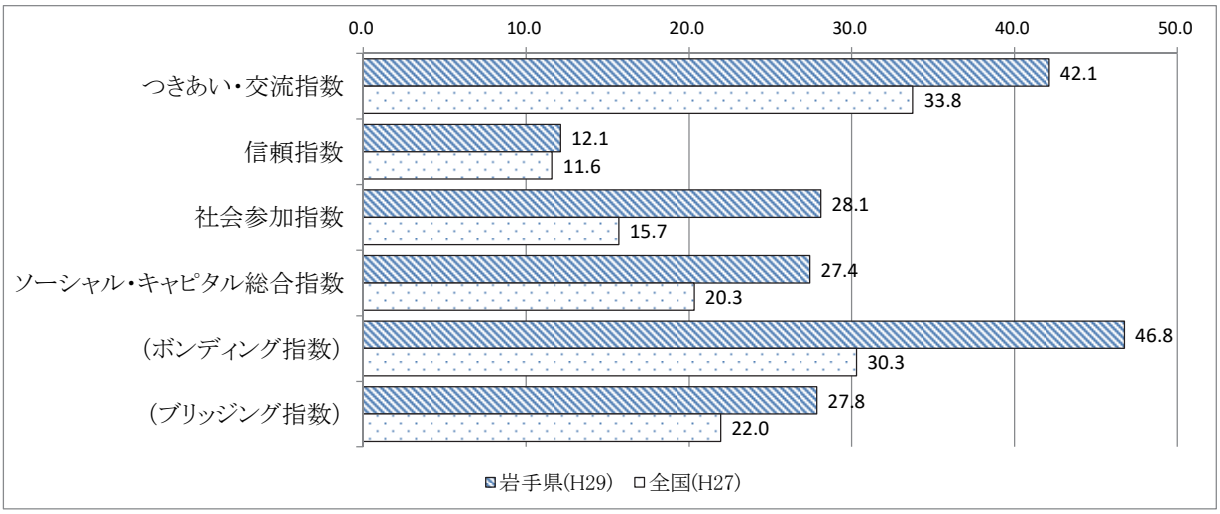
岩手が目指すゆたかさを示す指標の一つとして設定を検討していた「ソーシャル・キャピタル」について、平成 29 年県民意識調査で、周囲との付き合いや地域での活動状況等（ソーシャル・キャピタル）、そして、それらに対する実感（ソーシャル・キャピタルに対する実感）について調査したところ、次の結果となりました。

○　他の全国調査結果と比較すると、**本県のソーシャル・キャピタルは、多くの項目で全国より高い傾向**が確認できた。

○　ソーシャル・キャピタルに対する実感は、主観的幸福感及び領域別実感との間に一定の相関が確認できた。また、ソーシャル・キャピタルが高い（交流が多い、活動が頻繁など）人ほど主観的幸福感が高い傾向にあった。

○　このことから、**岩手が目指すゆたかさである「つながり」を示す概念として、ソーシャル・キャピタルを全領域に関連する横断的な主観的・客観的指標**として位置付ける。

図 10　ソーシャル・キャピタル指数（全国との比較）



※全国の数値は、滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所（2016）『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』より抜粋した。各指数の意味、算出方法については、別冊参考資料５　90～91 ページを参照のこと。

表９　ソーシャル・キャピタルに対する実感と主観的指標（主観的幸福感・領域別実感）の相関

ソーシャル・キャピタルに対する実感等	主観的幸福感	領域別実感													
		仕事	収入	居住環境	安全	余暇	健康	子育て	教育		家族	コミュニティ	歴史文化	自然環境	
		仕事のやりがい	必要な収入や所得	住まいの快適さ	地域の安全	余暇の充実	心身の健康	子育て	自身の学習	子どもの教育	家族関係	地域社会とのつながり	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ	自然環境の保護
地域への愛着感	0.30	0.29	0.21	0.32	0.27	0.28	0.22	0.25	0.31	0.30	0.21	0.43	0.44	0.31	0.25
近所付き合い実感	0.25	0.21	0.16	0.28	0.26	0.24	0.24	0.25	0.28	0.28	0.22	0.49	0.31	0.26	0.21
信頼できる人がいる実感	0.31	0.25	0.18	0.24	0.24	0.29	0.26	0.25	0.26	0.25	0.26	0.40	0.33	0.25	0.17
地域活動等への参加実感	0.25	0.26	0.18	0.21	0.16	0.28	0.25	0.25	0.33	0.27	0.18	0.46	0.34	0.20	0.16

0≦r≦0.2　　0.2＜r≦0.4　　0.4＜r≦0.7

第３節　指標体系等の設定

先行研究や先行事例及び県民意識調査結果で得られた県民の実感を踏まえ、岩手の幸福に関する指標の体系等を以下のとおり設定しました。

1　指標体系の設定

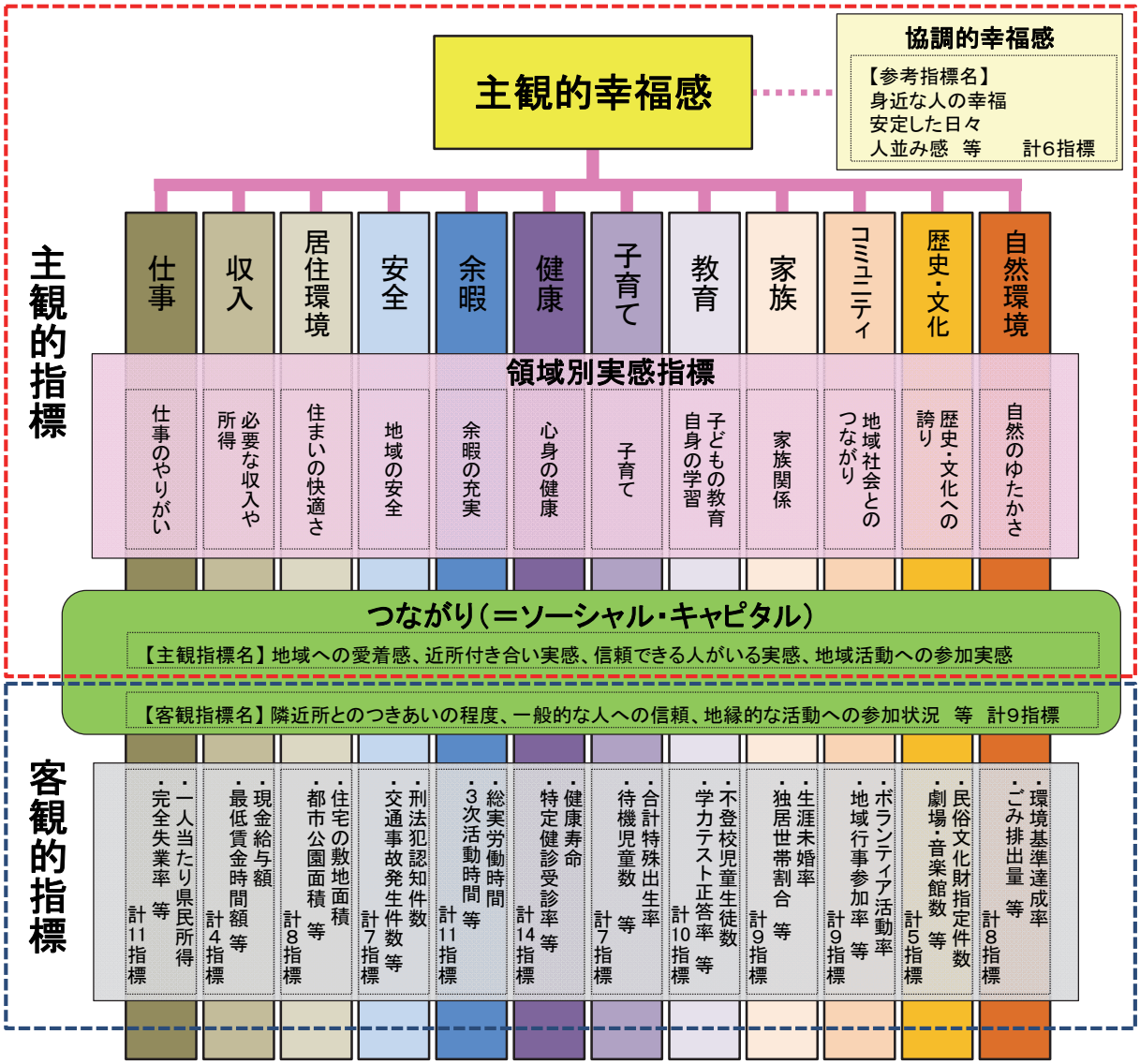
○　主観的幸福感に関連する領域を以下の 12 領域とし、指標体系を図 11 のとおりとする。

【仕事】、【収入】、【居住環境】、【安全】、【余暇】、【健康】、【子育て】、【教育】、【家族】、【コミュニティ】、【歴史・文化】、【自然環境】

○　ソーシャル・キャピタルは【つながり】として、12 領域に関連する横断的な主観的、客観的指標とする。

○　【協調的幸福感】は、今後も継続的に把握が必要な概念として、参考指標とする。

図 11　岩手の幸福に関する指標の体系



※客観的指標については、あくまで例を選定したものであり、活用段階でより適切な指標があった場合は適宜加除、修正が必要なものであること。

２　主観的指標の設定

具体的な主観的指標と、それを把握するための設問を、それぞれ以下のとおり設定しました。

○　主観的指標は、総合的な幸福を示す**主観的幸福感**、関連する領域ごとに設定した**領域別実感**、すべての領域に関連する**つながり**で構成する。

○　主観的幸福感、領域別実感及びつながりは、それぞれ県民意識調査等で把握されることから、その指標名は設問と一体的なものとし、表 10～12 のとおり設定する。

表 10　主観的幸福感

指標名	設問
主観的幸福感	あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか

表 11　領域別実感

領域	指標名	設問
仕事	仕事のやりがい	仕事にやりがいを感じますか
収入	必要な収入や所得	必要な収入や所得が得られていると感じますか
居住環境	住まいの快適さ	住まいに快適さを感じますか
安全	地域の安全	お住まいの地域は安全だと感じますか
余暇	余暇の充実	余暇が充実していると感じますか
健康	心身の健康	こころやからだが健康だと感じますか
子育て	子育て	子育てがしやすいと感じますか
教育	子どもの教育	子どものためになる教育が行われていると感じますか
	自身の学習	あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか
家族	家族関係	家族と良い関係がとれていると感じますか
コミュニティ	地域社会とのつながり	地域社会とのつながりを感じますか
歴史・文化	歴史・文化への誇り	地域の歴史や文化に誇りを感じますか
自然環境	自然のゆたかさ	自然に恵まれていると感じますか

表 12　つながり（ソーシャル・キャピタルに対する実感）

指標名	設問
地域への愛着感	地域への愛着を感じていますか
近所付き合い実感	ご近所とのつきあいはよいと感じますか
信頼できる人がいる実感	信頼できる人が身近にいると感じますか
地域活動への参加実感	地域での活動や社会貢献活動に参加できていると感じますか

３　客観的指標例の設定

客観的指標例は、各領域に関連すると思われる指標項目を複数設定し、指標項目ごとに別紙のとおり選定しました。指標選定に当たっての考え方は次のとおりです。

なお、選定した指標はあくまで一例であることから、指標の活用段階でより適切な指標があった場合、適宜加除、修正が必要です。

○　先行研究やいわて県民計画第３期アクションプラン等から、以下の視点により指標の具体例を選定する。

(1)　アウトカムを測定できるデータであること

(2)　調査頻度が高く、経年変化を把握できるデータであること

(3)　全国比較が可能であり、岩手の強みや弱みを的確に把握できるデータであること

４　岩手が目指すゆたかさを示す指標

岩手が目指すゆたかさを示す指標として、協調的幸福感とソーシャル・キャピタルを、次のとおり設定しました。

○　県民意識調査の結果から、**ソーシャル・キャピタルはつながりとして、12 の全領域に関連する横断的な主観的・客観的指標**として位置付け、表 13 のとおり設定する。

○　**協調的幸福感は、主観的幸福感と直接関係がある参考的指標**として位置付け、表 13 のとおり設定する。

表 13　岩手が目指すゆたかさを重視した指標

項目	種類	指標名
つながり	主観的指標 【再掲】 ※詳細は表 12	①地域への愛着感
		②近所付き合い実感
		③信頼できる人がいる実感
		④地域活動への参加実感
	客観的指標 【再掲】 ※詳細は別紙	①隣近所とのつきあいの程度
		②隣近所とつきあっている人の数
		③友人・知人とのつきあいの頻度
		④親戚とのつきあいの頻度
		⑤スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況
		⑥一般的な人への信頼※
		⑦見知らぬ土地での人への信頼※
		⑧地縁的な活動への参加状況
		⑨ボランティア・ＮＰＯ・市民活動への参加状況
協調的幸福感	参考指標	①身近な人の幸福
		②周囲からの承認
		③大切な人の幸福への寄与
		④安定した日々
		⑤他者に迷惑をかけない自己実現
		⑥人並み感

※　「つながり」の客観的指標⑥、⑦については、主観的側面が強い設問ではあるが、主観的指標を補足するために設定された指標であることから、便宜的に客観的指標として位置付けた。

第４章　県民参画の手法

幸福研究の目的について県民に理解していただくとともに、県民の意見を聴き、また、幸福について考えていただくきっかけとするため、県民参画の取組を進める必要があります。

そこで、県民参画の取組の一環として、新たにワークショップを試行的に開催することで、「ワークショップの手引き」を作成するとともに、ワークショップの際に議論のきっかけとするためのツールとして、「幸福カルテ」を策定しました。

１　ワークショップの試行的開催

ワークショップの手順や、参加者の幸福を簡便に把握し議論のきっかけとするためのツールを検討するため、学生や一般の方を対象としたワークショップを、以下の内容で開催しました。

ワークショップの概要は別冊参考資料２のとおりです。

表 14　ワークショップの開催結果

開催時期	場所	備考
平成 29 年１月 12 日（木） 13：00～15：30	ホテルエスポワールいわて	県内在住の大学生 18 人
平成 29 年３月 16 日（木） 18：30～21：30	岩手県民会館	県内外の一般の方 12 人
平成 29 年７月５日（水） 14：40～16：10	岩手県立大学	岩手県立大学生８人

表 15　ワークショップの主な手順（詳細は別冊参考資料３を参照のこと。）

項目	内容
１　「幸福カルテ」の作成	参加者全員で幸福カルテ（図 12 参照）を作成します。
２ 結果について意見交換	数人の班に分かれ、自分の幸福カルテの特徴を紹介します。 全員が発表後、それらの結果をもとに班内で意見交換します。
３ 岩手県の特徴の共有	コーディネータから、岩手県の特徴を統計データ等から説明し、参加者全員で共有します。
４ 幸福を高めるためにどうするかの検討	①各自、岩手の良い点、悪い点を付せんに書き出し、内容を紹介しながら、模造紙等に貼り付けていきます。 ②①の結果を参考に、各自、「さらに幸福を高めるためにはどうすればよいか」を付せんに書き出し、内容を紹介しながら、模造紙等に貼り付けていきます。 ③①、②の結果を参考に、今後自分は「誰の」幸福を高めるために「何」をするかを「幸福宣言」（図 13 参照）にまとめ、班内で発表します。
５ 全体発表	班ごとに、検討結果を発表します。

２　「ワークショップの手引き」の作成

○　ワークショップの試行結果を踏まえ、県民がいつでも、どこでもワークショップを開催できるマニュアルとして、**「ワークショップの手引き」を別冊参考資料３のとおり作成**した

○　自身の幸福を簡便的に「見える化」でき、ワークショップの際の議論のきっかけとするためのツールとして、**「幸福カルテ」を図 12 のとおり策定**し、手引きに盛り込んだ。

○　「ワークショップの手引き」と「幸福カルテ」は、ウェブサイトに掲載することで、興味ある方がいつでも使用できるようにする。

図 12　幸福カルテのイメージ

「幸福カルテ」記載手順

①重視度の記入　あなたが 12 のどの領域を重視しているのかがわかります

②実感の記入　あなたが 12 のどの領域に満足し、不満を持っているのかがわかります。

③点数化　①、②の結果から、あなたの幸福を総合的に点数化します。

④グラフ化　①、②の結果をグラフ化します。グラフから、あなたが重視している（していない）領域と満足している（していない）領域等のギャップが一目でわかります。

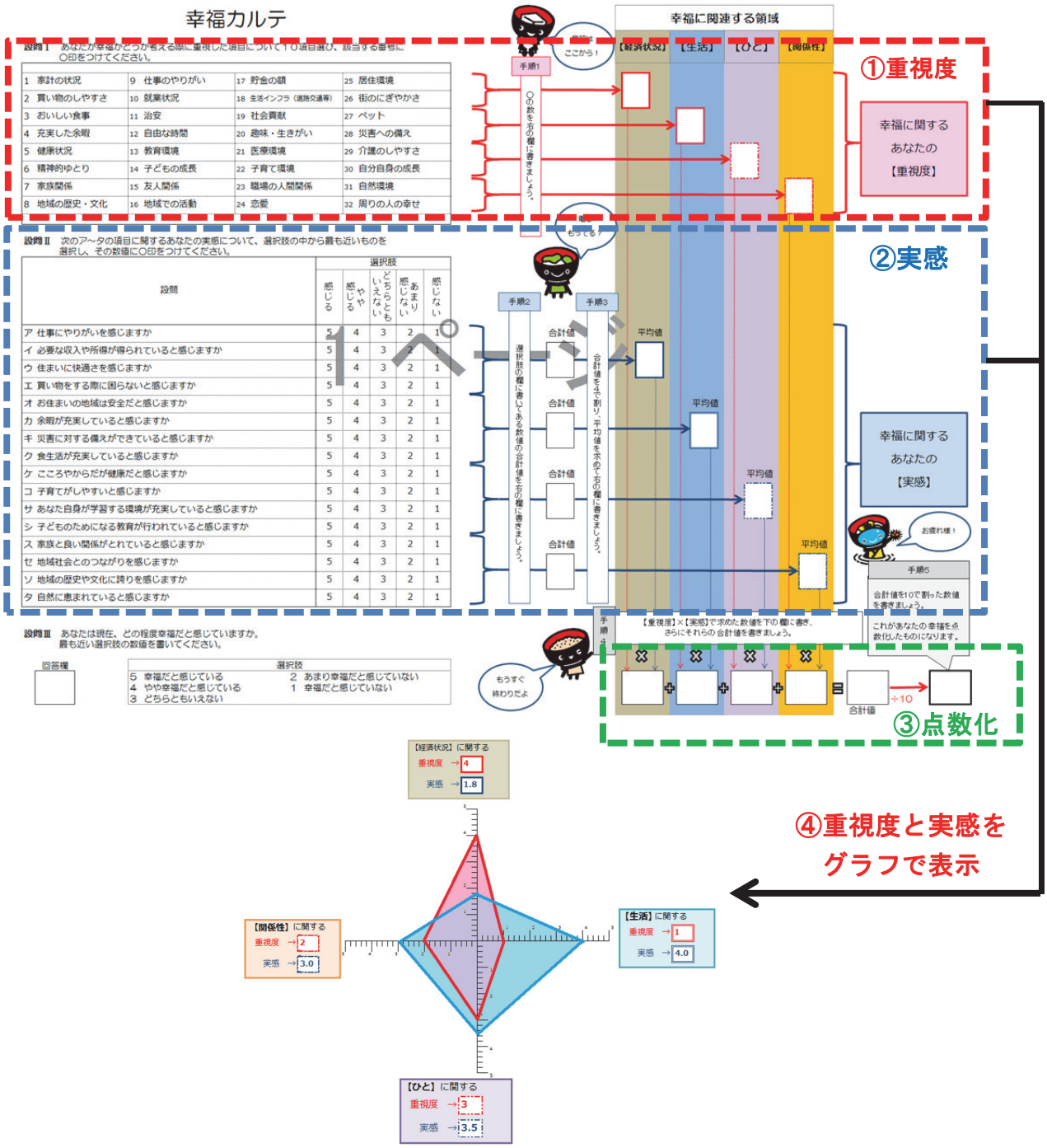


図 13　幸福宣言のイメージ

私は、＿＿＿＿＿＿の幸福を高めるために＿＿＿＿＿＿をします

「幸福宣言」の記載手順

ワークショップで「さらに幸福を高めるためにどうするか」を議論した後、参加者全員が、「誰の」幸福を高めるために「何」をするか、考え、その結果を下線部分に記入し、「私の幸福宣言」として発表します。

※ワークショップ参加者の幸福宣言の内容を別冊参考資料２に示した。

第５章　未来の幸福に向けて

本研究会では、「岩手の幸福に関する指標」の次期総合計画への反映等を通じて、個人として、また、社会として幸福を求めることができる岩手県を目指すため、幸福に関する指標について研究を重ねてきました。これまでの研究結果、指標を活用する際の留意点、そして、県、市町村、県民の皆さんなど、指標を活用する方々に向けた今後への期待について、以下のとおり整理しました。

１　研究結果のまとめ

(1) 本報告書の要旨

本報告書では、第１章で、幸福に関する指標を研究する意義や背景を確認した後、第２章で、指標策定の基本方針を、「新たな施策の展開に活用できる指標とすること」、「県民の実感を踏まえた指標とすること」、「物質的なゆたかさに加え、岩手が目指すゆたかさにも着目した指標とすること」の３つに定めました。

第３章では、第１節で、国内外の先行研究や先行事例を参考に主観的幸福感に関連する領域を検討したほか、主観的指標を中心に客観的指標で補足する指標体系とすること、岩手の特徴的指標として「協調的幸福感」、「ソーシャル・キャピタル」の設定を検討することとしました。

そして第２節、第３節では、県民の実感を把握するために実施した県民意識調査の結果から、主観的幸福感に関連する領域を「仕事」、「収入」、「居住環境」、「安全」、「余暇」、「健康」、「子育て」、「教育」、「家族」、「コミュニティ」、「歴史・文化」、「自然環境」の 12 としたほか、協調的幸福感は参考指標として、ソーシャル・キャピタルは全領域に関連する横断的な主観的・客観的指標として位置付けました。また、それらの主観的指標を補足する客観的指標例として、96 個の指標例を選定しました。

さらに第４章では、県民参画の取組として新たに「幸福について考えるワークショップ」を試行的に３回開催することで、「ワークショップの手引き」を作成しました。また、ワークショップ参加者の議論のきっかけとするため、自身の幸福を「見える化」できるツールとして「幸福カルテ」を策定しました。

最後に第５章で、本報告書の要旨をまとめるとともに、指標を活用する際の留意点、そして指標を活用する方々に向けた今後への期待について整理しました。

(2) 本研究会の特徴的取組

幸福を施策の展開に活用しようとする取組はいくつかの先行事例があり、本研究会ではそれらの先行事例を参考に研究を進めてきましたが、同時に、研究を進めるに当たって、いくつかの特徴的と思われる取組を試みてきました。

本研究会の特徴的な取組の一つは、「県民の実感を踏まえること」、「岩手ならではの視点を考慮すること」が重要であるとの視点から、県民意識調査の結果を重視しながら検討を進めてきたことです。県民意識調査は、毎年 5,000 人を対象に各種施策の重要度や満足度を把握しているもので、平成 28 年と平成 29 年に新たに幸福に関する調査項目を追加し、平成 28 年には 3,576 人、平成 29 年には 3,422 人から回答をいただきました。これらの調査結果から、県民の実感を定量的に把握することで、以下の２点が明らかになりました。

① 比較的新しい概念であるとされる「協調的幸福感」が、岩手県では主観的幸福感と強い関連性を持つこと。

② 岩手県の特徴の一つと考えられている「ソーシャル・キャピタル」は、全国よりも高い傾向にあると考えられ、主観的幸福感に関連する全ての領域と横断的に関連していること。

これらの結果から、宮沢賢治の「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉に表される「他人とのかかわり」や「つながり」を考慮した、岩手のならではの指標体系を設定することができたと考えています。今後は、県民意識調査を継続して実施することで、指標体系の妥当性が検証されることを期待します。

特徴的な取組の二つ目は、幸福について県民と一緒に考えるための県民参画の取組として、ワークショップを試行的に開催してきたことです。本研究会では、幸福に関する指標の研究は、その内容を県民に理解してもらう必要があるだけでなく、幸福について考えてもらうきっかけとなるべきであるとの考えから、県民を対象としたワークショップを３回開催することで、幸福について考える県民参画の方法についても検討を重ねてきました。

その結果、誰もが、いつでも、どこでもワークショップができるように「ワークショップの手引き」を作成するとともに、ワークショップの参加者が自身の幸福を「見える化」できるツールとして「幸福カルテ」を策定することができました。今後は、ワークショップの手引きを活用した県民参加の取組が広く展開されることを期待します。

(3) 本研究で得られたその他の知見

本来の所掌事項ではないものの、県民意識調査の分析等の研究過程で得られた、岩手県における興味深い知見を、以下のとおり整理しました。

① 幸福感（主観的幸福感）は生活満足度よりも高く、両者の結果は異なる傾向にある。

具体的には、幸福感は家族や健康といった非経済的要素との相関が高いのに対し、生活満足度は収入との相関が高い。また、属性別の傾向にも差があり、幸福感は年齢階層別での差が確認できず、また、子どもがいるほうが高いが、生活満足度は年齢階層別では 70 歳以上が最も高く 30 歳代を底とするＵ字型を描き、また、子どもの有無の影響は確認できない。

② 幸福を判断する際に重視する項目は、20 歳代は自由時間・余暇を、30 歳代は家計の状況を、50 歳以上は健康状況を選択する傾向にあり、年齢階層別に差がある。また、幸福感が高い人ほど家族や友人等との関係性を重視する傾向にあり、幸福感が低い人ほど家計の状況を重視する傾向にある。

③ 協調的幸福感が高い人は幸福感も高い傾向にあり、両者には強い相関がある。一方で、幸福感は年齢階層別で有意な差が確認できないのに対し、協調的幸福感の多くは 70 歳以上が最も高く 30～40 歳代を底としたＵ字型を描いており、年齢階層別では差がある。

他者との協調、平穏な感情、人並み感に代表される協調的幸福感が幸福感と強い相関があることが確認できたことは岩手の特徴の一つでもあると考えることができ、岩手県民の気質を把握する上でも重要な指標であると考えられる。

④ 岩手県のソーシャル・キャピタルは、性別、年齢階層別の差を考慮しても、全国平均より高い傾向にあると考えられる。また、岩手県のソーシャル・キャピタルは 30～40 歳代が低く、60 歳以上が高い傾向にある。

ソーシャル・キャピタルが高い人（交流が多い、活動が頻繁であるなど）は活動に対する実感も高く（良い状況であると感じている）、かつ幸福感も高い傾向にあることから、近年、近所付き合い等に対する煩わしさから他者との交流に否定的な見解が見られるものの、岩手県では、自らの意思に反してそれらの活動を行っている人の割合は小さいと考えられる。

２　指標を活用するに当たって

研究会の議論の中で、本報告書で設定した指標を政策等に活用する際、留意が必要とされた事項は以下のとおりです。

①　主観的幸福感、領域別実感の数値について

幸福に関する指標策定の目的は、「個人として、また、社会として幸福を求めることができる岩手県を目指すため」（第１章）のものであり、主観的幸福感や領域別実感等の「主観的指標は、短期的な数値の増減に着目するのではなく、長期的な視点での数値の維持・向上を図るという観点で設定する」（第３章）ものであることから、目標値を設定して管理するべき性質のものではないことを改めて確認する必要がある。

②　客観的指標例について

本研究会で提示した客観指標は一例であり、これをもって客観指標の項目例を全て網羅しているわけではなく、次に記載のとおり必ずしも数値の価値判断が明確ではないものも含まれていることから、今後の活用過程等では、改めてより適切な指標の設定について検討する必要がある。

なお、客観的指標例は、県全体の視点からを選択したものであることから、各個人の意識や生活環境には必ずしも当てはまらないものも含まれている可能性がある。

③　数値の価値判断について

客観的指標例は、主観的指標のみではとらえにくい点を補足する目的で策定しているため、三世代同居率や生涯未婚率等、個人の自由にかかわるものや、その高低の価値判断が困難なものも含まれている。

それらの指標を活用する場合は、行政が一義的に良し悪しを評価するのではなく、岩手の状況がわかる指標として長期にわたってその動向を注視するものとして扱う必要がある。

④　東日本大震災津波の影響について

客観的指標例の中には、一人当たり県民所得など東日本大震災津波の影響のために過去の傾向に比べ現状値が大きく乖離しているものも含まれている。

それらの指標を活用する場合は、震災前からの長期的傾向を勘案するなど、適切に経年を把握する必要がある。

⑤　マクロの視点とミクロの視点について

有効求人倍率は、全産業平均値は 1.0 倍を超過しているものの、産業別や正規・非正規別では 1.0 倍を下回る場合があるなど、集計することで、見えなくなる課題もある。

主観的指標にも共通することではあるが、指標を評価する際は、ミクロな視点も持つ必要がある。

３　今後への期待

最後に、研究会として、未来の幸福に向け、今後本報告書を活用する方々に期待することを、以下のとおり整理しました。

①　指標体系には直接関係しない施策について

本研究会は、「第２章 指標策定の基本方針等」で前述したとおり、幸福に対する県民の実感を踏まえた内容となっているため、生活者（平均的な県民）の視点が重視されている。

一方、岩手県の経済、安全、生活など県民の基礎的ニーズを充足させるためには、産業政策やインフラの整備・管理など、生産者（特定の県民）の視点も重要であることから、幸福指標を政策等に活用する際は、その点に十分な配慮がなされることを期待する。

②　幸福の世代間衡平性について

社会が持続的に発展していくためには、「将来の世代が自らのニーズを充足する能力を損なうことなしに、現在の世代のニーズを満たすことが必要[3]」といわれており、幸福は現在世代のことだけでなく、将来世代のことも十分に考慮して検討する必要がある。

幸福に関する指標を政策等に活用する際は、現役世代の幸福のみを優先することなく、将来にわたり社会の幸福が持続可能となるよう、自然環境、インフラ、社会制度などについても、十分な考慮がなされることを期待する。

③　県民意識調査の継続的実施について

主観的指標は、短期的な数値の増減に着目するのではなく、長期的な視点での数値の維持・向上を図るという観点で設定する必要があることから、主観的指標を把握するための県民意識調査は、可能な限り調査設計を変更することなく、継続されることを期待する。

また、統計データの制約から、適切な客観的指標を設定できない領域があることから、統計データが存在しないもので県民の行動等で代替できるものは、県民意識調査等で独自に把握できるようになることを期待する。

④　県民意識調査に回答しない方の意識について

本研究会では、県民意識調査で県民の実感を把握してきたが、調査対象となったものの調査に回答しなかった方は、回答した方と異なる意識である可能性が高い。県民一人ひとりに寄り添った県政を推進するため、県民意識調査に回答しなかった方の「声なき声」に思いを至す姿勢を忘れないことを期待する。

⑤　ワークショップの実施について

「ワークショップの手引き」は、幸福研究の目的について県民に理解してもらうことや県民の意見を聴くことだけでなく、県民一人ひとりが幸福について考えてもらうきっかけとするための取組の一つとして作成したものである。次期総合計画の策定過程だけでなく、ワークショップ等を活用した県民参加の取組が継続されることを期待する。

⑥　本研究会での研究成果の活用について

本報告書を皮切りに、個人や地域の幸福を考えてみようという動きが広がることで、それぞれの地域にふさわしい内容に修正されながら、研究結果が広く活用されることを期待する。

---

[3] 環境と開発に関する世界委員会（1987）『地球の未来を守るために“Our Common Future”』。

◆　委員・アドバイザー所感

○吉野英岐座長（岩手県立大学総合政策学部　教授）

幸福は誰にとっても関心の高い言葉だと思いますが、その感じ方や内容は多種多様であり、100人いれば100通りの幸福があるともいえるような面もあります。今回の研究会はこの幸福という用語を岩手県の政策推進課題として位置付け、今後の県政における重要なキーワードとして活用していくことを念頭に議論を進めました。

そこで心がけたことは、予断をもって幸福を定義しないという方針です。いわゆる「官製」幸福の推進ということではなく、県民の方々の心の声を聴くという姿勢で臨みました。そして実態に基づいて議論を進めるという観点から、「県民意識調査」（アンケート）のデータを検証し、確かに言えそうなことを積み上げていく作業とともに、「県民ワークショップ」を開催し、参加者の幸福に対する考え方を把握するという２つの方法を用いました。

研究会では幸福に関する新質問を入れた「県民意識調査」の結果を詳細に分析しました。幸福を感じるということ（「主観的幸福感」）が、どのような領域別実感と関連性が高いのかを検証し、さらに協調的幸福感やソーシャル・キャピタルに関する新しい質問も追加しました。その結果、「主観的幸福感」は従来使ってきた「生活満足度」とは、関連性の高い事項が異なる特性が浮かび上がってきました。また、「協調的幸福感」や「ソーシャル・キャピタル」に関する分析から、幸福感どうしの関連性や岩手県の独自性もわかってきました。これらは今回の研究会における大きな発見であり、今後の継続的な調査が望まれます。

また幸福に関する県民ワークショップを複数回開催し、「幸福カルテ」の作成や、「私の幸福宣言」の発表を通じて、参加者自らが幸福を考える機会を設けたことも新しい試みです。回数は少ないですが、一人一人が幸福を考えるための技法の開発し、幸福についてともに考えることで、数値だけでは捉えきれない幸福の形が見えてきました。

このように研究会は新しい考え方や方法を用いて、幸福に対して冷静かつ冒険的にアプローチしてきました。あがってくるデータや原案に対して自由闊達に議論し、各委員から出される興味深い見解に、認識を新たにすることもたびたびありました。今後、これまでの議論や取り組みが各方面で活かされ、東日本大震災後の岩手県が多くの県民にとって幸福を実感できる場になっていく政策に結実していくことを期待します。

○竹村祥子委員（岩手大学人文社会科学部　教授）

「岩手の幸福に関する指標」研究会は、回が重なるごとに、岩手県民の主観的幸福感の諸相が明らかになっていくので、いつしか待ち遠しい研究会になっていました。

研究会に参加した当初は、次期総合計画に反映できる「岩手の幸福に関する指標」が策定できるのかどうか､漠とした不安もありましたが､報告書の最終案をみると､「岩手ならではの生き方」を考えるうえで参考となる指標ができたと思っております。

岩手県民意識調査からは、「主観的幸福感」と「協調的幸福感」の関連が強いこと、「ソーシャル・キャピタル」と「主観的幸福感」の関連も強いことがみえてきました。今後、調査が積み重ねられていけば、今回の結果だけからは断言できなかった世代別や家族状況別等の特徴も明確にできるものと思います。

注目点としてあげておきたいのは、「住まいの快適さ」が、「主観的幸福感」との相関で４番目、「生活満足度」との相関では３番目と高位にランクされていることです。内閣府『幸福度に関す

る研究会報告』の調査では「住まいの快適さ」という項目は入っていないので今のところ全国と比較はできないのですが、「主観的幸福感」、「生活満足度」両方にとって重要な要因であることがわかりました。今後、調査が重ねられていくにつれて、確認されていくと考えています。

また本研究会委員の若菜千穂さんが発案された「幸福について考えるワークショップ」で、自分自身の幸福を「見える化」できる「幸福カルテ」に出会いました。「岩手県民の幸福」といった大きな対象について作成される指標では、ややもすれば個々人の幸福まで届かない場合もあるのですが、ワークショップを参観させてもらった感想としては、自分自身の幸福を「見える化」することに有効な「幸福カルテ」であると思いました。

研究会の成果は、もちろん実際の調査解析を担当された県職員の方々に負うところが大きく、次回の研究会までにさらに詳しい集計をしていただいたり、締め切りぎりぎりまで確認のための分析を粘り強く進めてくださったご尽力があってこその成果であると思っています。改めまして、感謝とお礼を申し上げます。

○谷藤邦基委員（株式会社イーアールアイ　監査役）

幸福に関する指標の研究は、学術的な側面が強いものではあるが、同時に次期総合計画の策定を見据えてなされているという意味では、実務的な対応も意識せざるを得ない。

その一つとして、東日本大震災津波復興計画をどのように次期総合計画に承継していくかという視点が挙げられよう。ちなみに、宮城・福島両県の復興計画が期間 10 年となっているのに対し、本県の復興計画は期間８年で策定されている。これは現在の総合計画である「いわて県民計画」と終期を一致させることにより、８年あるいは 10 年を超えて取り組みが必要になるような施策については次期総合計画の中で対応していけるよう柔軟性を持たせるため、というのが策定当初からの含意である。

では復興と「幸福」が、どう関係するのか。

実は復興計画と次期総合計画は「幸福」というキーワードで見事につながるのである。

東日本大震災津波の発災からちょうど一カ月後の平成 23 年４月 11 日、復興に向けた基本方針が決定された。この基本方針を貫く原則は二つ掲げられており、その一つが「被災者の人間らしい『暮らし』、『学び』、『仕事』を確保し、一人ひとりの幸福追求権を保障する」というものであった。この原則のもとに復興計画の策定など様々な取り組みが進められてきたことに鑑みれば、「幸福」というキーワードの源流は復興計画にあるといえるのである。

ここで一つ注目すべき点は、復興の基本方針では「一人ひとりの幸福追求権」となっていたところ、本報告書における指標策定の目的では「個人として、また社会として幸福を求めることができる岩手県を目指す」となっていることである。つまり、「社会として」という要素が新たに加わっている。このような視点が重視されるようになった背景の一つには、復興の取り組みを通じて再認識された絆の重要性などが挙げられよう。そして、この「社会として」という点を具体的に反映しているのが、報告書本文に示されている「協調的幸福感」や「ソーシャル・キャピタル」などの新しい考え方である。

このような流れを踏まえつつ、「幸福」をキーワードとして、復興計画を次期総合計画に切れ目なく承継させていくのが次なる課題の一つであると考えている。

○山田佳奈委員（岩手県立大学総合政策学部　准教授）

本研究会が終了する段階となったいま、率直なところ、今回の「幸福」というテーマについて、（個人的には）「宿題」がさらに大きくなったと感じている。あるいは、この約１年半を通してテーマの輪郭が少しずつ見えてきたがゆえに、課題自体がより見えやすくなった、と言った方が正確かもしれない。

この「輪郭」というのは、平成 28～29 年度の県民意識調査を通して現れてきた、「満足（実感）」の軸と「幸福（実感）」軸の間の差異にも大きく依っている。

では、この差異が意味するところは何だろうか。

再び正直にいえば、この問にはまだ自分としては明確に答えることができていない。しかし、その導きの糸と考えているのが、同調査で唯一の自由回答欄の内容である（本報告書の別冊参考資料５の第２章（6）参照）。本資料では一定の整理のうえで記載されているが、この欄には、回答してくださった方々による、「幸福」にたいする実感がご自身の言葉として記されていよう。そして、その一つ一つの背後には様々なご記憶や経験が綾となり、はるか遠くまで広がっていよう。若干の抽象化をお許しいただければ、まさに「個」の中に見る「全体」である。

研究会として検討を続けることはできないが、調査結果に基づきながら大きな傾向を捉えつつ、個々の具体的な「生」の在り様とどのように往復しながら「幸福」のリアリティを捉えていくか、我々はこれからも考え続けていく必要があるのではないだろうか。おそらく幸福ワークショップからも、機会が重なるなかでその手掛かりがいっそう鮮明に立ち現れるのではないかと、（一回のみであるが）見学した経験から期待している。

いずれにしても、「幸福」と具体的な政策との関係を説明することは容易ではない。調査結果として現れる数字の解釈にも、我々は常に注意を払う必要があろう。少なくとも幾つかの文献においても、幸福研究と政策との関わらせ方には慎重な姿勢がうかがえる。

それでもなお、こうした根本問題を息長く問い続ける胆力こそ、岩手の強みの一つではないか…　一委員として、かつ、一県民として、あらためてそう実感している。

最後に、調査やワークショップにご協力くださった皆様、研究会内外で示唆をくださった皆様に感謝申し上げます。

○若菜千穂委員（特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター常務理事）

この研究会は、幸福を測る、さらには岩手らしい測り方の方法を見つけるという命題を受けてスタートしました。この話を聞いたときに「幸福を測ろうとはなんて烏滸がましいことか」と思いもしましたが、人は自分の幸せを目指すべきだと思うし、それ以上に「自分は幸せになるために頑張っている」と、もっと声高に（普通に）言っていいのだと思いました。そのため、幸福指標について研究するとともに、その成果を「自分の幸福とはなにか」を考えるきっかけに活かせるようなワークショップ手引きの作成にも取り組みました。

測るというと、つい人と比べられる、比べたくなるかもしれません。でも、自分の幸福について考えてみると、自分のライフステージや今の暮らし方などに影響を受け、「今、自分が何を大切にしたいと思っているか」ということが分かってきます。そうすると、「自分がより幸せになるために何をしたらいいのか」を考えるきっかけになり、その中に、家族や友人など自分の周りの人の幸せが少なからず自分の幸せに関わっていることが見えてきます。それが、本研究会で喧々諤々、頭を突き合わせて特に議論をしてきた「協調的幸福感」や「ソーシャル・キャピタル」です。

震災を経験して、他人の痛みを感じ、その痛みを軽減するために実際に動くことが特に若い世代を中心に自然なこととして受け止められるようになったと感じています。だからこそ、本研究会において提案する「協調的幸福感」は実感を持って受け止められると信じていますし、いずれもっとはっきりと主観的幸福として（もしくは並ぶ）の位置を得るかもしれないと想像しています。この指標はまだカタチを見え始めたばかりに過ぎず、これから多くの人の手と年月を経て岩手の大きな幸福に実っていく未來を楽しみにしています。

最後に、茫洋たる本命題に向かい、膨大な資料の分析と委員の多様な発言を丁寧に整理し、真摯に指標づくりに取り組まれた事務局の皆様に敬意を表するとともに、共に議論し多くの学びをいただいた委員の皆様に心から感謝申し上げます。

○広井良典アドバイザー（京都大学こころの未来研究センター　教授）

「岩手の幸福に関する指標」の検討を始めるということで、担当者の方が最初に御相談に来られたのが 2015 年の秋頃だったと思います。翌年２月には県庁で幸福度指標の意義等についてお話しする機会をいただきましたが、宮沢賢治の「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という一節も踏まえる中で、既存の幸福度指標に不足しているコミュニティといった視点を含め、岩手県としての独自の指標を策定したいという明確な意思を感じたことを印象深く覚えています。

私はささやかながら東京都荒川区など日本の自治体での幸福度に関する政策に多少の関わりを持たせていただいていますが、ブータンのいわゆる GNH を含め、諸外国における幸福度指標の策定や関連政策が、基本的には国ないし中央政府が主導する形で展開しているのに対し、日本の場合は、先駆的な意識をもった自治体が自ら独自の幸福度指標を策定するという点が特徴的と思われます。まさに「幸せはローカルから」ということであり、今回の岩手における試みは、（グローバル化の先の）ローカライゼーションという新たな時代の流れを先取りするものと言えます。

実際には、幸福度指標の策定は、①関連の調査を実施することを通じ、幸福が十分及んでいない領域や課題を発見し、政策の優先順位づけにつなげるという役割と、②そもそも自分たちの地域の豊かさや幸福とは何かを考えるプロセスを含め、地域のポジティブな価値や強みを見つけていく契機になる、という役割を持っていると考えられます。今回の岩手県での研究会では、県民意識調査等の丹念な調査・分析やワークショップの実施を通じこれら①②が意義深い形で実現しましたが、同時にこれは、ゴールというより今後の新たな政策展開に向けてのスタートラインに立ったということでもあるでしょう。たとえば 30 歳代などで生活満足度が相対的に低く、幸福の判断において家計の状況を重視する傾向が高いことは、将来世代を含む「地域の持続可能性」という視点を含め、若い世代への政策的支援が重要課題であることを示唆していると言えます。

私自身はアドバイザーとしての十分な貢献はできませんでしたが、ソーシャル・キャピタルの重視など、幸福度指標に関する独自性や先駆性に富んだ成果がまとまったことを心よりお慶びしたいと思います。

別紙

客観的指標の例

客観的指標例は、主観的指標のみではとらえにくい点を補足するとの方針に基づき、次により選定した。

1　各領域に関連すると思われる指標項目を以下の観点から設定した。
(1) 県民意識調査の結果から主観的幸福感と関係が認められたもの
(2) 先行研究で主観的幸福感と関係するとされているもの
(3) 先行事例で採用頻度が高いもの
(4) 岩手の目指すゆたかさを示すもの（岩手の強み弱みや、「つながり」に関連するもの）

2　上記で設定した客観的指標の項目例ごとに、先行研究、先行事例及びいわて県民計画第３期アクションプラン等から、次の視点により指標の具体例を選定した。
(1) アウトカムを測定できるデータであること（会議参加者数のような指標はできるだけ選定しない）
(2) 調査頻度が高く、経年変化を見ることができるデータであること
(3) 全国比較が可能であり、岩手の強みや弱みを的確に把握することができるデータであること

選定した指標はあくまで一例であることから、活用段階で、より適切な指標があった場合は適宜加除、修正が必要なものであること。

※1　若者：概ね20歳未満、成人：概ね20～65歳、高齢者：概ね65歳以上
※2　実績は直近のものを示しており、カッコ内にいつ時点のデータか記載した。
※3　平均値の欄には、全国の数値が公表されている場合は当該数値を、公表されていない場合は調査対象都道府県の数値の平均値を記載した。
※4　いわて県民計画第３期アクションプランの各種指標として設定されているデータに○印を、同一ではないが類似のデータに△印を付した。

数値は平成29年6月9日時点

領域	客観的指標の項目例	対象※1	指標の具体例											APでの設定※4
				指標名	単位	実績※2	全国値※3			調査頻度	出典	備考	
							最小値	平均値	最大値				
仕事	失業関係	成人	1	完全失業率	%	2.4 (H28)	1.7	3.1	4.4	毎年	労働力調査（基本集計）都道府県別結果（総務省統計局）		
	正規雇用関係 求人関係	成人	2	正社員の有効求人倍率	倍	0.72 (H28)	0.40	0.89	1.35	毎年	一般職業紹介状況（岩手労働局）	最小、最大値はH29.3月の数値を掲載	○
	女性の雇用関係	女性	3	労働者総数に占める女性の割合	%	38.5 (H28)	28.1	34.4	44.8	毎年	賃金構造基本統計調査（厚生労働省）		
	高齢者の雇用関係	高齢者	4	希望者全員が65歳以上まで働ける企業割合	%	86.5 (H28)	67.1	74.1	86.5	毎年	高年齢者雇用状況報告の集計結果（岩手労働局）	再掲（健康）	
	障がい者の雇用関係	障がい者	5	障がい者の雇用率	%	2.07 (H28)	1.84	1.92	2.60	毎年	障害者雇用状況報告の集計結果（岩手労働局）	再掲（健康）	
	生産活動関係		6	一人当たり県民所得（経済規模）	千円	2,716 (H26)	2,129	2,868	4,512	毎年	県民経済計算年報（内閣府経済社会総合研究所）	平成22年度 県：2,266千円 国：2,755千円	○
			7	製造品出荷額等（従業者一人当たり）	百万円	27.5 (H26)	20.0	41.2	71.3	毎年	工業統計情報（経済産業省）	従業員4人以上の事業所が対象	△
			8	農業産出額	億円	2,494 (H27)	306	1,886	11,852	毎年	生産農業所得統計（農林水産省）		○
			9	林業産出額	千万円	2,297 (H27)	21	921	5,524	毎年	生産林業所得統計（農林水産省）		○
			10	漁業産出額	億円	384 (H27)	35	413	3,195	毎年	漁業産出額（農林水産省）	海面漁業・海面養殖業平均値は調査対象都道府県の数値から算出	○
	労働時間関係		再	総実労働時間（年間、事業所規模30人以上）	時間	1,887.6 (H27)	1,692.0	1,784.4	1,921.2	毎年	毎月勤労統計調査地方調査（厚生労働省）	本掲（余暇）	
収入	収入・所得関係		11	現金給与額（労働者一人当たり）	千円	235.9 (H28)	234.6	304.0	373.1	毎年	賃金構造基本統計調査（厚生労働省）		
			12	最低賃金時間額	円	716 (H28)	714	823	932	毎年	地域別最低賃金改定状況（厚生労働省）		
			13	農業所得（納税者一人当たり）	百万円	0.78 (H27)	0.54	1.38	4.86	毎年	統計年報（国税庁）		
	生活保護関係		14	生活保護率（人口千人当たり）	人	11.1 (H26)	3.3	17.0	34.1	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		
居住環境	住宅面積関係		15	1住宅当たりの敷地面積	m2	404 (H25)	129	263	425	5年に1回	住宅・土地統計調査（総務省統計局）		
			16	持ち家住宅の延べ面積（1住宅当たり）	m2	154.6 (H25)	90.7	122.3	177.0	5年に1回	住宅・土地統計調査（総務省統計局）		
	都市の緑化関係		17	都市公園面積（人口1人当たり）	m2	10.96 (H26)	4.34	9.56	25.60	毎年	都市公園整備水準調書（国土交通省都市局）		
	交通の利便性関係		18	道路舗装率	%	62.5 (H27)	62.5	81.6	96.6	毎年	道路統計年報（国土交通省）		
			19	最寄りの駅まで2km以上かつバス停まで1km以上の距離がある住宅の割合	%	7.8 (H25)	0.3	4.2	15.1	5年に1回	住宅・土地統計調査（総務省統計局）		
			20	生鮮食品販売店舗まで500m以上であり、自動車を持たない人口の割合	%	8.7 (H22)	3.8	6.7	10.3	不定期	生鮮品販売店舗まで500m以上の人口・世帯数推計（農林水産省農林水産政策研究所）		
			再	通勤・通学時間（平日1日当たり10歳以上）	分	58 (H23)	50	74	100	5年に1回	社会生活基本調査結果（総務省統計局）	本掲（余暇）	
	情報関係		21	インターネットの利用率（1年間に利用したことがある人の割合）	%	72.8 (H27)	72.2	83.0	89.7	毎年	通信利用動向調査（総務省）		○

領域	客観的指標の項目例	対象※1	指標の具体例										APでの設定※4
				指標名	単位	実績※2	全国値※3 最小値	全国値※3 平均値	全国値※3 最大値	調査頻度	出典	備考	
安全	犯罪数関係		22	刑法犯認知件数（人口千人当たり）	件	3.8 (H27)	3.1	8.6	15.0	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		○
	交通事故関係		23	交通事故発生件数（人口10万人当たり）	件	200.1 (H27)	183.6	422.4	1027.9	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		○
	防災組織関係		24	自主防災組織の組織率	%	84.6 (H28)	25.2	81.7	97.0	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		○
	火災関係		25	消防団員数（人口千人当たり）	人	17.4 (H28)	1.2	6.7	23.3	毎年	消防白書（総務省消防庁）、人口推計（総務省統計局）		○
			26	火災出火件数（人口1万人当たり）	件	3.70 (H27)	1.74	3.05	4.46	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		
	消費者相談関係		27	消費者生活相談解決割合	%	96.5 (H27)	―	―	―	毎年	県民生活センター調べ		○
	野生鳥獣関係		28	クマ類による人身被害件数	件	13 (H27)	0	1.5	13	毎年	クマの人身被害件数（環境省）		○
余暇	趣味・娯楽活動関係		29	趣味・娯楽の平均時間（1日当たり有業者　男性）	分	33 (H23)	33	43	50	5年に1回	社会生活基本調査結果（総務省統計局）		
			30	趣味・娯楽の平均時間（1日当たり有業者　女性）	分	23 (H23)	20	29	38	5年に1回			
	労働時間関係		31	総実労働時間（年間、事業所規模30人以上）	時間	1,887.6 (H27)	1,692.0	1,784.4	1,921.2	毎年	毎月勤労統計調査地方調査（厚生労働省）	再掲（仕事）	
			32	通勤・通学時間（平日1日当たり10歳以上）	分	58 (H23)	50	74	100	5年に1回	社会生活基本調査結果（総務省統計局）	再掲（居住環境）	
	自由時間関係		33	3次活動時間（自由時間）（週全体）	分	371 (H23)	370	387	411	5年に1回	社会生活基本調査結果（総務省統計局）		
	運動関係		再	スポーツ実施率（週1回以上）	%	59.3 (H28)	―	58.7	―	県：毎年 国：5年に1回	県：県民のスポーツ実施状況に関する調査（岩手県スポーツ健康課）、国：体力・スポーツに関する世論調査（文部科学省）	本掲(健康) 平均値はH24のデータ	○
	NPO・ボランティア活動関係		再	ボランティア活動の年間行動者率	%	33.7 (H23)	20.6	26.3	35.3	5年に1回	社会生活基本調査結果（総務省統計局）	本掲（コミュニティ）	
	文化関連施設関係		再	常設映画館数（人口100万人当たり）	館	14.1 (H27)	4.1	11.7	35.9	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）	本掲（歴史・文化）	
			再	劇場・音楽館数（人口100万人当たり）	館	21.1 (H27)	7.8	14.6	29.1	3年に1回	社会教育調査（文部科学省）、人口推計（総務省統計局）	本掲（歴史・文化）	
			再	図書館数（人口100万人当たり）	館	36.7 (H27)	9.1	26.2	65.9	3年に1回	いわて統計白書（岩手県調査統計課）	本掲（歴史・文化）	
	温泉関係		再	温泉地数（人口100万人当たり）	箇所	61.7 (H27)	1.9	24.8	121.2	毎年	温泉利用状況（環境省）、人口推計（総務省統計局）	本掲（自然環境）	
健康	寿命関係		34	健康寿命（男性）	年	70.68 (H25)	69.85	71.19	72.52	不定期	健康寿命の指標化に関する研究（健康日本21（第二次）等の健康寿命の検討）（厚生労働科学研究費補助金）	日常生活に制限のない期間の平均（年）	
			35	健康寿命（女性）	年	74.46 (H25)	72.49	74.21	75.78	不定期			
	自殺関係		36	自殺者数（人口10万人当たり）	人	23.3 (H27)	15.4	18.5	25.7	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		○
	食事・栄養関係		37	朝食を毎日食べている生徒の率（小学生）	%	96.9 (H28)	93.7	95.5	97.3	毎年	全国学力・学習状況調査（文部科学省）		
	食事・栄養関係		38	朝食を毎日食べている生徒の率（中学生）	%	95.7 (H28)	90.8	93.3	96.7	毎年	全国学力・学習状況調査（文部科学省）		
	運動関係		39	スポーツ実施率（週1回以上）	%	59.3 (H28)	―	58.7	―	県：毎年 国：5年に1回	県：県民のスポーツ実施状況に関する調査（岩手県スポーツ健康課）、国：体力・スポーツに関する世論調査（文部科学省）	再掲（余暇） 平均値はH24のデータ	○
	医療・保健関係		40	医師数（人口10万人当たり）	人	192.0 (H26)	152.8	233.6	307.9	2年に1回	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		○
			41	特定健康診査受診率	%	50.0 (H26)	37.4	48.6	62.1	毎年	特定健康診査・特定保健指導に関するデータ（厚生労働省）		○
	介護関係	高齢者	42	要介護認定を受けていない人の割合(65歳以上)	%	80.8 (H26)	77.9	82.1	85.9	毎年	介護保険事業状況報告（厚生労働省）		△
	高齢者の雇用関係	高齢者	再	希望者全員が65歳以上まで働ける企業割合	%	86.5 (H28)	67.1	74.1	86.5	毎年	高年齢者雇用状況報告の集計結果（岩手労働局）	本掲（仕事）	
	高齢者の社会活動関係	高齢者	再	老人クラブ会員数（65歳以上人口千人当たり）	人	196.5 (H27)	87.8	174.4	509.5	毎年	福祉行政報告例（厚生労働省）、人口推計（総務省統計局）	本掲（コミュニティ）	
	老人福祉施設関係	高齢者	43	介護老人福祉施設定員数（65歳人口千人当たり）	人	16.4 (H27)	11.1	14.3	20.4	毎年	介護サービス施設・事業所調査（厚生労働省）、人口推計（総務省統計局）		
	障がい者福祉関係	障がい者	44	障がい者支援施設等定員数（人口千人当たり）	人	2.51 (H27)	0.62	1.54	3.60	毎年	社会福祉施設等調査報告（厚生労働省）、人口推計（総務省統計局）		
	障がい者の雇用関係	障がい者	再	障がい者の雇用率	%	2.07 (H28)	1.84	1.92	2.60	毎年	障害者雇用状況報告の集計結果（岩手労働局）	本掲（仕事）	
子育て	出生率関係	成人	45	合計特殊出生率		1.49 (H27)	1.24	1.45	1.96	毎年	人口動態統計（厚生労働省）		○
	乳児医療関係	若者	46	乳児死亡率（出生数千人当たり）	人	3.1 (H27)	0.7	1.9	3.2	毎年	人口動態統計（厚生労働省）		
	待機児童関係		47	待機児童数	人	194 (H28)	0	501	8,327	毎年	保育所等関連状況調査（厚生労働省）		
	児童虐待関係	若者	48	児童虐待相談対応件数（20歳未満人口千人当たり）	件	280.5 (H27)	86.1	469.5	1081.6	毎年	福祉行政報告例（厚生労働省）、人口推計（総務省統計局）		
	男性の家事時間関係	成人	再	6歳未満の子供がいる夫の家事時間（週全体）	分	31 (H23)	4	12	31	5年に1回	社会生活基本調査結果（総務省統計局）	本掲（家族）	
	親子の会話関係		再	家の人と学校での出来事について話をする率（小学生）	%	78.8 (H28)	73.3	79.2	82.5	毎年	全国学力・学習状況調査（文部科学省）	本掲（家族）	
			再	家の人と学校での出来事について話をする率（中学生）	%	76.1 (H28)	68.0	74.1	80.1	毎年			

領域	客観的指標の項目例	対象※1	指標の具体例										APでの設定※4
				指標名	単位	実績※2	全国値※3 最小値	平均値	最大値	調査頻度	出典	備考	
教育	学歴関係		49	大学等進学率	%	42.7 (H27)	39.8	54.5	66.8	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		
	いじめ・不登校関係	若者	50	不登校児童生徒数（小中学校児童生徒千人当たり）	人	10.4 (H27)	8.9	12.6	15.7	毎年	児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査		○
	学力関係	若者	51	全国学力テストの正答率（小学生国語）	%	66.7 (H28)	63.1	65.4	70.8	毎年	全国学力・学習状況調査（文部科学省）		
			52	全国学力テストの正答率（小学生算数）	%	62.5 (H28)	59.9	62.4	68.0	毎年			
			53	全国学力テストの正答率（中学生国語）	%	71.0 (H28)	67.2	71.1	75.8	毎年			
			54	全国学力テストの正答率（中学生数学）	%	49.1 (H28)	45.7	53.2	60.1	毎年			
	思いやり関係	若者	55	人が困っているときは、進んで助けている率（小学生）	%	86.9 (H28)	78.8	84.6	89.7	毎年	全国学力・学習状況調査（文部科学省）		
			56	人が困っているときは、進んで助けている率（中学生）	%	86.6 (H28)	79.9	83.8	90.0	毎年			
	子どもの体力関係	若者	57	体力・運動能力調査の総合評価がA～C段階（平均以上）の児童生徒の割合	%	79.9 (H27)	68.1	75.6	87.2	毎年	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）		○
	生涯学習関係	成人・高齢者	58	生涯学習センターの利用状況（人口千人当たり）	人	87.7 (H26)	12.9	206.3	528.2	3年に1回	社会教育調査（文部科学省）、人口推計（総務省統計局）		
家族	婚姻関係	成人	59	結婚サポートセンターの会員成婚数	組	10 (H28)	－	－	－	毎年	子ども子育て支援課調べ		○
			60	生涯未婚率（男性）	%	26.16 (H27)	18.24	23.37	26.20	5年に1回	人口統計資料集（国立社会保障・人口問題研究所）		
			61	生涯未婚率（女性）	%	13.07 (H27)	8.66	14.06	19.20	5年に1回			
	世帯構成関係		62	独居世帯割合	%	30.4 (H27)	25.5	34.5	47.3	5年に1回	人口統計資料集（国立社会保障・人口問題研究所）		
		高齢者	63	65歳以上の独居世帯割合	%	14.3 (H25)	10.5	17.7	25.2	5年に1回	人口統計資料集（国立社会保障・人口問題研究所）		
			64	三世代同居率	%	12.2 (H27)	1.8	5.7	17.8	5年に1回	国勢調査（総務省統計局）		
	男性の家事時間関係	成人	65	6歳未満の子供がいる夫の家事時間（週全体）	分	31 (H23)	4	12	31	5年に1回	社会生活基本調査結果（総務省統計局）	再掲（子育て）	
	親子の会話関係		66	家の人と学校での出来事について話をする率（小学生）	%	78.8 (H28)	73.3	79.2	82.5	毎年	全国学力・学習状況調査（文部科学省）	再掲（子育て）	
			67	家の人と学校での出来事について話をする率（中学生）	%	76.1 (H28)	68.0	74.1	80.1	毎年			
コミュニティ	NPO・ボランティア活動関係		68	ボランティア活動の年間行動者率	%	33.7 (H23)	20.6	26.3	35.3	5年に1回	社会生活基本調査結果（総務省統計局）	再掲（余暇）	
			69	NPO法人認証数（人口10万人当たり）	法人	36.4 (H27)	25.6	39.7	70.6	毎年	内閣府調査、人口推計（総務省統計局）		△
	地域行事への参加関係		70	今住んでいる地域の行事に参加している率（小学生）	%	83.9 (H28)	53.2	67.9	89.8	毎年	全国学力・学習状況調査（文部科学省）		
			71	今住んでいる地域の行事に参加している率（中学生）	%	65.6 (H28)	33.4	45.2	67.7	毎年			
			再	地縁的な活動への参加状況	%	37.7 (H29)	－	－	－	今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。	本掲（ソーシャル・キャピタル）	
	募金活動関係		72	赤い羽根共同募金平均寄付額（一人当たり）	円	290 (H27)	77	144	295	毎年	赤い羽根共同募金ホームページ		
	高齢者の社会活動関係	高齢者	73	老人クラブ会員数（65歳以上人口千人当たり）	人	196.5 (H27)	87.8	174.4	509.5	毎年	福祉行政報告例（厚生労働省）、人口推計（総務省統計局）	再掲（健康）	
	相談相手関係		再	隣近所との面識・交流がある人の率	%	93.5 (H29)	－	－	－	今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。	本掲（ソーシャル・キャピタル）	
	定住関係		74	県外からの移住・定住者数	人	1,387 (H27)	－	－	－	毎年	岩手県政策地域部調査		○
歴史・文化	多文化共生関係		75	留学生数（人口10万人当たり）	人	25.2 (H27)	21.3	164.0	603.4	毎年	外国人留学生在籍状況調査（（独）日本学生支援機構）、人口推計（総務省統計局）		
	文化財関係		76	民俗文化財指定件数（累計）	件	16 (H28)	2	10.9	28	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		
	文化関連施設関係		77	常設映画館数（人口100万人当たり）	館	14.1 (H27)	4.1	11.7	35.9	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）	再掲（余暇）	
			78	劇場・音楽館数（人口100万人当たり）	館	21.1 (H27)	7.8	14.6	29.1	3年に1回	社会教育調査（文部科学省）、人口推計（総務省統計局）	再掲（余暇）	
			79	図書館数（人口100万人当たり）	館	36.7 (H27)	9.1	26.2	65.9	3年に1回	いわて統計白書（岩手県調査統計課）	再掲（余暇）	
自然環境	環境基準関係		80	大気の二酸化窒素等環境基準達成率	%	100 (H26)	－	99.8	－	毎年	大気汚染状況（環境省）		○
			81	公共用水域のBOD（生物化学的酸素要求量）等環境基準達成率	%	97.3 (H27)	－	91.1	－	毎年	公共用水域測定結果（岩手県）		○
	リサイクル関係		82	ごみのリサイクル率	%	18.0 (H27)	12.9	18.8	28.1	毎年	一般廃棄物処理実態調査（環境省）		△
	ごみの排出量関係		83	一人一日当たりごみ排出量	グラム	933 (H27)	836	939	1,057	毎年	一般廃棄物処理実態調査（環境省）		○
	森林関係		84	森林面積割合	%	74.9 (H26)	30.1	65.5	83.3	5年に1回	農林業センサス〔農山村地域調査〕（農林水産省）		
	エネルギー関係		85	再生可能エネルギー自給率	%	15.5 (H27)	0.6	8.0	32.2	毎年	永続地帯報告書（千葉大学、認定 NPO 法人環境エネルギー政策研究所）		△
	温泉関係		86	温泉地数（人口100万人当たり）	箇所	61.7 (H27)	1.9	24.8	121.2	毎年	温泉利用状況（環境省）、人口推計（総務省統計局）	再掲（余暇）	
	野生鳥獣関係		87	野生鳥獣による農作物被害金額	万円	40,223 (H27)	4,298	37,551	463,017	毎年	野生鳥獣による都道府県別農作物被害状況（農林水産省）		△

領域	客観的指標の項目例	対象※1	指標の具体例											APでの設定※4
				指標名	単位	実績※2	全国値※3			調査頻度	出典	備考	
							最小値	平均値	最大値				
ソーシャル・キャピタル	つきあい・交流関係		88	隣近所とのつきあいの程度	―	―	―	―	―	今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。		
			89	隣近所とつきあっている人の数	―	―	―	―	―	今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。	再掲（コミュニティ）	
			90	友人・知人とのつきあいの頻度	―	―	―	―	―	今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。		
			91	親戚とのつきあいの頻度	―	―	―	―	―	今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。		
			92	スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況	―	―	―	―	―	今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。		
	社会的信頼関係		93	一般的な人への信頼	―	―	―	―	―	今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。		
			94	見知らぬ土地での人への信頼	―	―	―	―	―	今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。		
	社会参加関係		95	地縁的な活動への参加状況	―	―	―	―	―	今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。	再掲（コミュニティ）	
			96	ボランティア・NPO・市民活動への参加状況	―	―	―	―	―	今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。		

参考文献・資料

○公益財団法人荒川区自治総合研究所（2011）『荒川区民総幸福度（GAH）に関するプロジェクト中間報告書』。
○公益財団法人荒川区自治総合研究所（2012）『荒川区民総幸福度（GAH）に関する研究プロジェクト第二次中間報告書』。
○上山信一・玉山雅敏・千田俊樹（2012）『住民幸福度に基づく都市の実力評価　GDP 志向型モデルから市民の等身大ハッピネス（NPH）へ』時事通信社。
○内田由紀子（2013）「日本人の幸福感と幸福度指標」、『心理学ワールド 60 号』：5-8、日本心理学会。
○大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編（2010）『日本の幸福度―格差・労働・家族―』日本評論社
○環境と開発に関する世界委員会(通称ブルントラント委員会)（1987)『地球の未来を守るために“Our Common Future”』。
○京都府（2015）『ベンチマークレポート＜「明日の京都」実施状況報告書＞』。
○熊本県（2012）『県民幸福量を測る指標の作成に係る調査研究　報告書』。
○熊本県（2015）『幸せ実感くまもと４カ年戦略　2015 進捗レポート』。
○滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所（2016）『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』。
○自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク　ふるさと希望指数（LHI）研究プロジェクト（2012）『ふるさと希望指数（LHI:Local Hope Index）研究報告書』。
○自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク　ふるさと希望指数（LHI）研究プロジェクト（2014）『ふるさと希望指数（LHI:Local Hope Index）共同プロジェクト（第二期）報告書』
○滝沢市（2015）『滝沢市第一次滝沢市総合計画』。
○公益財団法人東北活性化研究センター(2012)『幸福度の定量化に関する調査研究　中間報告書』。
○公益財団法人東北活性化研究センター（2013）『幸福度の定量化に関する調査研究　報告書』。
○富山県（2012）『富山県総合計画　新・元気とやま創造計画』。
○内閣府（2003）『ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』。
○内閣府（2011）『幸福度に関する研究会報告　―幸福度指標試案―』。
○内閣府経済社会総合研究所(2013)『生活の質に関する調査』。
○一般財団法人日本総合研究所（2016）『全 47 都道府県幸福度ランキング 2016 年版』東洋経済新報社。
○三重県（2012）『みえ県民力ビジョン』。
○三重県(2015)『みえ県民意識調査分析レポート(平成 27 年度)県民の幸福実感向上のために』。
○溝上慎一（2012）「学校教育で『幸福』をどのように捉えればよいか」、『心理学評論　Vol.55 No.1』：156-173、心理学評論刊行会。
○山上暁・倉智佐一（2003）『新版　要説心理統計法』、北大路書房。
○OECD（2012）『OECD 幸福度白書』明石書店。
○OECD（2015）『OECD 幸福度白書２』明石書店。
○OECD（2015）『主観的幸福を測る　OECD ガイドライン』明石書店。
○Hitokoto, H. & Uchida, Y. (2015). Interdependent happiness: Theoretical importance and measurement validity. *Journal of Happiness Studies*, *16*, 211-239.

「岩手の幸福に関する指標」研究会設置要領

（名称）
第１条　本研究会は、「岩手の幸福に関する指標」研究会と称する。

（目的）
第２条　岩手の幸福に関する指標の策定等に当たり、専門的観点から研究・調査を行う。

（所掌事務）
第３条　研究会の所掌事項は次のとおりとする。
（１）岩手の幸福に関する指標の検討
（２）その他関連事項

（組織）
第４条　研究会の委員は別表に掲げる者とする。ただし、座長が必要と認めた場合は、オブザーバーとして行政機関の職員や学識経験者等を参加させることができるものとする。

（座長）
第５条　研究会には座長を置き、座長は研究会で選任するものとする。

（職務等）
第６条　座長は、研究会の議長となり、会務を総理する。

（事務局）
第７条　研究会の事務局は、岩手県政策地域部政策推進室に置く。

（補則）
第８条　この要領に定めるもののほか、研究会の運営に必要な事項は、別途協議のうえ定める。

附 則
　この要綱は、平成 28 年４月５日から施行する。

別表

（研究会委員）

氏名	役職名
竹村　祥子	岩手大学人文社会科学部　教授
谷藤　邦基	株式会社イーアールアイ　監査役
山田　佳奈	岩手県立大学総合政策学部　准教授
吉野　英岐（座長）	岩手県立大学総合政策学部　教授
若菜　千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター　常務理事

（アドバイザー）

氏名	役職名
広井　良典	京都大学こころの未来研究センター　教授

（敬称略　50 音順）

○検討経過等

回	開催日	協議事項等
第１回	平成 28 年４月 28 日	１　座長の選出 ２　研究会の基本的な考え方について ３　スケジュール
第２回	平成 28 年７月 21 日	１　「岩手の幸福に関する指標」と政策評価 ２　主観的幸福度等に関する県民意識調査の分析結果について ３　検討項目 (1) 幸福の概念 (2) 幸福に関する領域 (3) 指標の表現方法 (4) 指標の種類（Ⅰ主観的指標と客観的指標・Ⅱ指標設定の考慮事項）
第３回	平成 28 年９月 27 日	１　第２回研究会で示された課題について ２　検討項目 (1) 指標の種類 ア　「岩手らしさ」を踏まえた指標設定の考え方について イ　主観的指標の具体例について ウ　客観的指標の項目例について (2) 県民参画等による指標の活用方法
第４回	平成 28 年 10 月 28 日	１　第３回研究会で示された主な意見について ２　検討項目 (1) 中間報告書 (2) 今後のスケジュール
―	平成 28 年 11 月４日	「岩手の幸福に関する指標」研究会中間報告書　公表
第５回	平成 29 年４月 28 日	１　今後のスケジュールについて ２　県民参画等の方法の検討について ３　具体的な客観的指標の例について
第６回	平成 29 年６月 23 日	１　主観的幸福感等に関する県民意識調査の分析結果について ２　第５回研究会で示された主な御意見について
第７回	平成 29 年７月 21 日	１　第６回研究会で示された主な御意見について ２　「岩手の幸福に関する指標」研究会報告書の骨子（案）について
第８回	平成 29 年８月 30 日	「岩手の幸福に関する指標」研究会報告書（案）について
―	平成 29 年９月　日	「岩手の幸福に関する指標」研究会報告書　公表

「岩手の幸福に関する指標」研究会　報告書

発　行　平成 29 年　月
発行者　「岩手の幸福に関する指標」研究会
事務局　岩手県政策地域部政策推進室
TEL 019-629-5181　　FAX 019-629-5254

「岩手の幸福に関する指標」研究会報告書

別冊参考資料（案）

平成 29 年８月

目次

参考資料１　先行事例等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

参考資料２　幸福について考えるワークショップの概要　・・・・・・・・・・・・・・・・15

参考資料３　幸福について考えるワークショップ手引き　・・・・・・・・・・・・・・・・23

参考資料４　平成 28 年及び平成 29 年「県の施策に関する県民意識調査」調査票　・・・41

１　平成 28 年調査票　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
２　平成 29 年調査票　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

参考資料５　平成 28 年及び平成 29 年「県の施策に関する県民意識調査」の分析結果　・65

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67

第１章　主観的幸福感について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
１　設問
２　集計結果
（１）県全体
（２）性別集計
（３）居住地別集計
（４）年齢階層別集計
（５）職業別集計
（６）世帯構成別集計
（７）子どもの人数別集計

第２章　幸福を判断する際に重視した項目について　・・・・・・・・・・・・・・・・・75
１　設問
２　集計結果
（１）県全体
（２）属性別順位
（３）性別集計
（４）年齢階層別集計
（５）主観的幸福感の評価結果別集計
（６）その他重視した項目として挙げられたもの

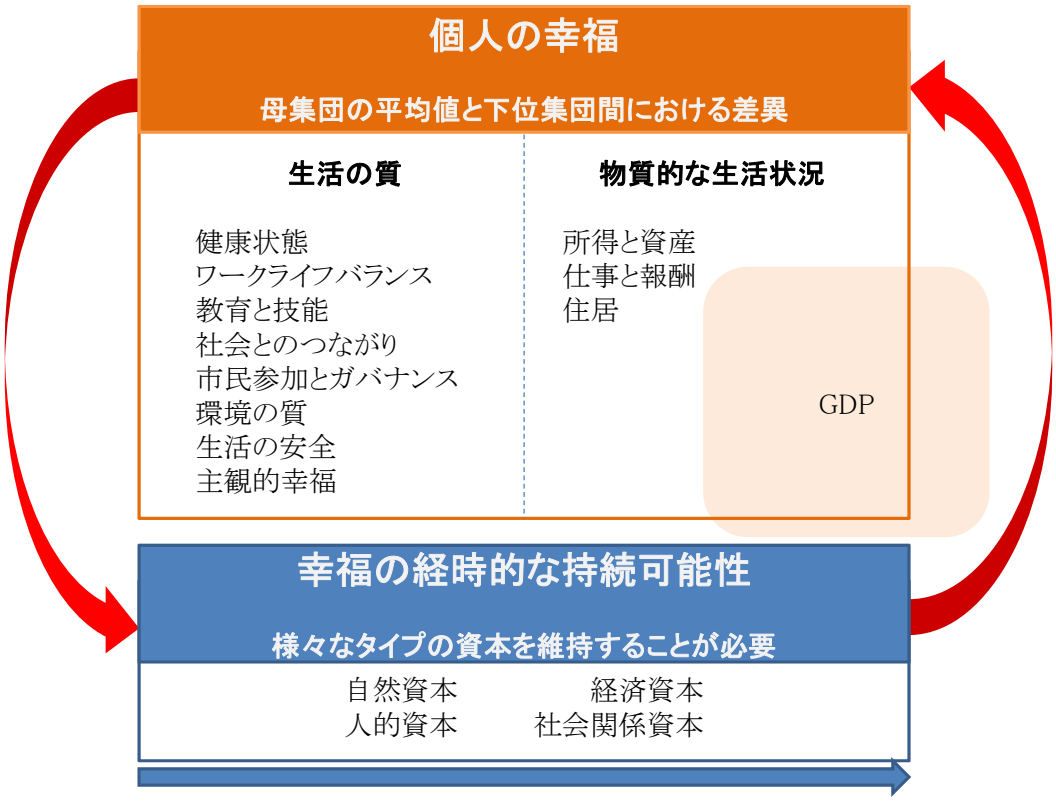
第３章　領域別実感について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82
１　設問
２　集計結果
（１）県全体
（２）属性別集計
（３）主観的幸福感との相関

第４章　協調的幸福感について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
　１　設問
　２　集計結果
　　（１）県全体
　　（２）男女別集計
　　（３）世代別集計
　　（４）主観的幸福感等との相関

第５章　ソーシャル・キャピタルについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
　１　設問
　　（１）ソーシャル・キャピタルに関する行動等の調査
　　（２）ソーシャル・キャピタルに対する実感の調査
　２　集計結果
　　（１）ソーシャル・キャピタル指数
　　（２）各設問の集計結果
　　①　県全体
　　②　属性別結果
　　（３）ソーシャル・キャピタルに対する実感
　　（４）主観的幸福感等との相関

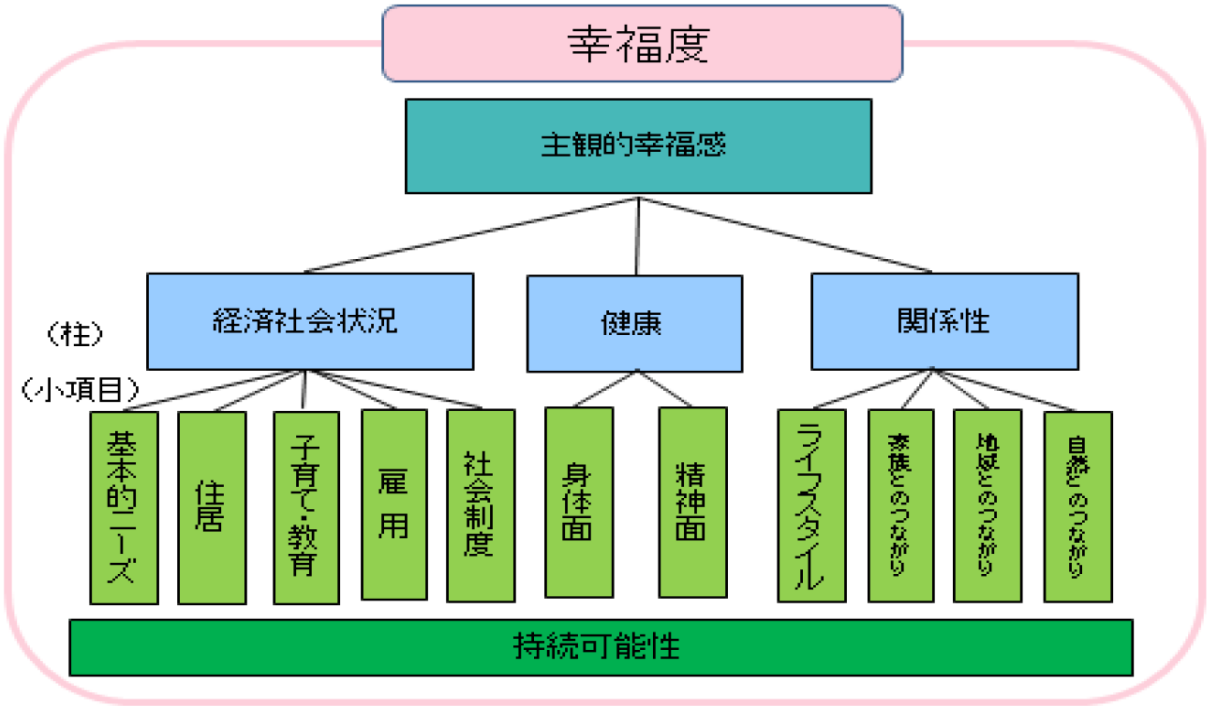
参考資料１

先行事例等

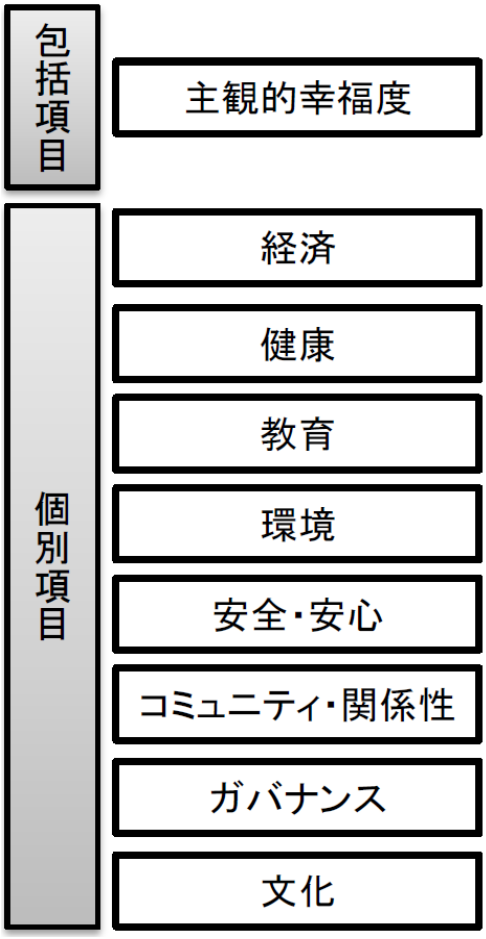
ＯＥＣＤ「より良い暮らし指標（Better life index：ＢＬＩ）」	
	
目的	①幸福度や社会進歩の優れた測定方法があれば、公共政策に有益な情報が提供されることを認識し、幸福度を左右する要因を知って、そこから幸福度の向上に必要な各種政策を立案すること。 ②社会がどういった種類の進歩を求めていくべきかについて、市民参加の議論を進めること。 ③人々の生活が向上しているのか悪化しているのかを、今までよりも正確に示す各種指標を探すこと。
検討手法	経済実績と社会進歩の測定に関する委員会（ＣＭＥＰＳＰ）の報告書をもとに、「ＯＥＣＤより良い暮らしイニシアチブ」において検討。
種類	主に客観的指標中心で構成されているが、主観的指標（主観的幸福）で構成される領域がある。
表現方法	ダッシュボード方式。 （ただし、参考に各領域の重み付けを均等にした場合等の統合値を示している）
行政評価への活用	具体は示されていない。
その他特徴	・ 物質的な生活環境、生活の質、持続可能性を幸福を測る三本柱と定義。 ・ 生活の質に８領域、物質的な生活状況に３領域を置き、各領域に指標を設定。 ・ 指標は①ヘッドライン指標（質が高く経時的に測定でき、各国間の比較ができるもの）と②二次的指標（対象となる国が少ない等、統計的な質が比較的低いもの）により構成される。 ・ 持続可能性における指標の設定については、今後の課題としており、適切な指標が作成できたところで取り入れる考え。 ・ 各領域に上位下位の概念はない。

出所：OECD（2012）『OECD 幸福度白書』明石書店。

OECD（2015）『OECD 幸福度白書２』明石書店。

内閣府「幸福度指標試案」	
	
目的	①日本における幸福度の原因・要因を探り、国、社会、地域が人々の幸福度を支えるにあたり良い点、悪い点、改善した点、悪化した点は何かを明らかにすること。 ②自分の幸せだけでなく、社会全体の幸せを深めていくため、国、社会、地域が目指す姿を議論し、考えを深めるための手がかりを提供すること。
検討手法	平成 22 年 12 月に「幸福度に関する研究会」発足。 平成 23 年 12 月に「幸福度に関する研究会報告」として幸福度指標試案を公表。
種類	主観的指標と客観的指標を併用している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	具体は示されていない。
その他特徴	・ 主観的幸福感を中心に、経済社会状況、健康、関係性の３本柱で体系化。 別途、現代世代の幸福感が将来世代の幸福感の犠牲の下に進むのは望ましくないという観点から、持続可能性を全体にかかる項目としている。 ・ 現在既存統計で把握できていない指標についても、幸福度を捉えるのに不可欠なものは、それを含めて提案している。 ・ 社会状況の診断書として幸福度指標を活用するため、統合指標を策定せず個々の指標毎に判断する。 ・ ライフステージの違いを勘案して指標を選択している。

出所：内閣府（2011）『幸福度に関する研究会報告　―幸福度指標試案―』。

（公財）東北活性化研究センター「幸福度指標」	
	
目的	東北の暮らしの豊かさを再定義するとともに、東北の幸福度を客観的に評価できる指標により、多様な価値にもとづく持続可能な暮らしと社会を実現していくための指針を明示する。
検討手法	東北活性化研究センター、自治体及び専門家で構成される、幸福度定量化研究会にて検討し、平成 24 年３月に中間報告書を公表。 平成 24 年度には福島県会津美里町をモデルケースとして指標化を検討し、政策評価ツールとしての活用可能性を検証し、平成 25 年３月に報告書を公表。
種類	主観的指標と客観的指標を併用している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	具体は示されていない。
その他特徴	・ 上位に包括項目として主観的幸福度を、下位に個別の８項目を置き、各項目ごとに指標を設定している。 ・ 東北の幸福度を捉える上でより重きを置く点を、次のとおりとしている。 個人よりも地域としての幸福度を高めていくことに重きを置く。 共助社会構築に向け、意識醸成を図るツールとして活用する。 定量化した幸福度を政策へ反映させていく。 国や地域間の相対比較よりも、人々の意識（立ち位置）の把握と過去への振り返りが可能となるよう、経年変化分析を視野に入れる。 住民や行政が地域の幸福度について考え、それを高めていくプロセスを共有化する。

出所：公益財団法人東北活性化研究センター（2012）『幸福度の定量化に関する調査研究　中間報告書』。

公益財団法人東北活性化研究センター（2013）『幸福度の定量化に関する調査研究　報告書』。

ふるさと知事ネットワーク（幹事：福井県）「ふるさと希望指数（ＬＨＩ）」

仕事　やりがいのある仕事に就き、一定水準の収入を得ることが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】
- ○就業している
- ○正規の職員・従業員として働いている
- ○世帯当たりの収入が高い
- ○仕事のためのスキルアップや自己啓発を行っている

家族　お互いに信頼し、支え合うことのできる家族を持つことが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】
- ○結婚して新しい家族を持つ
- ○子どもを持つ
- ○家族でコミュニケーションがとれている
- ○夫婦のワークライフバランスがとれている

健康　子どもから高齢者まで、健康で元気に暮らしていけることが、人々の「希望」につながる

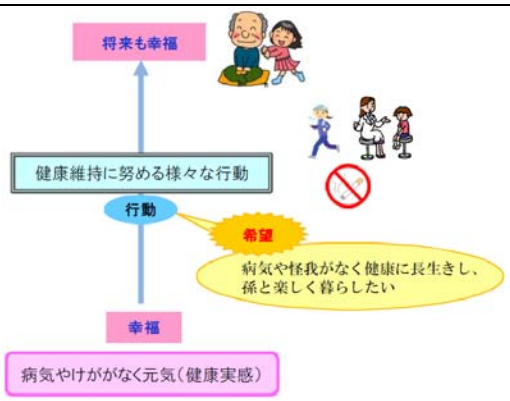
【希望につながる主な要素】
- ○病気やけがなどがなく健康である
- ○健康に長生きする
- ○健康の維持に努めている
- ○子どもの基礎体力が高く元気である

教育　学力や教養、社会性や挑戦力などを身につけ伸ばすことが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】
- ○子どもの学力が高い
- ○子どもの道徳心や社会性が高い
- ○子どもが夢や目標を持って物事に挑戦している
- ○大学等の高等教育機関で学ぶ

地域・交流　地域に魅力（誇り）を感じ、社会貢献活動や地域活動などを通じて、地域や他者とのつながりを持つことが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】
- ○社会貢献活動に参加している
- ○子どもが地域行事に参加している
- ○学校や職場だけでなく、様々な人々と交流している
- ○犯罪や交通事故が少なく、安全・安心な地域である

目的	①行動重視…行政が政策により個人の「行動」をバックアップし、「希望」につながる要素を達成することで、人々の「希望」の向上につなげる。 ②主観的充足感への着目…自分自身が生き方を選択して参画しているという主観的な充足感を高めることにより、人々の「希望」の向上につなげる。 ③「希望」を見える化…人々の「希望」がどのような要素から生まれるのかを明らかにし、人々の「希望」につながる要素を抽出する。 ④未来志向…現在だけでなく、将来や次の世代が良くなることを願う「希望」を持ち、暮らしやすく豊かな未来を自らがつくり上げる。
検討手法	「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」の共同研究プロジェクトとして、「希望」を政策の対象とする研究を実施（平成 22 年～25 年）
種類	客観的指標のみで構成している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	評価は行っていないが、政策形成への参考とするため、各県の先進政策を希望の政策バンクとして蓄積している。
その他特徴	・　東京大学社会科学研究所の「希望学プロジェクト」の知見をもとに、希望を左右する分野として、「仕事」、「家族」、「健康」、「教育」、「地域・交流」の５分野を中心として構成。30 の指標を設定している。  将来も幸福 健康維持に努める様々な行動 行動 希望 病気や怪我がなく健康に長生きし、孫と楽しく暮らしたい 幸福 病気やけががなく元気（健康実感）

出所：自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク　ふるさと希望指数（LHI）研究プロジェクト（2012）『ふるさと希望指数（LHI:Local Hope Index）研究報告書』。

自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク　ふるさと希望指数（LHI）研究プロジェクト（2014）『ふるさと希望指数（LHI:Local Hope Index）共同プロジェクト（第二期）報告書』。

富山県「とやま幸福度関連指標」

柱		指標	富山県数値	順位
主観的幸福感		主観的幸福感（今後、調査）		
経済社会状況	基本的ニーズ	生活保護被保護実人員比率	2.5‰	1
		食料自給率	77%	11
		食品表示が適正な店舗の割合	95.2%	
		自主衛生管理に関する講習会（食の安全アカデミー）の受講者数（累計）	25人	
		消費生活相談解決率	98.7%	
		１世帯当たり負債現在高	437万円	20
		１世帯当たり貯蓄現在高	1,701万円	20
	住居・居住環境	住み良さに関する意識（今後、調査）		
		持ち家比率	78.3%	1
		１人当たり畳数	17.62畳	1
		下水道普及率	78.6%	8
		住宅の耐震化率	68%	
		高齢者が居住する住宅のバリアフリー化率	40%	4
		刑法犯認知件数（人口１万人当たり）	61.1件	6
		交通事故発生件数（人口１万人当たり）	47.2件	16
		気管挿管及び薬剤投与が可能な救急救命士数	77人	

柱		指標	富山県数値	順位
経済社会状況	住居・居住環境	都市公園の面積（都市計画区域内人口比）	14.5㎡	10
		低床バス導入割合	28.1%	11
		市街地の道路網密度	1.86km	13
		高速道路の利用しやすさ	20IC	
		道路の走りやすさ割合	67.8%	10
		市街地ゆとり歩道割合	77.6%	
		良好な景観形成が必要な道路の無電柱化率	50.1%	
		冬期走行しやすさ割合	51.1%	
	教育・子育て	合計特殊出生率	1.42	33
		産婦人科・産科医数（出生千人当たり）	12.1人	6
		小児科医数（小児人口１万人当たり）	11.1人	6
		授業が分かると答える生徒の割合	60.1%	
		県立学校の耐震化率	71.5%	
		子どもの教育において、家庭が役割を果たしていると思う人の割合	10.6%	
		いじめの認知件数（千人当たり）	小5.8件 中9.2件	
		保育所入所待機児童数	0人	1
		病児・病後児保育事業実施箇所数	57か所	

目的	県政の最終的な目標は県民の幸せの充実であり、県民の幸福度を高めるための環境整備を図っていくため、幸福に関連する 150 の指標を選定。 結果を参考に、行政の進むべき方向を見極めるための道しるべとして位置付けている。
検討手法	内閣府及び法政大学の事例を基に、富山県において選定し、県総合計画「新・とやま創造計画」において試みに提示したもの。
種類	主観的指標と客観的指標を併用している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	指標を参考にしながら、県の強みをさらに磨き伸ばし、弱い点は克服して、県民の幸福度を高めるための政策を積極的に展開し、県の魅力の PR やイメージアップにつなげていくとしている。
その他特徴	・ あくまでも県民の幸福度を測るための一つの尺度としている。 ・ 総合計画と指標の領域を一致させていない。

出所：富山県（2012）『富山県総合計画　新・元気とやま創造計画』　。

京都府「京都指標」

京都指標「府民意識調査（平成27年6月実施）」の結果一覧

	質　問　項　目	性質別※	割合		推移		(参考) 25年度 (割合)
				○ 70%以上 × 30%以下	(○増, ×減, 一横ばい)	26年度 (割合)	
府民安心の再構築	子育てに喜びややりがいを感じている親の割合	こころ	94	○	×	96	95
	子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合	絆	81	○	×	87	83
	住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う人の割合	社	78	○	×	81	80
	子どもが将来に夢を持っていると思う親の割合	こころ	82	○			
	子どもの有無にかかわらず、子どもの社会体験活動への協力など、何らかの形で子どもに関する活動に参画している人の割合	絆	31				
	キャリアアップや趣味に関する生涯学習等に取り組んでいる人の割合	こころ	45		○	44	46
	仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合	こころ	75	○	―	75	80
	希望する「働き方」（正社員、派遣社員、パート、アルバイト、自営など）で働くことができている人の割合	社	78	○			
	規則正しい食事や運動など、健康づくりに取り組んでいる人の割合	こころ	71	○	×	74	72
	病気やけがで困ったときに気軽に相談できるかかりつけ医がいる人の割合	社	61		○	60	60
	住んでいる地域に、最寄りの診療機関またはかかりつけ医へ行くための交通手段（電車、バス等）が十分に整っていると思う人の割合	社	72	○	○	69	69
	障害のある人とない人がともに交流したり、活動する場に参加している人の割合	絆	17	×	×	18	20
	趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある高齢者の割合	こころ	61		○	60	64
	家族の介護に負担や苦痛を感じていない家族介護者の割合	こころ	50		○	45	48
	住んでいる地域は、高齢（者）になっても暮らしやすい体制（医療、福祉のほか社会生活全般）が十分に整っていると思う人の割合	社	54				
	地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合	絆	25	×	×	27	24
	地震や大雨などによる災害に備えて、避難場所の確認や非常持ち出し品の備蓄などを行っている人の割合	こころ	32		―	32	29
地域共生の実現	日々の生活の中で、身体の状況、性別、その他について、差別、虐待、誹謗中傷などにより不快な思いをしたことのない人の割合	社	85	○			
	この1年の間にインターネット（フェイスブックやツィッターなど）によって、いじめ、誹謗中傷をされたことのない人の割合	社	98	○			
	地域のさまざまな課題に対応する団体（自治会、NPOなど）の活動に参画している人の割合	絆	30	×	○	22	26
	府や市町村の実施する府民協働の取組や、事業提案・パブリックコメントに対する意見提出など、行政のさまざまな取組に何らかの形で参画している人の割合	絆	11	×	○	10	13
	困ったときに気軽に頼れるご近所さんがいる人の割合	絆	45		×	51	50
	住んでいる地域に、にぎわいや活気があると思う人の割合	社	44				
	地域の祭りや伝統行事などに参画している人の割合	絆	42		―	42	42
	今の社会（家庭・職場・地域社会などのさまざまな場）は、性別によってやりたいことが制限されていると思わない人の割合	社	57				
	住んでいる地域について、個性や魅力を感じている人の割合	社	54		×	62	
	住んでいる地域に、社会生活を送るのに必要な基盤（学校、病院、買い物の場、就業の場などや公共交通機関）が十分に整っていると思う人の割合	社	73	○	―	73	77

目的	総合計画「明日の京都」に掲げた施策指標の達成が、「府民のしあわせの実感」という本質的な目標にかなっているか、府政運営の方向性が府民意識とかけ離れたものになっていないかなどについて点検するために、府民の意識や満足度なども取り入れた指標を設定したもの。
検討手法	―
種類	主観的指標と客観的指標を併用している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	総合計画の実施状況を示すベンチマークレポートにおいて、京都指標の推移についても示し、今後の対応の検討に活用している。
その他特徴	・統計データと府民意識調査の結果から構成されている。 ・主観的な側面を持つ指標であるため、遠い未来にわたって確定的な指標を設定することは困難なことから、社会情勢や府民の皆様の意識の変化等を考慮しながら、柔軟に見直していくこととしている。 ・総合計画と指標の領域を一致させている。 ・「着物を着用している人の割合」等、京都ならではの指標が含まれている。

出所：京都府（2015）『ベンチマークレポート＜「明日の京都」実施状況報告書＞』。

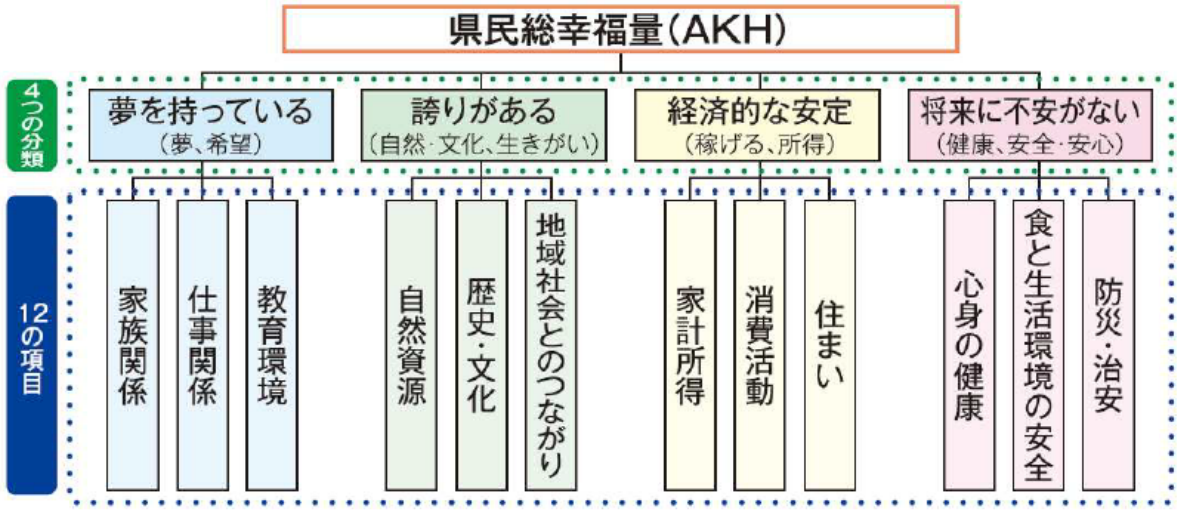
三重県「幸福実感指標」

問2	幸福実感指標	関連する政策分野
(1)	災害等の危機への備えが進んでいると感じる県民の割合	危機管理
(2)	必要な医療サービスが利用できていると感じる県民の割合	命を守る
(3)	犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じる県民の割合	暮らしを守る
(4)	必要な福祉サービスが利用できていると感じる県民の割合	共生の福祉社会
(5)	身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じる県民の割合	環境を守る持続可能な社会
(6)	一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じる県民の割合	人権の尊重と多様性を認め合う社会
(7)	子どものためになる教育が行われていると感じる県民の割合	教育の充実
(8)	地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合	子どもの育ちと子育て
(9)	スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じる県民の割合	スポーツの推進
(10)	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じる県民の割合	地域との連携
(11)	文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができると感じる県民の割合	文化と学び
(12)	三重県産の農林水産物を買いたいと感じる県民の割合	農林水産業
(13)	県内の産業活動が活発であると感じる県民の割合	強じんで多様な産業
(14)	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じる県民の割合	雇用の確保
(15)	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じる県民の割合	世界に開かれた三重
(16)	道路や公共交通機関等が整っていると感じる県民の割合	安心と活力を生み出す基盤

目的	総合計画「みえ県民力ビジョン」の「行動計画」による取組の成果を県民に届けるため、「県民指標」の達成度合いに加え、「幸福実感指標」を新たに設定し、その推移を把握することで「行動計画」の進行管理を行う。
検討手法	―
種類	主観的指標のみで構成している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	調査結果を分析レポートとしてまとめ、庁内関係部局等において、現場のニーズや他の統計調査の結果等と合わせ、県民の幸福実感の向上と政策のあり方等を議論・検討する材料の一つとして活用している。
その他特徴	・総合計画の政策分野ごとに幸福実感指標を定めている。 ・県民意識調査分析ワーキングを設置し、詳細な分析レポートを作成している。

出所：三重県（2012）『みえ県民力ビジョン』。

三重県（2015）『みえ県民意識調査分析レポート（平成 27 年度）－県民の幸福実感向上のために－』。

熊本県「県民総幸福量（Aggregate Kumamoto Happiness：ＡＫＨ）」	
	
目的	①算出行程において、情報を県民の属性や地域特性等に応じて整理し、きめ細やかな施策の立案、実施につなげる。 ②地域の幸福要因を「見える化」することで、各地域がそれぞれの幸福の姿を見出し、それに応じた有効な取組を進めていくことを可能とする。 ③増減を見ることにより「県民幸福度の最大化」に向かっているか否かの「見える化」を可能とする。
検討手法	有識者により構成される「くまもと幸福量研究会」を平成 22 年 10 月に設置。 平成 23 年 7 月に研究会から「県民幸福量を測る指標についての意見書」を受け、平成 23 年 11 月に県民アンケートを実施するとともに、ワークショップを実施。 平成 24 年３月に「県民幸福量を測る指標の作成に係る調査研究報告書」としてとりまとめ、平成 24 年度から導入。
種類	主観的指標のみで構成している。
表現方法	統合方式
行政評価への活用	・ 政策評価への活用：県の総合計画である「幸せ実感くまもと４カ年戦略」の進捗レポートにＡＫＨを掲載。戦略の指標の達成状況とＡＫＨの変化との関連性の分析を進めている。 ・ 政策立案への活用：知事と部局長の政策論議においてＡＫＨの分析結果を基礎資料として活用。 ・ 住民参加型政策形成への活用：地域ごとの幸せを考える場としてワークショップやセミナーを開催。
その他特徴	・ 「夢を持っている」、「誇りがある」、「経済的な安定」、「将来に不安がない」の４分類を幸福要因と定義。 ・ 12 項目の満足度と、重要度（ウエイト）をアンケート調査し、統合指標としている。 ・ 戦略と指標体系を一致させていない。

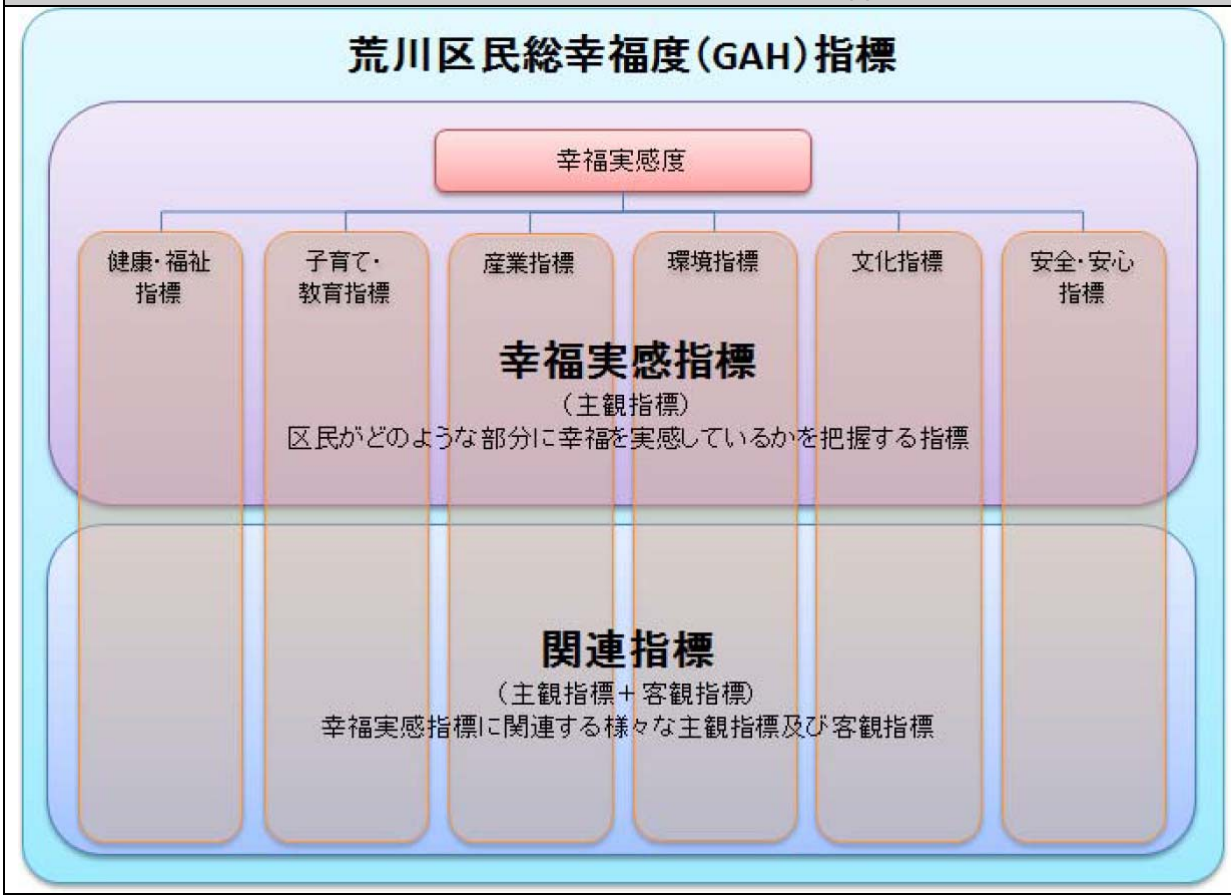
出所：熊本県（2012）『県民幸福量を測る指標の作成に係る調査研究　報告書』。
熊本県（2015）『幸せ実感くまもと４カ年戦略　2015 進捗レポート』。

新潟市「市民の等身大ハッピネス（Net Personal Happiness：ＮＰＨ）」

評価軸	要素	具体指標
1．こどもたちが恵まれている	（1）乳幼児死亡率が低い	0～4歳児1000人当たり死亡者数
	（2）保育所待機児童が少ない	保育所待機児童数
	（3）不登校の児童・生徒が少ない	小学生1000人当たり不登校児童数、中学生1000人当たり不登校生徒数
	（4）少年非行が少ない	15歳未満1000人当たり触法少年補導者数、20歳未満1000人当たり少年犯罪検挙者数
	（5）児童虐待が少ない（大切に育てられている）	15歳未満1000人当たり児童虐待相談件数
	（6）知識・教養を身につける（能力向上）機会が多い	中学校新規卒業者の高等学校進学率、高等学校新規卒業者の大学進学率
2．安心・安全、温かい家庭生活	（1）犯罪や火災が少ない	人口1万人当たり刑法犯認知件数、人口1万人当たり火災件数
	（2）家庭内の不和が少ない	1000世帯当たり家事審判・家事調停受理件数、離婚率
	（3）出生率が高い	20～30歳台女性100人当たり出産数
	（4）不慮の事故や自殺などで身内を失うリスクが小さい	人口10万人当たり交通事故死者数、人口10万人当たり不慮の事故による死者数、人口10万人当たり自殺者数
3．やりがいのある仕事、経済的ゆとり	（1）失業率が低い	完全失業率
	（2）女性にも働く場（活躍の場）が多い	15歳以上女性の有業率
	（3）転職を希望する人が少ない（現在の仕事に満足している）	15～64歳の有業者1000人当たり転職希望者数
	（4）生活保護世帯が少ない	生活保護世帯割合
4．社会とのつながり、連帯、信頼	（1）仕事以外にもつながりを持つ機会が多い	自治会加入率、子ども会加入率、老人クラブ加入率
	（2）他人もルールを守る信頼できる人だと思っている（だから自分もルールを守る）	NHK受信契約率、給食費未納額の割合
5・高齢者も恵まれている	（1）独居老人が少ない	単身居住高齢者の割合
	（2）平均寿命が長い	平均寿命（男女単純平均）
	（3）肉体的に健康な高齢者が多い	高齢者に占める要介護等認定者の割合
	（4）当事者が望む居宅介護の割合が高い	要介護等認定者で居宅介護を受けている人の割合

目的	既存の幸福度指標が国民や市民の生活実感と乖離し、有効な政策ツールとして十分活用されてこなかったことを踏まえ、市民にとってのハピネスとは何かを生活者の視点から洗い出し、その達成状況を測定・評価することを通じて、都市政策に活かす。
検討手法	新潟市都市政策研究所において、平成 21～22 年度に新潟市の都市構想を取りまとめた際に、市民のハピネスの捉え方を検討するとともに、試行的に新潟市民のハッピネスの到達度合いの測定・評価を行ったもの。
種類	客観的指標のみで構成している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	具体は示されていない。
その他特徴	・ 市民のライフステージに着目し、「こども」、「安心・安全、家庭」、「仕事、経済」、「連帯、信頼」、「高齢者」の５つを評価軸とし、それぞれのステージでどういう状況ならば幸福と言えるかを考慮し、30 の指標を設定している。

出所：上山信一・玉山雅敏・千田俊樹（2012）『住民幸福度に基づく都市の実力評価　GDP 志向型モデルから市民の等身大ハッピネス（NPH）へ』時事通信社。

荒川区「荒川区民総幸福度指標（Gross Arakawa Happiness：ＧＡＨ）」	
	
目的	①指標化の側面 区民の幸福度を測定する指標を作成し、そこから区民の幸福実感上の課題や地域において起きている課題を把握することによって行政行動のターゲットを明確化することにより、幸福度向上のための最適な政策・施策・事務事業を実施していく。 ②運動の側面 荒川区に関係するすべての人や団体が、自分自身や身近な人、さらには地域の幸福を考えることを通じて、共に荒川区をより良くしていく運動につなげていこうというもの。
検討手法	シンクタンクである荒川区自治総合研究所が中心になり、次により検討。 ・ ＧＡＨに関する研究会を設置し、多様な分野の有識者により専門的な視点から議論している。 ・ ワーキンググループを設置し、現場職員の視点から指標を議論している。 ・ プロジェクトチームを設置し、指標が政策・施策・事務事業の改善や提案につながるよう検討している。
種類	主観的指標と客観的指標を併用している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	平成 26 年度から、行政評価システムにおける政策・施策分析シートに幸福実感指標を掲載し、評価時の参考にしている。
その他特徴	・ 上位に幸福実感指標を置き、下位に関連指標を置く。 ・ 指標の統合は行わない。 ・ 区の総合計画と指標の領域を一致させており、①政策の実現→②関連指標の達成→③幸福実感指標への反映→④幸福実感度の上昇・維持　の流れを意識。

出所：公益財団法人荒川区自治総合研究所（2011）『荒川区民総幸福度（GAH）に関するプロジェクト中間報告書』。
公益財団法人荒川区自治総合研究所（2012）『荒川区民総幸福度（GAH）に関する研究プロジェクト第二次中間報告書』。

滝沢市「幸福と暮らしに関する指標」	
目的	市総合計画を「住民自治日本一をめざす地域社会計画」と位置付け、住民自治日本一を目指し、市民やコミュニティ等が「幸福感を育む地域環境の創出」に向けて活動するため、総合計画において「幸福実感一覧表」を定めている。 また、市民が安心して地域づくりに取り組むために、行政として取り組むべき内容を「暮らしやすさ一覧表」とし、２つの一覧表に掲げる指標の推移を把握することで市民及び行政の取組の効果を把握している。
検討手法	自治会における懇談会やアンケート調査により市民の幸福感を収集し、岩手県立大学生等による最終検討を行い一覧表を作成した。
種類	主観的指標と客観的指標を併用している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	・幸福実感一覧表 毎年度、幸福実感一覧表の象徴指標を測定することで、市民の取組の成果を図り、次の年度の取組に生かす。 ・暮らしやすさ一覧表 指標の推移を把握し、政策の有効性を確認し、毎年度の市行政への反映を行うこととしている。
その他特徴	・ 幸福実感一覧表は、５項目（①喜び・楽しさ、②成長・学び、③生活環境、④安全・安心、⑤人とのふれあい）について、世代別に指標を設定している。 ・ 暮らしやすさ一覧表は、めざす地域の姿の実現に向けた８つの視点（活かす、支えあう、輝く、暮らす、学ぶ、働く、受け継ぐ、集う）毎に指標を設定している。

出所：滝沢市（2015）『滝沢市第一次滝沢市総合計画』。

参考資料２

幸福について考えるワークショップの概要

ワークショップの概要

１　日時

第１回：平成 29 年１月 12 日（木）13：00～15：30
第２回：平成 29 年３月 16 日（木）18：30～21：30
第３回：平成 29 年７月５日（水）　14：10～16：10

２　場所

第１回：エスポワールいわて　３階特別ホール
第２回：岩手県民会館　４階第１会議室
第３回：岩手県立大学 総合政策学部棟 101 教室

３　参加者

第１回：県内在住の学生 18 名
第２回：県内外の一般の方 12 名
第３回：岩手県立大学生　８名
［コーディネーター］
第１、２回：ＮＰＯ法人いわて地域づくり支援センター常務理事
若菜　千穂　氏（「岩手の幸福に関する指標」研究会委員）
第３回：岩手県職員

４　開催結果

(1)ワークショップの趣旨

○ワークショップを通して、どのようなことに幸福を感じているか、もっと幸福を高めるためにはどうすればいいか、を改めて考えてみること。
○岩手県のいいところや悪いところなどを見つめなおし、幸福のヒントを考えてみること。

(2)ワークショップの手順

参加者が５～６名の班に分かれ、コーディネーターの進行で、幸福カルテの作成、岩手県の特徴の共有、さらに幸福を高めるにはどうするかの意見交換、幸福宣言、全体発表を行った。

主な手順は以下のとおり（詳細は、参考資料３「幸福について考えるワークショップの手引き」を参照のこと）。

①進め方の説明

②幸福カルテをつくってみよう
○幸福カルテの設問に回答（何を重視し、何に満足をしているのかがわかります。）
○集計表を作成（総合的な満足度がわかります。）
○集計表をもとにグラフを作成（重視しているものと、満足しているもののギャップが一目でわかります。）

③幸福カルテの結果を話し合おう
○自分のグラフの特徴を紹介（何を重視しているか、何に不満があるか、など）
○みんなのグラフをもとに意見交換（共通の傾向があるのか、人それぞれなのか、など）

④岩手県の特徴について共有しよう（コーディネーターから説明）

⑤幸福を高めるためにはどうするか考えよう
○岩手の良いところ（満足）、悪いところ（不満、不満）を付せんに書き出し、班の中で内容を紹介

○「さらに幸福を高めるためにはどうすればよいか」を付せんに書き出し、班の中で内容を紹介
○自分は「誰の」幸福を高めるために「何」をするかを「幸福宣言」に書き、班の中で発表

⑥全体発表

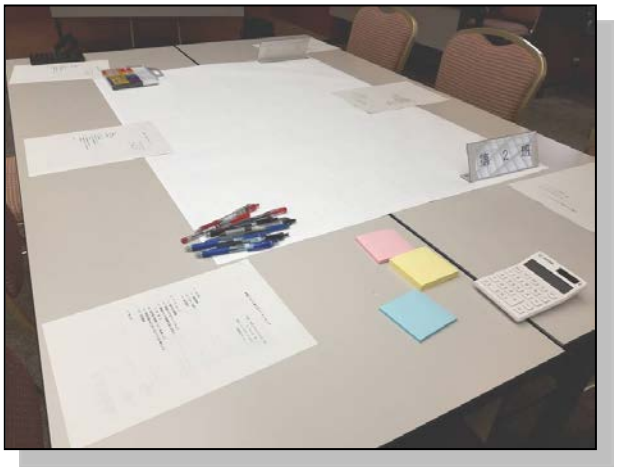
班ごとに「さらに幸福を高めるためにはどうすればよいか」と「幸福宣言」を発表

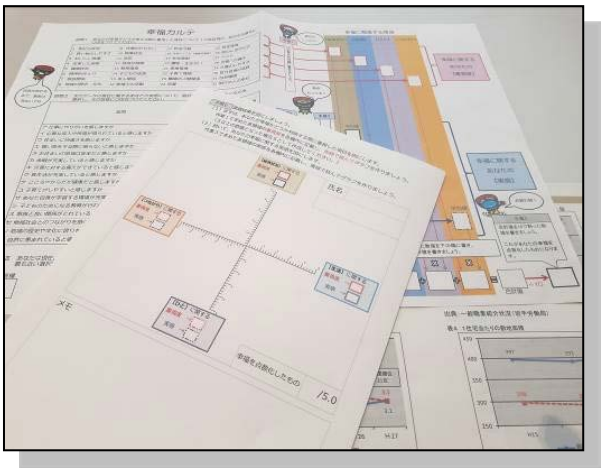
（3）「幸福宣言」の例

第1回	私は	自分	の幸福を高めるために	県内の色々な地域へ旅をします。
		自分		自転車で東北一周をします。
		岩手に来た人		岩手の魅力を体験して発信をします。
		岩手の食の幸福		県外に食の魅力を PR します。
		自分と岩手		岩手のおいしいものをたくさん食べます。
		自分		グルメ探索をします。
		自分		地元の喫茶店巡りをします。
		岩手と自分		街にくりだします！
		自分		自然で遊びます。
		自分		ゲレンデデビューをします。
		自分		睡眠時間を確保します。
		自分		知らない人に声をかける努力をします。
		つながり		町との関係づくりをします。
		私自身		もっと友達と遊びます！
		自分		活動的になれるよう努力をします。
		岩手県民		元気なあいさつをします。
		お客様		飲食店でバイトをします。
		自分		就活をします。
第2回		自分と家族		地域の皆さんの幸せづくりを応援します。
		子どもたち		岩手・地域・雫石を残します。
		大好きな岩手		幸福指標を広めます。
		私と私に関わる人		楽しい事をたくさんします。
		子育てママ		子育て情報等を広めます。
		未来の私		後悔しない仕事をします。
		岩手と地元の人		県や地元の情報発信をします。
		家族		岩手に移住します。
		私と周囲の人		長生きします。
		自分と家族		年次休暇をすべて使います。
		地域		地域行事へ参加します。
第3回		身近な友達と		いろんなところに遊びに行きます。
		自分		やりたい事をします。
		自分		友達とたくさん思い出作りをします。
		岩手		観光名所に集客をします。
		自分		コンサートに行きます。
		ペット		卒論を書きます。ボランティアもします。
		岩手		交通網を増やします。
		自分と岩手県		盛岡で沢山遊び、ずっと住みます。

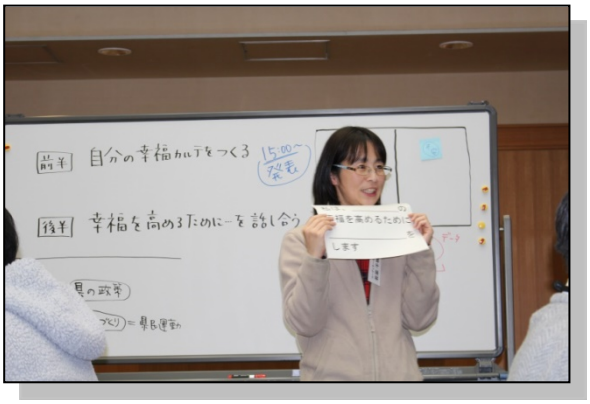
（参考）ワークショップの様子

①開始前：資料、計算機などを用意





②コーディネーターから、ワークショップの流れを説明



③各自、幸福カルテを作成した後、意見交換

④岩手県の特徴について紹介

⑤岩手の良いところ、悪いところ、さらに幸福を高めるためにはどうするかについて意見交換

⑥班の中で、**幸福宣言**を紹介

⑦全体発表

・さらに幸福を高めるためにはどうするかの意見交換の結果

・幸福宣言

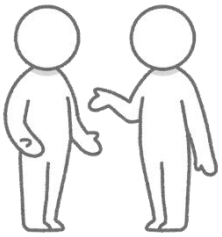
ワークショップのまとめとして、「私は〇〇の幸福を高めるために〇〇をします」という「幸福宣言」を各自記入し、各グループの代表者等に発表してもらいます！

〇参加者の感想

- 「幸福カルテ」を最初に行い、自身の幸福について考える方法はとても良い。
- 幸福について考えるのに効果的だった。
- 幸福について意識したり考えることから幸福は始まるので、ワークショップは有意義だった。
- 幸福宣言は、これからこうしたいと考えることができ、とても良い。
- 幸福って何だろう？と考えれば考えるほど、欲はたくさん出てきますが、一番は当たり前の生活をいつも通り送れることだなと改めて思いました。
- とても興味深く面白い内容のワークショップだった。ぜひもっと大きな規模でやって欲しいと思った。

〇ワークショップの手法に関する主な意見と対応

- 議論の時間は年代に応じて変えてはどうか。
- 短縮バージョン（幸福カルテと意見交換のみなど）があってもいいのではないか。
- 幸福カルテの計算が少し大変だった。早見表があってもいいのではないか。
- 幸福カルテの傾向が似ている者で班編成することも考えられるのではないか。
- 岩手の特徴としては、他の統計データも考えられるのではないか。
- 目的をもっとわかりやすく説明した方がよい。



参考資料３

幸福について考えるワークショップ手引き

幸福について考えるワークショップ

手引き

手引きの目的

この手引きは、県民の皆さんが幸福について考えるためのきっかけとして、どんな場面でも「幸福について考えるワークショップ」を行っていただけるように、その手順等をまとめたものです。

様々な場面に合わせてアレンジしていただき、ワークショップが、皆さんの幸福のヒントを見つけるきっかけになれば幸いです。

目　次

１　趣旨と背景
　１－１　ワークショップの趣旨
　１－２　このワークショップが考えられた背景

２　ワークショップを始めるにあたって

３　ワークショップの手順

ワークショップで使用する資料

1.　趣旨と背景

1-1　ワークショップの趣旨

- ■　このワークショップは、自分が「どのようなことに幸福を感じているか」を知り、「もっと幸福を高めるにはどうすればいいか」を考えるきっかけとなることを目的にしています。
- ■　岩手県のいいところや悪いところなども見つめなおし、幸福のヒントをみんなで探してみましょう。

1-2　このワークショップが考えられた背景

◆岩手県では、「幸福」を、未来を考えるキーワードの１つにしています。

岩手県では、収入などの経済的なゆたかさだけでなく、地域ならではの生き方や人のつながりといったゆたかさが大切という考え方から、「幸福」を、未来を考えるキーワードの１つにしています。そのため、「岩手の幸福に関する指標」研究会を設置し、幸福の研究を進めてきました。

◆平成 29 年９月に、「岩手の幸福に関する指標」についての報告書が取りまとめられました。

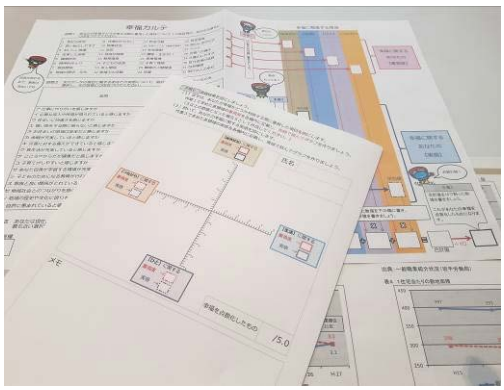
「幸福」といえばブータンが有名ですが、近年は、国際機関や内閣府などでも研究が進められています。また、東京都荒川区や熊本県など「幸福」という考え方を行政に取り入れているところも増えてきています。

研究会では、そういった研究やアンケート調査などを踏まえ、仕事や家庭などの「幸福」に関する要素やそれを政策に活かす方法などについて、平成 29 年９月に報告書を取りまとめました。

◆「幸福を考えるところから幸福は始まる」

研究会では、県民の幸福という観点からは、幸福について理論的・体系的に整理するだけではなく、県民一人ひとりが「幸福」について考えることが大切との意見が出されました。

そこで、研究会と岩手県が一緒になって、多くの人の協力をいただきながら、自分の幸福や周りの人の幸福を考えるきっかけとなるワークショップを考えました。



2.　ワークショップを始めるにあたって

ワークショップの概要と、事前に準備するものなどは以下の通りです。

概要

１　自分の幸福を「見える化」し、みんなで共有する。

まず、参加者は、手順に従って「幸福カルテ」を作成します。

幸福カルテは、幸福感に関連する 12 の領域を、わかりやすさの観点から「経済状況」「生活」「ひと」「関係性」の４つにわけ、自分の幸福を「見える化」するものです。

そして、その結果をみんなで共有したり、比較したりすることで、自分の幸福にとって重要な要素や要因が何なのか、改めて考えてみます。

２　幸福を高めるためにはどうするか、みんなで考える。

自分の幸福や周りの人の幸福を高めるためにはどんなことがしたいか、みんなで話し合います。岩手が優れているところ、岩手で改善すべきところなどを模造紙に書き出しながら、自分にできること、より良い生活につながることなどを考えてみましょう。

ワークショップを始める前に

○　人数

「幸福カルテ」は１人でも作れますが、２人以上で取り組んだ方が誰かと比較することで自分の特性をより知ることができます。

また、参加人数が多くなる場合は、５～６人を目安に班に分かれて行いましょう。（班は、幸福カルテの特徴などで分けても盛り上がるかもしれません。）

○　時間

時間は、概ね２時間から３時間を想定していますが、参加者に応じてアレンジしてください。

例えば、前半の「幸福カルテ」の作成と共有だけを行う短縮バージョンなら、１時間程度で行うこともできます。

○　準備するもの

・この手引き（人数分）
・幸福カルテ（人数分）
・模造紙（班の数分）
・４色の付箋（人数×10 枚程度）
・赤と青のペン（人数分）
・電卓（できれば人数分）
・ホワイトボード（できれば）

3.　ワークショップの手順

※（1）～（5）、（8）だけを行うことで、短縮バージョン（1時間）のワークショップも可能です。

（1）開会・趣旨説明　　５分/計５分

【ポイント】全体の司会(コーディネーター)を決めておきましょう。

（2）進め方の説明　　10 分/計 15 分

（3）各班に分かれて自己紹介　　５分/計 20 分

（4）手順①　自分の幸福カルテをつくってみよう　　15 分/計 35 分

1）幸福カルテを記入する。
2）集計する。
3）集計グラフをつくる。

まずは、個人作業です。

【ポイント】幸福カルテに書いてある手順に沿って、グラフまで作ってみましょう。
資料2に計算早見表もつけていますので、参考にしてください。

（5）手順②　幸福カルテの結果を見せ合おう・比べてみよう　　20 分/計 55 分

1）自分のグラフの特徴をチェックし、理由を考える。
2）自分のグラフの特徴を班で発表して話し合う。

班で話し合います。

【ポイント】グラフの特徴が自分の思っていたものと違っていたら、その理由を考えてみましょう。
幸福の感じ方は人それぞれですので、点数より、グラフの特徴に着目してください。
ニックネームを付け合っても盛り上がるかもしれません。

（6）岩手県の数値的な特徴を知ろう　　10 分/計 65 分

誰かが読み上げます。

【ポイント】一度視点を自分の置かれている環境や周りの人に移してみましょう。
資料3に参考データを載せていますが、参加者などに応じてアレンジしましょう。

（７）「幸福を高めるためには何ができるか」の模造紙をつくろう　　30 分/計 95 分

１）各自で「自分や周りの人の幸福を高めるために、どんなことがしたいか？」を付せんに書き出す（１人５枚以上！）。

２）上記１）で出したアイディアを実現するに当たって、岩手が優れているところ、岩手で改善すべきところを色の違う付せんに書き出す（思いつく範囲で！）。

３）付箋を１人ずつ読み上げながら、模造紙に貼る。

４）似ているものをまとめ、見出しを付ける。

５）「さらに幸福を高めるためには何ができるか」を付箋に書き、模造紙に貼る。

再び班作業

【ポイント】普段思っていることや幸福カルテをやって気づいたことを何でも書き出しましょう。
5)は、1)や 2)で書いたものを参考にしてもいいですし、個人的なことでも構いません。
1)、2)、5)で使う付せんは、それぞれ別の色を用いるとわかりやすいです。
※例：1)の付せんは緑色、2)の岩手が優れているところは青色、岩手で改善すべきところは赤色、5)の付せんは黄色にするなど。

（８）「私の幸福宣言」を書いてみよう　　５分/計 100 分

幸福カルテやみんなで話した内容を思い返しながら、「資料４　私の幸福宣言」を書く。

【ポイント】今日からできそうなこと、できたら面白そうなことなどを書いてみましょう。
自分だけでなく、周りの人を幸せにするための宣言でも構いません。

（９）全体発表　　15 分/計 115 分

班ごとに発表者を決め、２～３分程度で（７）で作成した模造紙や「私の幸福宣言」を発表する。

（10）まとめ　　５分/計 120 分

司会（コーディネーター）が全体の総括を行う。

ワークショップで使用する資料

資料１　幸福カルテ
資料２　幸福カルテ早見表
資料３　岩手県の特徴（統計データ（参考））
資料４　私の幸福宣言

資料１　幸福カルテ

設問Ⅰ　あなたが幸福かどうか考える際に重視した項目について１０項目選び、該当する番号に〇印をつけてください。

1　家計の状況	9　仕事のやりがい	17 貯金の額	25 居住環境
2　買い物のしやすさ	10 就業状況	18 生活インフラ（道路交通等）	26 街のにぎやかさ
3　おいしい食事	11 治安	19 社会貢献	27 ペット
4　充実した余暇	12 自由な時間	20 趣味・生きがい	28 災害への備え
5　健康状況	13 教育環境	21 医療環境	29 介護のしやすさ
6　精神的ゆとり	14 子どもの成長	22 子育て環境	30 自分自身の成長
7　家族関係	15 友人関係	23 職場の人間関係	31 自然環境
8　地域の歴史・文化	16 地域での活動	24 恋愛	32 周りの人の幸せ

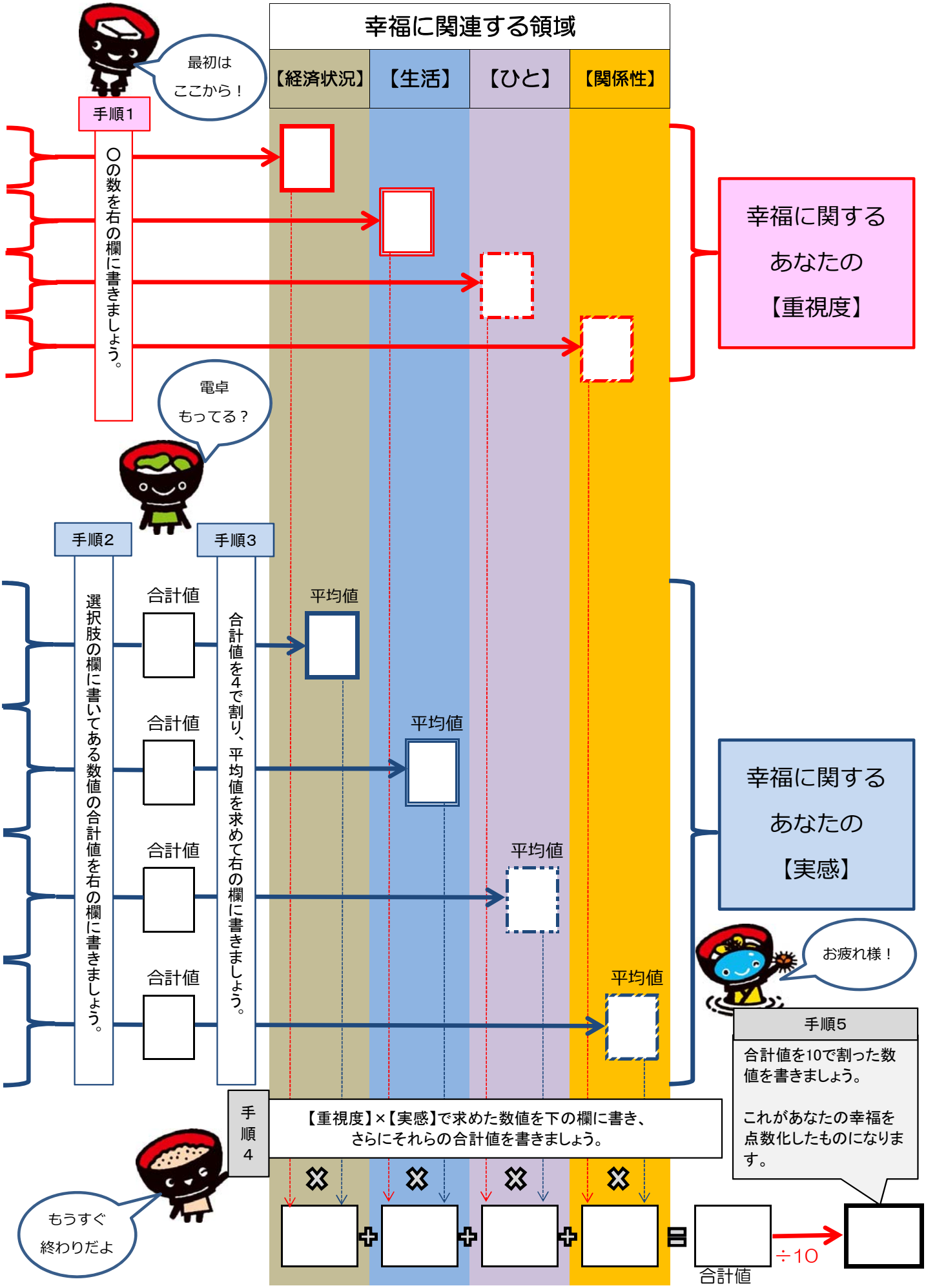
設問Ⅱ　次のア～タの項目に関するあなたの実感について、選択肢の中から最も近いものを選択し、その数値に〇印をつけてください。

設問	選択肢				
	感じる	やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない
ア 仕事にやりがいを感じますか	5	4	3	2	1
イ 必要な収入や所得が得られていると感じますか	5	4	3	2	1
ウ 住まいに快適さを感じますか	5	4	3	2	1
エ 買い物をする際に困らないと感じますか	5	4	3	2	1
オ お住まいの地域は安全だと感じますか	5	4	3	2	1
カ 余暇が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
キ 災害に対する備えができていると感じますか	5	4	3	2	1
ク 食生活が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
ケ こころやからだが健康だと感じますか	5	4	3	2	1
コ 子育てがしやすいと感じますか	5	4	3	2	1
サ あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
シ 子どものためになる教育が行われていると感じますか	5	4	3	2	1
ス 家族と良い関係がとれていると感じますか	5	4	3	2	1
セ 地域社会とのつながりを感じますか	5	4	3	2	1
ソ 地域の歴史や文化に誇りを感じますか	5	4	3	2	1
タ 自然に恵まれていると感じますか	5	4	3	2	1

設問Ⅲ　あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。
最も近い選択肢の数値を書いてください。

回答欄

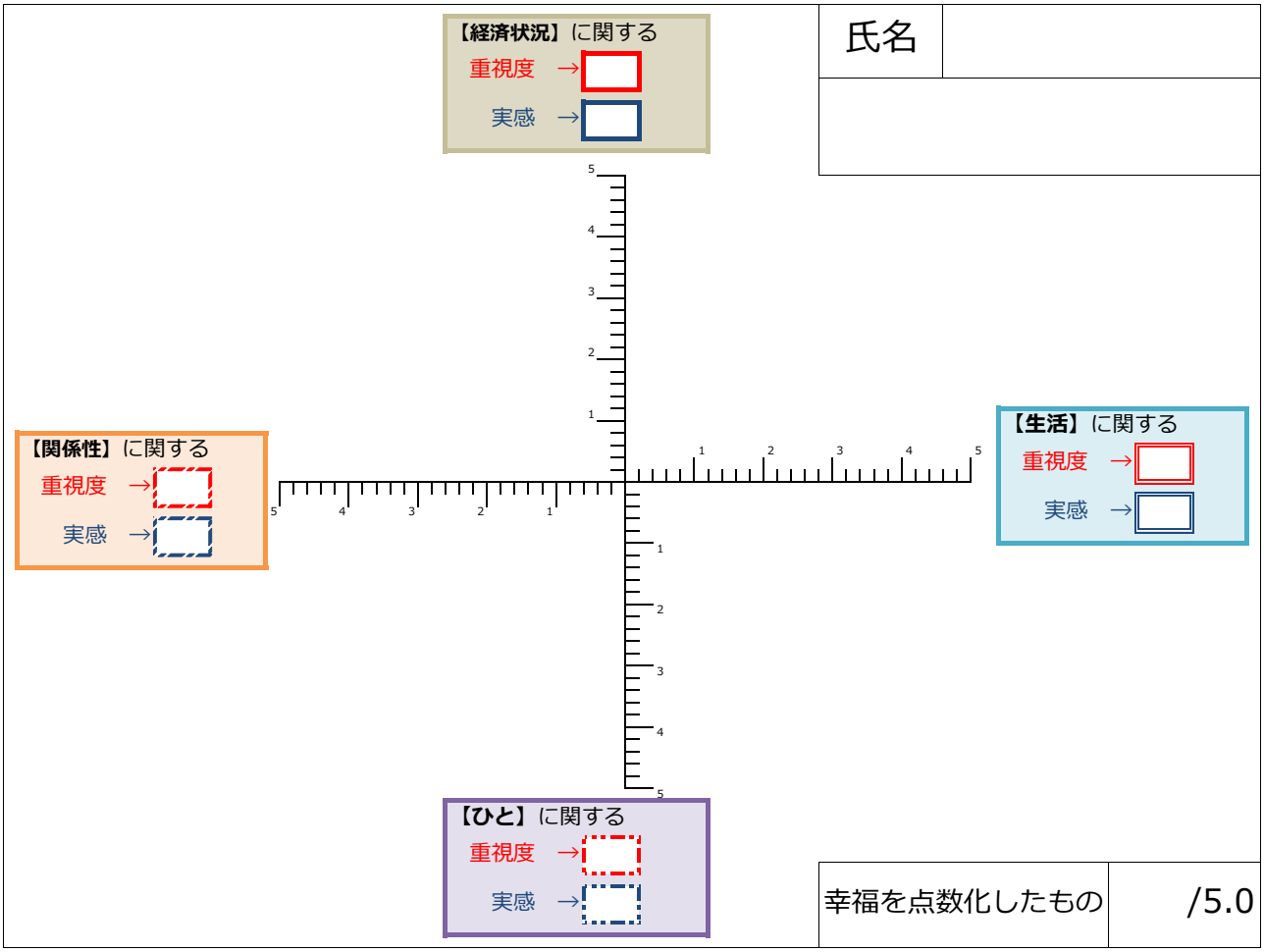
選択肢	
5　幸福だと感じている	2　あまり幸福だと感じていない
4　やや幸福だと感じている	1　幸福だと感じていない
3　どちらともいえない	


幸福に関連する領域
【経済状況】
【生活】
【ひと】
【関係性】
最初は
ここから！
手順1
〇の数を右の欄に書きましょう。
幸福に関する
あなたの
【重視度】
電卓
もってる？
手順2
選択肢の欄に書いてある数値の合計値を右の欄に書きましょう。
手順3
合計値を4で割り、平均値を求めて右の欄に書きましょう。
合計値
合計値
合計値
合計値
平均値
平均値
平均値
平均値
幸福に関する
あなたの
【実感】
お疲れ様！
手順5
合計値を10で割った数値を書きましょう。
これがあなたの幸福を点数化したものになります。
手順4
【重視度】×【実感】で求めた数値を下の欄に書き、
さらにそれらの合計値を書きましょう。
×
×
×
×
＋
＋
＋
＝
合計値
÷10
もうすぐ
終わりだよ

手順６　調査結果を図にしましょう。

（１）まずは、あなたが幸福かどうか判断する際に重視した項目を図にします。
手順１で求めた各領域の重視度を各欄内に記載し、赤線で結んでグラフを作りましょう。
（５以上の数値となった場合５として作成してください。）

（２）続いて、あなたの幸福に関する実感を図にします。
手順３で求めた各領域の実感を各欄内に記載し、青線で結んでグラフを作りましょう。



氏名	

幸福を点数化したもの	/5.0

メモ

グラフの見方

【経済状況】

収入、仕事、居住環境など、経済的な項目で構成される領域です。

この領域が高い人は【家計の状況】【就業状況】【交通の便利さ】【買物のしやすさ】【街のにぎやかさ】などを重視しています。

【経済状況】に関する
重視度 → 4
実感 → 1.8

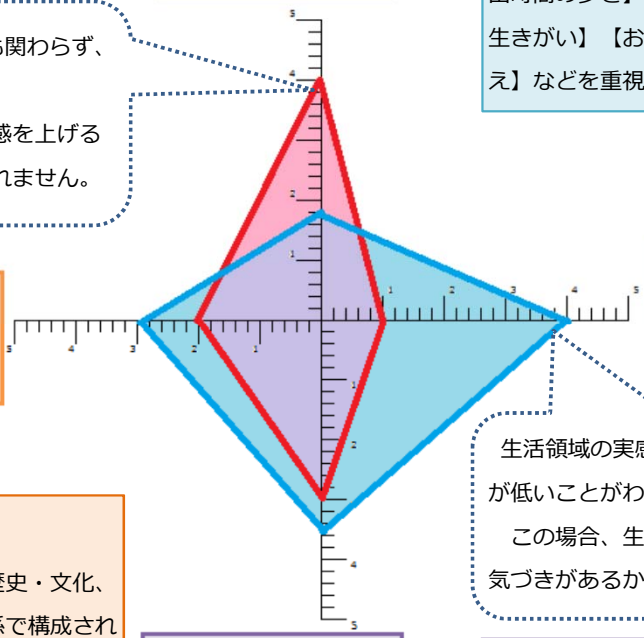
【生活】

安全、余暇など、金銭では表しにくい生活の状態に関する項目で構成される領域です。

この領域が高い人は【治安の良さ】【自由時間の多さ】【充実した余暇】【趣味・生きがい】【おいしい食事】【災害への備え】などを重視しています。

経済状況の重視度が高いにも関わらず、実感が低いことがわかります。

経済状況に関する項目の実感を上げることが幸福につながるかもしれません。



【生活】に関する
重視度 → 1
実感 → 4.0

【関係性】に関する
重視度 → 2
実感 → 3.0

生活領域の実感は高いのですが、重視度が低いことがわかります。

この場合、生活領域に目を向けてみると、気づきがあるかもしれません。

【関係性】

家族、地域とのつながり、歴史・文化、自然環境など、まわりとの関係で構成される領域です。

この領域が高い人は【家族や友人とのつながり】【地域住民とのつながり】【職場の人間関係】【地域での活動】【自然環境や歴史文化】【周りの人の幸せ】　などを重視しています。

【ひと】に関する
重視度 → 3
実感 → 3.5

【ひと】

健康、子育て、教育など、個人の状態や成長などに関する項目で構成される領域です。

この領域が高い人は【心身の健康】【成長の実感】【医療の受けやすさ】【子どもの成長】【子どもや自分の教育】などを重視しています。

ポイント

- 自分の幸福にとって重要な要素を見直してみましょう。
- 極端に高い項目や低い項目があった人は、改めて全体を見てみると、気づきがあるかもしれません。
- 各領域の重視度（ウエイト）と実感の差を見てみましょう。
- 他の人のグラフと比べてみて、感想を伝えてみましょう。
- 幸福につなげるためには、どうすれば良いか考えてみましょう。

資料２

幸福カルテ　早見表

重視度

0	1	2	3	4	5	6	7	8

合計値	平均値	0	1	2	3	4	5	6	7	8
4	1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
5	1.25	0	1.3	2.5	3.8	5	6.3	7.5	8.8	10
6	1.5	0	1.5	3	4.5	6	7.5	9	10.5	12
7	1.75	0	1.8	3.5	5.3	7	8.8	10.5	12.3	14
8	2	0	2	4	6	8	10	12	14	16
9	2.25	0	2.3	4.5	6.8	9	11.3	13.5	15.8	18
10	2.5	0	2.5	5	7.5	10	12.5	15	17.5	20
11	2.75	0	2.8	5.5	8.3	11	13.8	16.5	19.3	22
12	3	0	3	6	9	12	15	18	21	24
13	3.25	0	3.3	6.5	9.8	13	16.3	19.5	22.8	26
14	3.5	0	3.5	7	10.5	14	17.5	21	24.5	28
15	3.75	0	3.8	7.5	11.3	15	18.8	22.5	26.3	30
16	4	0	4	8	12	16	20	24	28	32
17	4.25	0	4.3	8.5	12.8	17	21.3	25.5	29.8	34
18	4.5	0	4.5	9	13.5	18	22.5	27	31.5	36
19	4.75	0	4.8	9.5	14.3	19	23.8	28.5	33.3	38
20	5	0	5	10	15	20	25	30	35	40

（例）平均値が1.75で、重視度が３の場合、手順４の数値は5.3となります。

重視度

0	1	2	3

平均値				
1	0	1	2	3
1.25	0	1.3	2.5	3.8
1.5	0	1.5	3	4.5
1.75	0	1.8	3.5	5.3
2	0	2	4	6

①手順２で書いた合計値の右側にスライドすると・・・

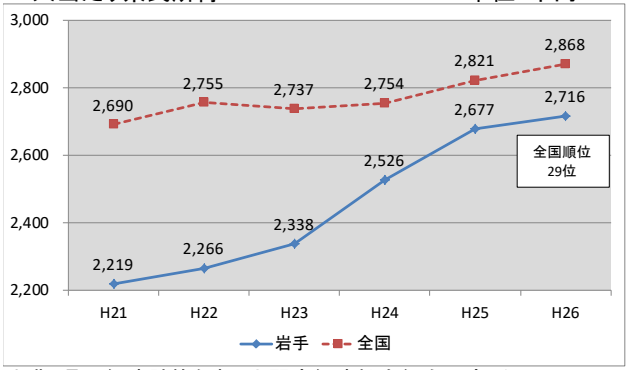
②手順３の平均値が出ます！

③手順３で出した平均値と、手順１で出した重視度が重なるマスを見ると、手順４の数値がわかります！

資料３　岩手県の特徴（統計データ（参考））

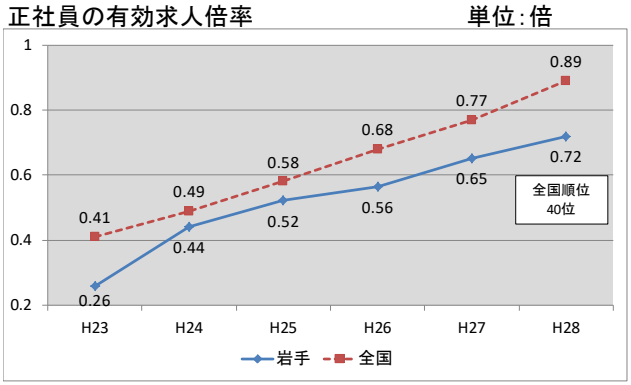
【経済状況】に関する統計データ

一人当たり県民所得　　単位：千円



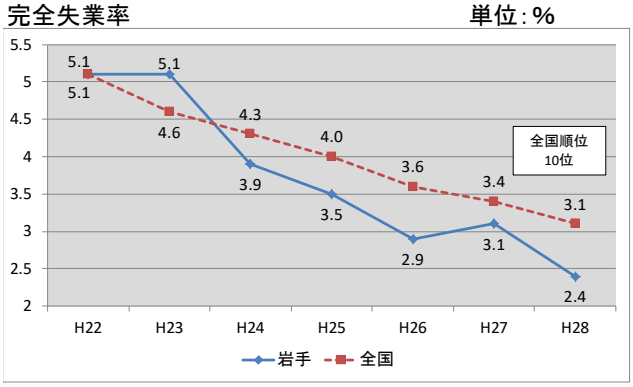
出典：県民経済計算年報（内閣府経済社会総合研究所）

正社員の有効求人倍率　　単位：倍



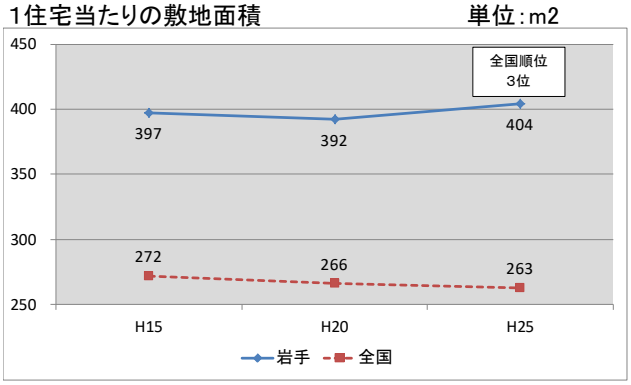
出典：一般職業紹介状況（岩手労働局）

完全失業率　　単位：％



出典：労働力調査（基本集計）都道府県別結果（総務省統計局）

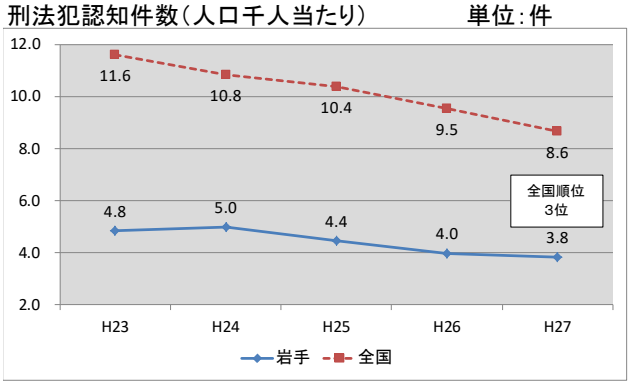
1住宅当たりの敷地面積　　単位：m2



出典：住宅・土地統計調査（総務省統計局）

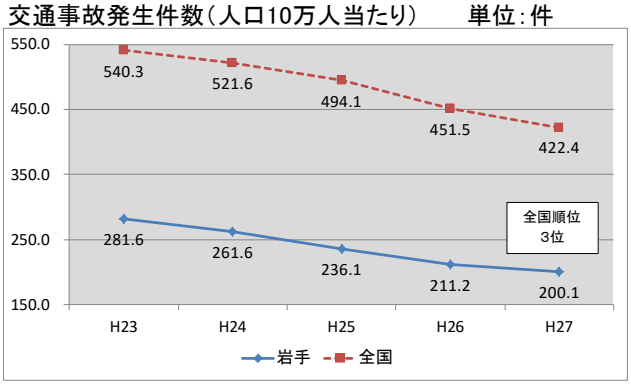
【生活】に関する統計データ

刑法犯認知件数（人口千人当たり）　　単位：件



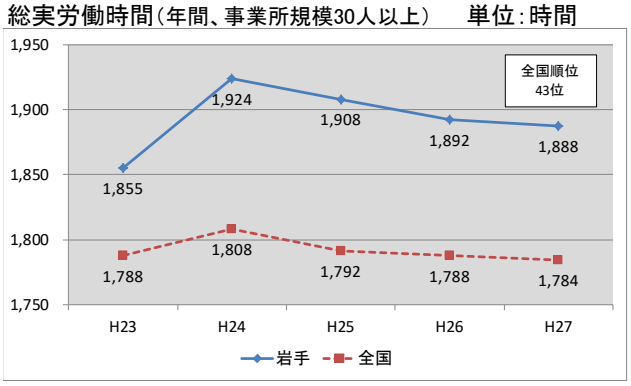
出典：いわて統計白書（岩手県調査統計課）

交通事故発生件数（人口10万人当たり）　　単位：件



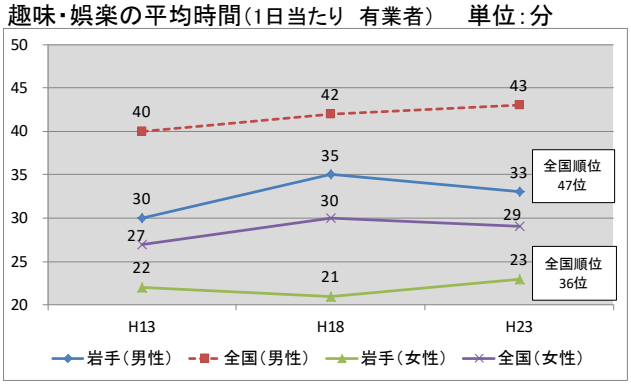
出典：いわて統計白書（岩手県調査統計課）

総実労働時間（年間、事業所規模30人以上）　　単位：時間



出典：毎月勤労統計調査地方調査（厚生労働省）

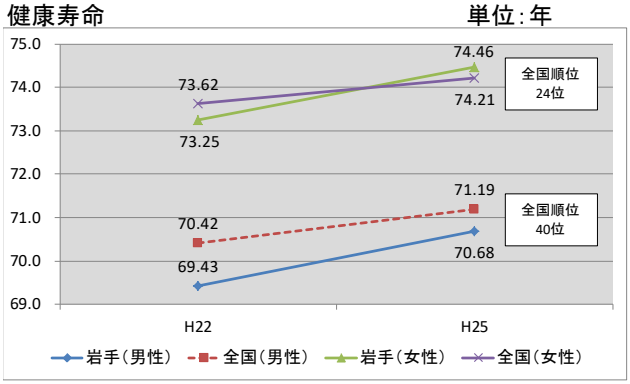
趣味・娯楽の平均時間（1日当たり　有業者）　　単位：分



出典：社会生活基本調査結果（総務省統計局）

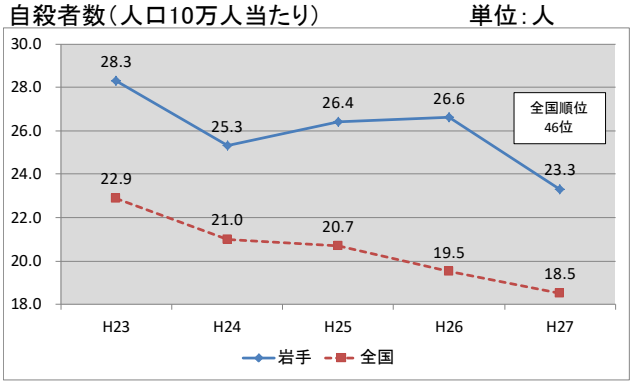
【ひと】に関する統計データ

健康寿命　単位：年



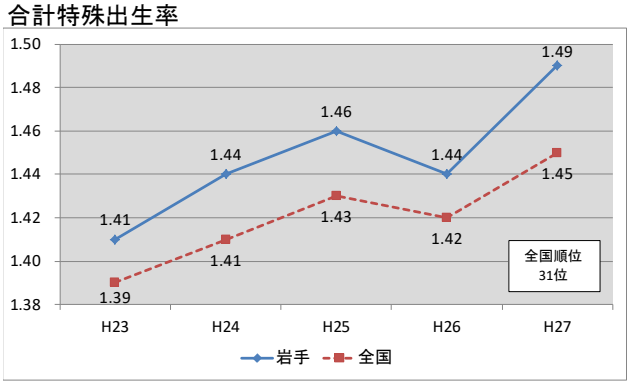
出典：健康寿命の指標化に関する研究（厚生労働科学研究費補助金）

自殺者数（人口10万人当たり）　単位：人



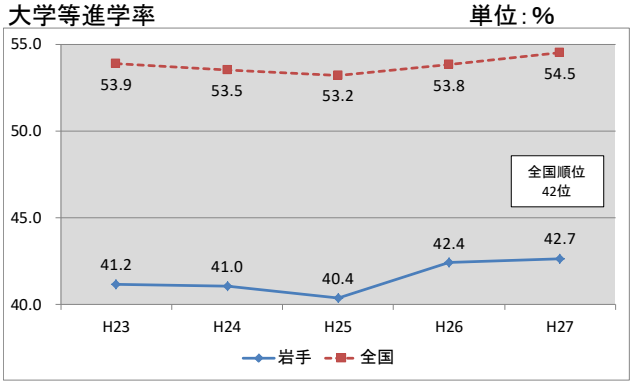
出典：いわて統計白書（岩手県調査統計課）

合計特殊出生率



出典：人口動態統計（厚生労働省）

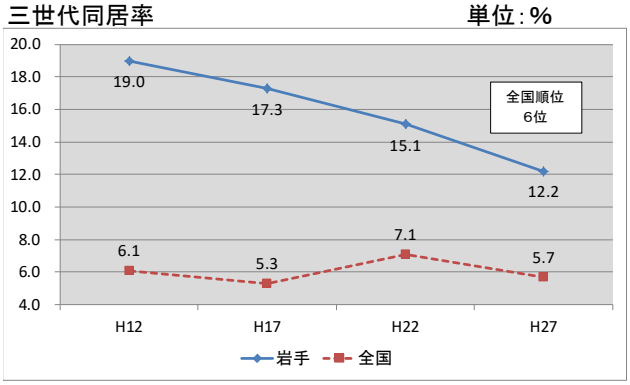
大学等進学率　単位：％



出典：いわて統計白書（岩手県調査統計課）

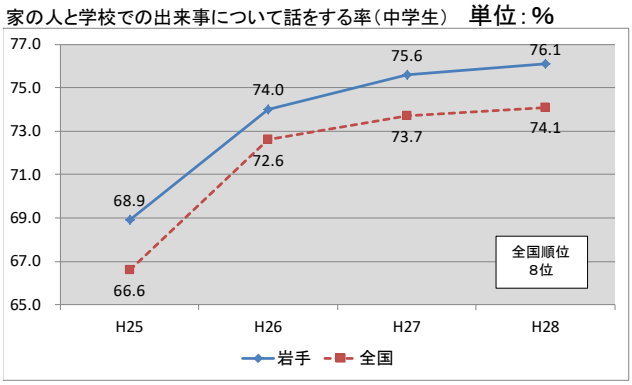
【関係性】に関する統計データ

三世代同居率　単位：％



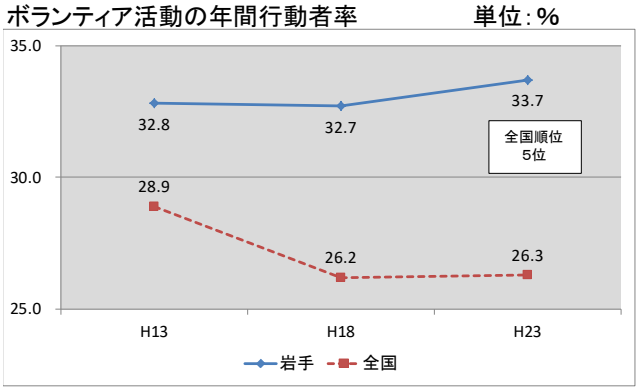
出典：国勢調査（総務省統計局）

家の人と学校での出来事について話をする率（中学生）　単位：％



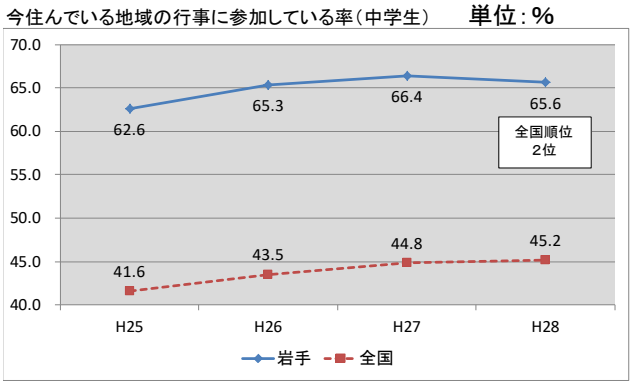
出典：全国学力・学習状況調査（文部科学省）

ボランティア活動の年間行動者率　単位：％



出典：社会生活基本調査結果（総務省統計局）

今住んでいる地域の行事に参加している率（中学生）　単位：％



出典：全国学力・学習状況調査（文部科学省）

私は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

の

幸福を高める

ために

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿をします

参考資料４

平成 28 年及び平成 29 年
「県の施策に関する県民意識調査」
調査票

1　平成 28 年調査票

1　調査の目的

岩手県では、「岩手県東日本大震災津波復興計画（※）」を策定し、東日本大震災津波からの復旧・復興への取組を進めるとともに、これと軌を一にしながら、“私たちが実現していきたい岩手の未来”を描いた**「いわて県民計画」**に掲げる「希望郷いわて」の実現に向けて、計画を推進しています。

この調査は、**「いわて県民計画」**に掲げる「岩手の未来をつくる７つの政策」を推進していくために、**県民の皆様の御意見**をお伺いし、**次の施策に生かしていく**ために行うものです。

「いわて県民計画」　岩手の未来をつくる７つの政策

（1）産業・雇用　～「産業創造県いわて」の実現～
（2）農林水産業　～「食と緑の創造県いわて」の実現～
（3）医療・子育て・福祉　～「共に生きるいわて」の実現～
（4）安全・安心　～「安心して、心豊かに暮らせるいわて」の実現～
（5）教育・文化　～「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現～
（6）環境　～「環境王国いわて」の実現～
（7）社会資本・公共交通・情報基盤　～「いわてを支える基盤」の実現～

※　「岩手県東日本大震災津波復興計画」
東日本大震災津波からの復旧・復興への取組を進めるため、平成 23 年８月に策定した計画。
沿岸地域をはじめとした岩手県全体が、東日本大震災津波を乗り越えて力強く復興するための地域の未来の設計図として、復興に向けての目指す姿や原則、まちづくりのグランドデザイン、具体的取組の内容、復興への歩み等を明らかにしたもの。

2　調査結果の活用方法

県では、平成 13 年度から**政策評価を本格導入**し、県の仕事が目標に向かってうまく機能しているかどうかをチェックし、その結果を次の施策に反映していくことにしています。

今回の**調査結果は、県民の皆様に、より満足していただけるサービスを提供していくための重要な情報として、政策評価や施策の立案などに活用**することにしています。

3　調査の構成と記入の方法

(1)　**１ページから２ページ**までは、**調査についての説明**です。
　３ページから 18 ページまでが、質問になっています。
(2)　質問は、**問１～問４**まであります（問２から問４までは、さらにいくつかの小問に分かれています）。
(3)　回答は、あらかじめ設けている選択肢のあてはまる数字に○印をつけてください（この調査票の所定の欄に直接御記入ください）。
(4)　回答は、**全ての項目**についてお願いいたします。

記入例　　**ここでは、問2（Ｐ4～14）の場合を例示しています。**

問2　次に、１ページで御説明いたしました「７つの政策」に関連する次の１から 46 までの調査項目について、「あなたの重要度」と「あなたの満足度」をお伺いします。あなたの身のまわりを見回してみて、あなたの考えに最も近いものをお答えください。

「あなたの重要度」では、あなたの現在の暮らしにとって、調査項目のような状態を実現することが、どれくらい重要であるかをお答えください。

「あなたの満足度」では、あなたの現在の暮らしから見て、調査項目の状態にどれくらい満足しているかをお答えください。

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
19　犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。	5	4	3	2	(1)	0	5	4	3	(2)	1	0
20　交通事故が少ない社会であること。	(5)	4	3	2	1	0	5	(4)	3	2	1	0

※　「あなたの重要度」の記入例
あなたの現在の暮らしにとって、「19　犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。」という状態を実現することが、どれくらい重要かをお答えいただくものです。
この例では、「重要ではない」と思う場合を例示していますので、数字の「１」に○をつけます。

※　「あなたの満足度」の記入例
あなたの現在の暮らしから見て、「19　犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。」は、どれくらい満足できる状態にあるかをお答えいただくものです。
この例では、「やや不満な状態にある」と思う場合を例示していますので、数字の「２」に○をつけます。

このページから調査票になります。

問1　まず最初にお伺いします。

あなたは、今の生活全般について、どのように感じていますか。

あなたの気持ちに近いものを１つだけ選び、その番号に〇をつけてください。

あなたの満足度 （１つ選び、番号に〇をつけてください）					
満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
5	4	3	2	1	0

問2　次に、１ページで御説明いたしました「７つの政策」に関連する次の１から46の調査項目について、「あなたの重要度」と「あなたの満足度」をお伺いします。あなたの身のまわりを見回してみて、あなたの考えに最も近いものをお答えください。

「あなたの重要度」では、あなたの現在の暮らしにとって、調査項目のような状態を実現することが、どれくらい重要であるかをお答えください。

「あなたの満足度」では、あなたの現在の暮らしから見て、調査項目の状態にどれくらい満足しているかをお答えください。

(1) まず、「産業・雇用」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 （１つ選び、番号に〇をつけてください）						あなたの満足度 （１つ選び、番号に〇をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
1　工場や事業所の新設・増設により、県内経済が活性化していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
2　次の時代の製造業を担う人材が育ち、県内に定着していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
3　地域の農林水産資源や技術を生かした加工食品や木製品が開発され、販売されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
4　魅力ある観光地づくりに、地域で取り組まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
5　身近な商店街が、住民に利用され、にぎわっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
6　中小企業が、人材や技術力、商品、サービスなどを強化して経営力の向上を図り、更に成長・発展していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
7　海外における県産品の販路の拡大が図られること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
8　県内に職を求める人が希望どおりに就職できること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(2) 次に、「農林水産業」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
9　地域の農林水産業の担い手が確保されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10　消費者ニーズに対応した農林水産物の産地が形成されること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
11　本県農林水産物がブランドとして確立され、販路が拡大していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
12　地域活動や都市との交流により活力ある農山漁村が形成されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
13　地球温暖化防止や生態系の維持など環境に配慮した農林水産業が営まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(3) 次に、**「医療・子育て・福祉」**に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
14　必要な医療を適切に受けられること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
15　病気の予防や健康づくりを行うために、相談、指導を受けられること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
16　安心して子どもを生み育てられ、子育てがしやすい環境であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
17　高齢者や障がい者が安心して暮らせる地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(4) 次に、**「安全・安心」**に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
18　地域の防災体制が、住民の協力により整っていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
19　犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
20　交通事故が少ない社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
21　悪質商法、架空請求、多重債務などの消費者トラブルについて、適切な相談や支援を受けられる社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
22　購入する食品の安全性又は信頼性に不安を感じない社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
23　岩手に移り住む人や岩手を訪れる人が増え、地域に活力が生まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
24　だれもが市民活動に参加できる社会であること。〔市民活動とは、NPO、ボランティア、自治会・町内会（子供会行事への参加、清掃や美化活動等を含む）などの活動をさします。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
25　地域全体が一体となって青少年の健全育成に取り組んでいること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
26　女性も男性も社会のあらゆる分野に等しく参画し、一人ひとりの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(5) 次に、「教育・文化」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
27　学校が、学力や体力の向上などの目標に向かって、家庭や地域と一緒になって取り組んでいること。〔学力向上とは、小・中学校では、物事をしっかり考える力が身に付き、高等学校では、目指す進路を実現できる学力が身についていること。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
28　子どもたちの学力が向上する教育がされていること。〔子どもは、小学生から高校生までをお考えください。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
29　子どもたちが、自分の良さを知り、人を思いやる心を持つなど、人間性豊かに育っていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
30　子どもたちが、スポーツや運動に取り組むことによって、体力の向上や心身の健康の保持が図られること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
31　学校が、障がいのある子どもたちを含め、全ての子どもが共に学び共に育つ環境となっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
32　学びたいと思った時に必要な情報が手に入り、自分に適した内容や方法で学ぶことができる環境にあること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
33　県内の大学などが、人材の育成や地域の企業との連携などにより、地域社会に貢献していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
34　郷土の歴史遺産や伝統文化に、誇りや愛着を持てるような取組がされていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
35　地域や学校などで文化芸術（芸術、祭り、行事など）の鑑賞や活動が活発に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
36　外国人に対する理解が進み外国人も暮らしやすい地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
37　スポーツの国際大会や国内外の各種大会において本県選手が活躍していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(6) 次に、「環境」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
38　地球温暖化防止のため、環境にやさしい再生可能エネルギーの利用や省エネルギーなど二酸化炭素等の排出量削減の取組が各地域で活発に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
39　ふだんの暮らしに、ごみの減量化やリサイクル（資源ごみの分別など）が定着していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
40　大気や水がきれいに保たれ、自然や野生動植物を大切にしながら生活していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(7) 次に、**「社会資本・公共交通・情報基盤」**に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度（1つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（1つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
41　高速道路をはじめ、インターチェンジや新幹線駅、港湾、空港などの交通や物流の拠点に通じる道路が整備されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
42　防災施設の整備等が進み、地震や津波、洪水、土砂災害による被害を受けにくい、安心して暮らせる県土であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
43　道路や下水道などの生活基盤の整備や歩道の段差解消等の地域のバリアフリー化などが進み、快適に暮らせる生活環境になっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
44　道路や橋梁、河川、公園などの社会資本の維持管理が適切に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度（1つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（1つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
45　鉄道、バスなどの公共交通機関が維持・確保されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
46　携帯電話やインターネットなどの情報通信ネットワークが暮らしや仕事に生かされていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

問3 県では、“私たちが実現していきたい岩手の未来”を創っていくため、「いわて県民計画」（平成21年度～平成30年度）に掲げる「希望郷いわて」の実現に向けてさまざまな取組を推進しています。

希望郷いわての実現のためには、県民の皆様の「幸福」に関する考え方を知ることが重要と考えており、ここでは、あなたの「幸福度」についてお伺いします。

問3-1 現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。

それぞれの調査項目について、あなたの実感に最も近いものを１つ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	最も近いものを１つ選び、番号に○をつけてください（該当しない調査項目は、「わからない」を選択してください）					
	感じる	やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない	わからない
① 仕事にやりがいを感じますか	5	4	3	2	1	0
② 必要な収入や所得が得られていると感じますか	5	4	3	2	1	0
③ こころやからだが健康だと感じますか	5	4	3	2	1	0
④ 家族と良い関係がとれていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑤ 子育てがしやすいと感じますか	5	4	3	2	1	0
⑥ お住まいの地域は安全だと感じますか	5	4	3	2	1	0
⑦ 地域社会とのつながりを感じますか	5	4	3	2	1	0
⑧ 子どものためになる教育が行われていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑨ 地域の歴史や文化に誇りを感じますか	5	4	3	2	1	0
⑩ 地域の自然環境が守られていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑪ 住まいに快適さを感じますか	5	4	3	2	1	0
⑫ 余暇が充実していると感じますか	5	4	3	2	1	0

問3-2 あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

あなたの幸福感に近いものを１つだけ選び、その番号に○をつけてください。

あなたの現在の幸福感（１つ選び、番号に○をつけてください）					
幸福だと感じている	やや幸福だと感じている	どちらともいえない	あまり幸福だと感じていない	幸福だと感じていない	わからない
5	4	3	2	1	0

問3-3 あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。該当する全ての番号に○をつけてください

1 家計の状況
2 就業状況
3 健康状況
4 自由な時間・充実した余暇
5 仕事のやりがい
6 社会貢献
7 家族関係
8 友人関係
9 職場の人間関係
10 地域コミュニティーとの関係
11 子育て環境
12 治安・防災体制
13 教育環境
14 地域の歴史・文化
15 自然環境
16 居住環境
17 その他（具体的に：　　）

問3-4 あなたは<u>５年後</u>、今より幸福だと思いますか。

最も近いと思うものを１つだけ選び、その番号に○をつけてください。

あなたの<u>５年後</u>の幸福感（１つ選び、番号に○をつけてください）					
今より幸福だと思う	今よりやや幸福だと思う	どちらともいえない	今より幸福だとあまり思わない	今より幸福だと思わない	わからない
5	4	3	2	1	0

アンケートに回答した方（あなた）について伺います。

問4　最後に、お答えいただいた「あなた」御自身のことについておたずねします。これまでお答えいただいたことを統計的に分析するために必要なものですので、該当する番号に○をつけてください。

(1) 性別（○は１つ）

1　男性	2　女性

(2) 年齢（満年齢）（○は１つ）

1　20～29 歳	2　30～39 歳	3　40～49 歳
4　50～59 歳	5　60～69 歳	6　70 歳以上

(3) あなたの主なご職業は何ですか（○は１つ）。

1　自営業主
2　家族従業者
3　会社役員・団体役員
4　常用雇用者　※期間を定めずに又は１年を超える期間を定めて雇われる人
5　臨時雇用者（パート、アルバイトなど）　※日々又は１年以内の期間を定めて雇われる人
6　学生
7　専業主婦（主夫）
8　無職
9　その他（具体的に：　　）

※　(3)で１～５に○をつけられた方のみお答えください。
その業種は何ですか（○は１つ）。

1　農業、林業
2　漁業
3　鉱業、採石業、砂利採取業
4　建設業
5　製造業
6　電気・ガス・熱供給・水道業
7　情報通信業
8　運輸業、郵便業
9　卸売・小売業
10　金融業、保険業
11　不動産業、物品賃貸業
12　学術研究、専門・技術サービス業
13　宿泊業、飲食サービス業
14　その他のサービス業
15　公務
16　その他（具体的に：　　）

(4) あなたの世帯構成はどのようになっていますか（○は１つ）。

1　ひとり暮らし
2　夫婦のみ
3　２世代世帯（親と夫婦、夫婦と子どもなど）
4　３世代世帯（親と夫婦と子ども、夫婦と子どもと孫、祖父母と親と夫婦など）
5　その他

(5) あなたのお子さんは、何人いますか（同居・別居は問いません）。

1　１人	2　２人	3　３人
4　４人	5　５人以上	6　子どもはいない

※　(5)で１～５に○をつけられた方のみお答えください。
あなたのお子さんは、次のどこにあてはまりますか（該当する番号すべてに○をつけてください）。

1　小学校入学前（乳幼児を含む。）
2　小学生
3　中学生
4　高校生
5　高校を卒業し専門学校、短大、大学、大学院に在学
6　学校教育終了で同居
7　学校教育終了で別居
8　その他（具体的に：　　）

(6) あなたは岩手県に住んで通算何年になりますか（○は１つ）。

1　１年未満	2　１～５年未満	3　５～10 年未満
4　10～20 年未満	5　20 年以上	

(7) あなたが現在お住まいの市町村はどこですか（○は１つ）。

県央地域	1 盛岡市	2 八幡平市	3 滝沢市	4 雫石町	5 葛巻町
	6 岩手町	7 紫波町	8 矢巾町		
県南地域	9 花巻市	10 北上市	11 遠野市	12 一関市	13 奥州市
	14 西和賀町	15 金ケ崎町	16 平泉町		
沿岸地域	17 宮古市	18 大船渡市	19 陸前高田市	20 釜石市	21 住田町
	22 大槌町	23 山田町	24 岩泉町	25 田野畑村	
県北地域	26 久慈市	27 二戸市	28 普代村	29 軽米町	30 野田村
	31 九戸村	32 洋野町	33 一戸町		

2　平成 29 年調査票

1　調査の目的

岩手県では、「岩手県東日本大震災津波復興計画（※）」を策定し、東日本大震災津波からの復旧・復興への取組を進めるとともに、これと軌を一にしながら、“私たちが実現していきたい岩手の未来”を描いた**「いわて県民計画」**に掲げる「希望郷いわて」の実現に向けて、計画を推進しています。

この調査は、**「いわて県民計画」**に掲げる「岩手の未来をつくる７つの政策」を推進していくために、**県民の皆様の御意見**をお伺いし、**次の施策に生かしていく**ために行うものです。

「いわて県民計画」　岩手の未来をつくる７つの政策

（1）産業・雇用　～「産業創造県いわて」の実現～
（2）農林水産業　～「食と緑の創造県いわて」の実現～
（3）医療・子育て・福祉　～「共に生きるいわて」の実現～
（4）安全・安心　～「安心して、心豊かに暮らせるいわて」の実現～
（5）教育・文化　～「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現～
（6）環境　～「環境王国いわて」の実現～
（7）社会資本・公共交通・情報基盤　～「いわてを支える基盤」の実現～

※　「岩手県東日本大震災津波復興計画」
東日本大震災津波からの復旧・復興への取組を進めるため、平成 23 年８月に策定した計画。
沿岸地域をはじめとした岩手県全体が、東日本大震災津波を乗り越えて力強く復興するための地域の未来の設計図として、復興に向けての目指す姿や原則、まちづくりのグランドデザイン、具体的取組の内容、復興への歩み等を明らかにしたもの。

2　調査結果の活用方法

県では、平成 13 年度から**政策評価を本格導入**し、県の仕事が目標に向かってうまく機能しているかどうかをチェックし、その結果を次の施策に反映していくことにしています。

今回の**調査結果は、県民の皆様に、より満足していただけるサービスを提供していくための重要な情報として、政策評価や施策の立案などに活用**することにしています。

3　調査の構成と記入の方法

(1)　**１ページから２ページ**までは、**調査についての説明**です。
３ページから 24 ページまでが、質問になっています。
(2)　質問は、**問１～問６**まであります（問２から問６までは、さらにいくつかの小問に分かれています）。
(3)　回答は、あらかじめ設けている選択肢のあてはまる数字に○印をつけてください（この調査票の所定の欄に直接御記入ください）。
(4)　回答は、**全ての項目**についてお願いいたします。

記入例　**ここでは、問2（Ｐ4～13）の場合を例示しています。**

問2　次に、１ページで御説明いたしました「７つの政策」に関連する次の１から 46 までの調査項目について、「あなたの重要度」と「あなたの満足度」をお伺いします。あなたの身のまわりを見回してみて、あなたの考えに最も近いものをお答えください。

「あなたの重要度」では、あなたの現在の暮らしにとって、調査項目のような状態を実現することが、どれくらい重要であるかをお答えください。

「あなたの満足度」では、あなたの現在の暮らしから見て、調査項目の状態にどれくらい満足しているかをお答えください。

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
19　犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。	5	4	3	2	(1)	0	5	4	3	(2)	1	0
20　交通事故が少ない社会であること。	(5)	4	3	2	1	0	5	(4)	3	2	1	0

※　「あなたの重要度」の記入例
あなたの現在の暮らしにとって、「19　犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。」という状態を実現することが、どれくらい重要かをお答えいただくものです。
この例では、「重要ではない」と思う場合を例示していますので、数字の「１」に○をつけます。

※　「あなたの満足度」の記入例
あなたの現在の暮らしから見て、「19　犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。」は、どれくらい満足できる状態にあるかをお答えいただくものです。
この例では、「やや不満な状態にある」と思う場合を例示していますので、数字の「２」に○をつけます。

このページから調査票になります。

問1　まず最初にお伺いします。

あなたは、今の生活全般について、どのように感じていますか。

あなたの気持ちに近いものを１つだけ選び、その番号に〇をつけてください。

あなたの満足度 （１つ選び、番号に〇をつけてください）					
満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
5	4	3	2	1	0

問2　次に、１ページで御説明いたしました「７つの政策」に関連する次の１から46の調査項目について、「あなたの重要度」と「あなたの満足度」をお伺いします。あなたの身のまわりを見回してみて、あなたの考えに最も近いものをお答えください。

「あなたの重要度」では、あなたの現在の暮らしにとって、調査項目のような状態を実現することが、どれくらい重要であるかをお答えください。

「あなたの満足度」では、あなたの現在の暮らしから見て、調査項目の状態にどれくらい満足しているかをお答えください。

(1) まず、「産業・雇用」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 （１つ選び、番号に〇をつけてください）						あなたの満足度 （１つ選び、番号に〇をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
1　工場や事業所の新設・増設により、県内経済が活性化していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
2　次の時代の製造業を担う人材が育ち、県内に定着していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
3　地域の農林水産資源や技術を生かした加工食品や工芸品が開発され、販売されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
4　魅力ある観光地づくりに、地域で取り組まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
5　身近な商店街が、住民に利用され、にぎわっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
6　中小企業が、人材や技術力、商品、サービスなどを強化して経営力の向上を図り、更に成長・発展していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
7　海外における県産品の販路の拡大が図られること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
8　県内に職を求める人が希望どおりに就職できること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(2) 次に、「農林水産業」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
9　地域の農林水産業の担い手が確保されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10　消費者ニーズに対応した農林水産物の産地が形成されること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
11　本県農林水産物がブランドとして確立され、販路が拡大していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
12　地域活動や都市との交流により活力ある農山漁村が形成されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
13　地球温暖化防止や生態系の維持など環境に配慮した農林水産業が営まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(3) 次に、**「医療・子育て・福祉」**に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
14　必要な医療を適切に受けられること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
15　病気の予防や健康づくりを行うために、相談、指導を受けられること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
16　安心して子どもを生み育てられ、子育てがしやすい環境であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
17　高齢者や障がい者が安心して暮らせる地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(4) 次に、**「安全・安心」**に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
18　地域の防災体制が、住民の協力により整っていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
19　犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
20　交通事故が少ない社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
21　悪質商法、架空請求、多重債務などの消費者トラブルについて、適切な相談や支援を受けられる社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
22　購入する食品の安全性又は信頼性に不安を感じない社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
23　岩手に移り住む人や岩手を訪れる人が増え、地域に活力が生まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
24　だれもが市民活動に参加できる社会であること。〔市民活動とは、NPO、ボランティア、自治会・町内会（子供会行事への参加、清掃や美化活動等を含む）などの活動をさします。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
25　地域全体が一体となって青少年の健全育成に取り組んでいること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
26　女性も男性も社会のあらゆる分野に等しく参画し、一人ひとりの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(5) 次に、「教育・文化」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
27　学校が、学力や体力の向上などの目標に向かって、家庭や地域と一緒になって取り組んでいること。〔学力向上とは、小・中学校では、物事をしっかり考える力が身に付き、高等学校では、目指す進路を実現できる学力が身についていること。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
28　子どもたちの学力が向上する教育がされていること。〔子どもは、小学生から高校生までをお考えください。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
29　子どもたちが、自分の良さを知り、人を思いやる心を持つなど、人間性豊かに育っていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
30　子どもたちが、スポーツや運動に取り組むことによって、体力の向上や心身の健康の保持が図られること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
31　学校が、障がいのある子どもたちを含め、全ての子どもが共に学び共に育つ環境となっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
32　学びたいと思った時に必要な情報が手に入り、自分に適した内容や方法で学ぶことができる環境にあること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
33　県内の大学などが、人材の育成や地域の企業との連携などにより、地域社会に貢献していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
34　郷土の歴史遺産や伝統文化に、誇りや愛着を持てるような取組がされていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
35　地域や学校などで文化芸術（芸術、祭り、行事など）の鑑賞や活動が活発に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
36　外国人に対する理解が進み外国人も暮らしやすい地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
37　スポーツの国際大会や国内外の各種大会において本県選手が活躍していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(6) 次に、「環境」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度（１つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（１つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
38　地球温暖化防止のため、環境にやさしい再生可能エネルギーの利用や省エネルギーなど二酸化炭素等の排出量削減の取組が各地域で活発に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
39　ふだんの暮らしに、ごみの減量化やリサイクル（資源ごみの分別など）が定着していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
40　大気や水がきれいに保たれ、自然や野生動植物を大切にしながら生活していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(7) 次に、**「社会資本・公共交通・情報基盤」**に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度（1つ選び、番号に○をつけてください）						あなたの満足度（1つ選び、番号に○をつけてください）					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
41　高速道路をはじめ、インターチェンジや新幹線駅、港湾、空港などの交通や物流の拠点に通じる道路が整備されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
42　防災施設の整備等が進み、地震や津波、洪水、土砂災害による被害を受けにくい、安心して暮らせる県土であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
43　道路や下水道などの生活基盤の整備や歩道の段差解消等の地域のバリアフリー化などが進み、快適に暮らせる生活環境になっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
44　道路や橋梁、河川、公園などの社会資本の維持管理が適切に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
45　鉄道、バスなどの公共交通機関が維持・確保されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
46　携帯電話やインターネットなどの情報通信ネットワークが暮らしや仕事に生かされていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

ここからは、あなたの行動についてお伺いします。

問３－１　大きな病院と診療所（開業医）の役割分担についてお伺いします。
あなたは、大きな病院と診療所（開業医）の役割分担について知っていますか。

（あてはまるもの1つに○印）

１．知っている　　２．知らない

問３・２　地球温暖化防止への対応についてお伺いします。
あなたは、地球温暖化防止のため、普段どのような行動に努めていますか。
以下のそれぞれの行動の状況についてお答えください。

行動の内容＼行動の状況	行動の状況は			
	だいたい実行している	ときどき実行している	ほとんど実行していない	運転しない
（回答例）「①冷暖房時の室温は適切な温度に設定している」について、「２．ときどき実行している」場合、２に○印をつける。	1	(2)	3	
①冷暖房時の室温は適切な温度に設定している（冷房時 28℃以上、暖房時 20℃以下）	1	2	3	
②不要なときはテレビや照明などのスイッチを切る	1	2	3	
③食事は残さず食べるなど生ごみを減らす	1	2	3	
④火力調節を行うなど省エネを心がけて調理する	1	2	3	
⑤詰め替え用洗剤や古紙を再利用した紙製品など環境に配慮した商品を利用する	1	2	3	
⑥洗顔や食器洗いのときに水を流したままにしない	1	2	3	
⑦外出はできるだけ自動車の利用を控え、自転車や公共交通機関を利用する	1	2	3	
⑧自動車を運転するときに、少しゆるやかな発進や、加減速の少ない運転など燃費向上を心がけている（注）	1	2	3	4

（注）自動車を運転しない人は「４．運転しない」を選択してください。

問３・３　ごみの減量化への対応についてお伺いします。
あなたは、ごみの減量化などのため、普段どのような行動に努めていますか。
以下のそれぞれの行動の状況についてお答えください。

行動の内容＼行動の状況	行動の状況は		
	だいたい実行している	ときどき実行している	ほとんど実行していない
（回答例）「①買い物のときは買い物袋（マイバッグ）を持参し、レジ袋は辞退している」について、「２．ときどき実行している」場合、２に○印をつける。	1	(2)	3
①買い物のときは買い物袋（マイバッグ）を持参し、レジ袋は辞退している	1	2	3
②過剰な包装を断ったり、簡易な包装の商品を選んでいる	1	2	3
③コンポスト（注）などにより生ごみを再資源化したり、水切りネットを使用して、生ごみの量を減らしている	1	2	3
④再生品（リサイクル商品）を積極的に購入している	1	2	3
⑤使い捨て商品の購入を控えている	1	2	3
⑥リターナブル容器（繰り返し使用される容器）や詰め替え商品を利用している	1	2	3
⑦リサイクルショップを利用している	1	2	3
⑧リサイクルやごみの分別収集に協力している（例えば、古紙、ビン、カン、牛乳パック、発泡トレイ、ペットボトル）	1	2	3

（注）コンポスト：生ごみを発酵させて堆肥にする方法

問4 県では、“私たちが実現していきたい岩手の未来”を創っていくため、「希望郷いわて」の実現に向けてさまざまな取組を推進しています。希望郷いわての実現のため、あなたの「幸福」に関する行動や考え方等についてお伺いします。

問4-1 現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。①～⑭の各項目について、あなたの実感に最も近いものを１つ選び、番号に〇をつけてください。

調査項目	最も近いものを１つ選び、番号に〇をつけてください（該当しない調査項目は、「わからない」を選択してください）					
	感じる	やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない	わからない
① 仕事にやりがいを感じますか	5	4	3	2	1	0
② 必要な収入や所得が得られていると感じますか	5	4	3	2	1	0
③ こころやからだが健康だと感じますか	5	4	3	2	1	0
④ 家族と良い関係がとれていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑤ 子育てがしやすいと感じますか	5	4	3	2	1	0
⑥ お住まいの地域は安全だと感じますか	5	4	3	2	1	0
⑦ 地域社会とのつながりを感じますか	5	4	3	2	1	0
⑧ あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑨ 子どものためになる教育が行われていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑩ 地域の歴史や文化に誇りを感じますか	5	4	3	2	1	0
⑪ 自然に恵まれていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑫ 地域の自然環境が守られていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑬ 住まいに快適さを感じますか	5	4	3	2	1	0
⑭ 余暇が充実していると感じますか	5	4	3	2	1	0

問4-2 あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。
最も近いものを１つだけ選び、その番号に〇をつけてください。

あなたの現在の幸福感（１つ選び、番号に〇をつけてください）					
幸福だと感じている	やや幸福だと感じている	どちらともいえない	あまり幸福だと感じていない	幸福だと感じていない	わからない
5	4	3	2	1	0

問4-3 あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。該当する全ての番号に〇をつけてください

1 家計の状況
2 就業状況
3 健康状況
4 自由な時間・充実した余暇
5 仕事のやりがい
6 社会貢献
7 家族関係
8 友人関係
9 職場の人間関係
10 地域コミュニティーとの関係
11 子育て環境
12 治安・防災体制
13 教育環境
14 地域の歴史・文化
15 自然環境
16 居住環境
17 その他 （具体的に：　　）

問4-4　あなたの周りの人の幸福等について、あなた自身の実感をおたずねします。①～⑥の各項目について、あなたの実感に最も近いものを１つ選び、番号に〇をつけてください。

調査項目	最も近いものを１つ選び、番号に〇をつけてください				
	感じる	やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない
①　身近な周りの人が幸福であると感じますか	5	4	3	2	1
②　周りの人に認められていると感じますか	5	4	3	2	1
③　大切な人を幸福にしていると感じますか	5	4	3	2	1
④　安定した日々を過ごしていると感じますか	5	4	3	2	1
⑤　人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができていると感じますか	5	4	3	2	1
⑥　周りの人たちと同じくらい幸福だと感じますか	5	4	3	2	1

問5　県では、幸福に関連する項目として、「つきあい・交流」、「信頼」、「社会参加」といった「つながり」に注目しており、ここからはあなたの「つながり」に関する行動や考え方等についてお伺いします。

問5-1　あなたは、ご近所の方とどのようなおつきあいをされていますか。つきあいの程度について、次のうちから当てはまるものを１つだけ選び、番号に〇をつけてください。

1　互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている人もいる

2　日常的に立ち話をする程度のつきあいはしている

3　あいさつ程度の最小限のつきあいしかしていない

4　つきあいは全くしていない

問5-2　つきあっているご近所の方の数について、次のうちから当てはまるものを１つだけ選び、番号に〇をつけてください。

1　近所のかなり多くの人と面識・交流がある（概ね２０人以上）

2　ある程度の人との面識・交流がある（概ね５～１９人）

3　近所のごく少数の人とだけと面識・交流がある（概ね４人以下）

4　隣の人がだれかも知らない

問5-3　あなたは、①友人・知人、②親戚・親類とどのようなおつきあいをされていますか。次のうちから当てはまるものを１つずつ選び、番号に〇をつけてください。

調査項目	該当するものを１つ選び、番号に〇をつけてください。					
	日常的にある（毎日から週に数回程度）	ある程度頻繁にある（週に１回～月に数回程度）	ときどきある（月に１回～年に数回程度）	めったにない（年に１回～数年に１回程度）	全くない	該当する人はいない
①　友人・知人とのつきあい（学校や職場以外で）	5	4	3	2	1	0
②　親戚・親類とのつきあい（同居している方を除く）	5	4	3	2	1	0

問5-4　あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。あなたの考え方に最も近いものを１つ選び、番号に○をつけてください。

ほとんどの人は信頼できる	両者の中間	注意するに越したことはない	わからない
3	2	1	0

問5-5　「旅先」や「見知らぬ土地」で出会う人に対して、信頼できると思いますか。あなたの考え方に最も近いものを１つ選び、番号に○をつけてください。

ほとんどの人は信頼できる	両者の中間	注意するに越したことはない	わからない
3	2	1	0

問5-6　あなたは現在、①地縁的な活動、②スポーツ・趣味・娯楽活動、③ボランティア・NPO・市民活動をされていますか。次のうちから当てはまるものを１つずつ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	活動している	活動していない
①　地縁的な活動 （自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会など）	2	1
②　スポーツ・趣味・娯楽活動 （各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習など）	2	1
③　ボランティア・NPO・市民活動 （まちづくり、高齢者・障がい者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、国際協力活動など）	2	1

問5-7　あなたのお住まいの地域（小・中学校区から市町村の範囲）に対する実感をおたずねします。①～④の各項目について、あなたの実感に最も近いものを１つ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	最も近いものを１つ選び、番号に○をつけてください				
	感じる	やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない
①　地域への愛着を感じていますか	5	4	3	2	1
②　ご近所とのつきあいはよいと感じますか	5	4	3	2	1
③　信頼できる人が身近にいると感じますか	5	4	3	2	1
④　地域での活動や社会貢献活動に参加できていると感じますか	5	4	3	2	1

アンケートに回答した方（あなた）について伺います。

問6　最後に、お答えいただいた「あなた」御自身のことについておたずねします。これまでお答えいただいたことを統計的に分析するために必要なものですので、該当する番号に○をつけてください。

(1) 性別（○は１つ）

1　男性	2　女性

(2) 年齢（満年齢）（○は１つ）

1　18～19 歳	2　20～29 歳	3　30～39 歳	4　40～49 歳
5　50～59 歳	6　60～69 歳	7　70 歳以上	

(3) あなたの主なご職業は何ですか（○は１つ）。

1　自営業主
2　家族従業者
3　会社役員・団体役員
4　常用雇用者　※期間を定めずに又は１年を超える期間を定めて雇われる人
5　臨時雇用者（パート、アルバイトなど）　※日々又は１年以内の期間を定めて雇われる人
6　学生
7　専業主婦（主夫）
8　無職
9　その他（具体的に：　　）

※　(3)で１～５に○をつけられた方のみお答えください。
その業種は何ですか（○は１つ）。

1　農業、林業
2　漁業
3　鉱業、採石業、砂利採取業
4　建設業
5　製造業
6　電気・ガス・熱供給・水道業
7　情報通信業
8　運輸業、郵便業
9　卸売・小売業
10　金融業、保険業
11　不動産業、物品賃貸業
12　学術研究、専門・技術サービス業
13　宿泊業、飲食サービス業
14　その他のサービス業
15　公務
16　その他（具体的に：　　）

(4) あなたの世帯構成はどのようになっていますか（○は１つ）。

1　ひとり暮らし
2　夫婦のみ
3　２世代世帯（親と夫婦、夫婦と子どもなど）
4　３世代世帯（親と夫婦と子ども、夫婦と子どもと孫、祖父母と親と夫婦など）
5　その他

(5) あなたのお子さんは、何人いますか（同居・別居は問いません）。

1　１人	2　２人	3　３人
4　４人	5　５人以上	6　子どもはいない

※　(5)で１～５に○をつけられた方のみお答えください。
あなたのお子さんは、次のどこにあてはまりますか（該当する番号すべてに○をつけてください）。

1　小学校入学前（乳幼児を含む。）
2　小学生
3　中学生
4　高校生
5　高校を卒業し専門学校、短大、大学、大学院に在学
6　学校教育終了で同居
7　学校教育終了で別居
8　その他（具体的に：　　）

(6) あなたは岩手県に住んで通算何年になりますか（○は１つ）。

1　１年未満	2　１～５年未満	3　５～10 年未満
4　10～20 年未満	5　20 年以上	

(7) あなたが現在お住まいの市町村はどこですか（○は１つ）。

県央地域	1 盛岡市	2 八幡平市	3 滝沢市	4 雫石町	5 葛巻町
	6 岩手町	7 紫波町	8 矢巾町		
県南地域	9 花巻市	10 北上市	11 遠野市	12 一関市	13 奥州市
	14 西和賀町	15 金ケ崎町	16 平泉町		
沿岸地域	17 宮古市	18 大船渡市	19 陸前高田市	20 釜石市	21 住田町
	22 大槌町	23 山田町	24 岩泉町	25 田野畑村	
県北地域	26 久慈市	27 二戸市	28 普代村	29 軽米町	30 野田村
	31 九戸村	32 洋野町	33 一戸町		

参考資料５

平成 28 年及び平成 29 年
「県の施策に関する県民意識調査」の分析結果

はじめに

1　調査の目的

県では、「いわて県民計画」の政策に関連する項目について、県民の皆様がどの程度の重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか等を定期的に把握するため、県の施策に関する県民意識調査（以下、県民意識調査という）を実施している。

平成 28 年及び平成 29 年の県民意識調査において、岩手の幸福に関する指標の検討に活用するため、県民の主観的幸福感等に関する調査を実施した。

2　調査の概要

	平成 28 年県民意識調査	平成 29 年県民意識調査
(1)調査対象	県内に居住する 20 歳以上の男女	県内に居住する 18 歳以上の男女
(2)調査対象数	5,000 人	〃
(3)抽出方法	選挙人名簿からの層化二段無作為抽出	〃
(4)調査方法	設問票によるアンケート調査（郵送法）	〃
(5)調査時期	平成 28 年１～２月	平成 29 年１～２月
(6)調査項目	ア　生活全般の満足度 イ　いわて県民計画の７つの政策に関連する 46 項目に係る重要度、満足度 ウ　幸福感等に関する調査	ア　生活全般の満足度 イ　いわて県民計画の７つの政策に関連する 46 項目に係る重要度、満足度 ウ　県民の普段の行動について エ　幸福感等に関する調査 オ　つながりに関する調査
(7)有効回収率	71.5%（3,576 人/5,000 人）	68.4%（3,422 人/5,000 人）

(8)回答者属性　　（　）内は%

男女別	回答者数		割合	
	(H28)	(H29)	(H28)	(H29)
男性	1,480	1,450	(41.4)	(42.4)
女性	1,929	1,907	(53.9)	(55.7)
無回答	167	65	(4.7)	(1.9)

年齢別	回答者数		割合	
	(H28)	(H29)	(H28)	(H29)
18～19 歳	－	47	－	(1.4)
20～29 歳	209	203	(5.8)	(5.9)
30～39 歳	372	330	(10.4)	(9.7)
40～49 歳	497	506	(13.9)	(14.8)
50～59 歳	617	617	(17.3)	(18.0)
60～69 歳	811	838	(22.7)	(24.5)
70 歳以上	904	822	(25.3)	(24.0)
無回答	166	59	(4.6)	(1.7)

居住地別	回答者数		割合	
	(H28)	(H29)	(H28)	(H29)
県央広域振興圏	1,014	976	(28.3)	(28.5)
県南広域振興圏	1,065	1,039	(29.8)	(30.4)
沿岸広域振興圏	890	821	(24.9)	(24.0)
県北広域振興圏	607	586	(17.0)	(17.1)

職業別	回答者数		割合	
	(H28)	(H29)	(H28)	(H29)
自営業主	295	276	(8.2)	(8.1)
家族従業者	147	149	(4.1)	(4.4)
会社・団体役員	198	190	(5.5)	(5.5)
常用雇用者	938	965	(26.2)	(28.2)
臨時雇用者	403	421	(11.3)	(12.3)
学生	24	67	(0.7)	(2.0)
専業主婦（主夫）	435	449	(12.2)	(13.1)
無職（60 代未満）	91	61	(2.5)	(1.8)
無職（60 代以上）	731	651	(20.4)	(19.0)
その他	125	117	(3.5)	(3.4)
無回答	189	76	(5.3)	(2.2)

３　用語の解説

（１）生活満足度…調査対象者の生活全般の満足度について、５段階評価で調査したもの。

（２）主観的幸福感…「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、５段階で評価されたもの。

（３）領域別実感…主観的幸福感に関連するとされる領域ごとの実感を問う設問に対し、５段階で評価されたもの。

４　その他

・　県民意識調査の集計の際には、実際の回答数に広域振興圏別の人口構成比を考慮することによって、県全体の調査結果を実勢に近づける集計（母集団拡大集計）を行っているが、本分析においては、広域振興別以外の複数の属性（性別、年齢階層別、世帯構成別等）による分析を行うため、広域振興圏別の母集団拡大集計は実施していない。そのため、数値が「県の施策に関する県民意識調査結果報告書」に示された値と異なる部分がある。

・　各属性別の集計結果については、属性不明の回答を除いたものとなっている。

・　生活満足度、主観的幸福感、領域別実感の平均値は、調査で得られた５段階評価に１から５点を配点し算出している。なお、「わからない」の回答は含めていない。

・　四捨五入の関係で合計と内訳の計とが一致しない場合がある。

第１章　主観的幸福感について

【結果概要】

- 平成 28 年及び 29 年の調査結果で、大きく傾向が異なる項目はなかった。
- 主観的幸福感は、同じ県民意識調査で把握した生活満足度と異なる結果であったことから、生活満足度と別に主観的幸福感を測定する意義がある。
- 多くの属性別集計結果において、先行研究と同様の傾向であった

１　設問

先行研究等における事例を参考に、次の設問により調査対象者の主観的幸福感を調査した。

選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、５段階評価とした。

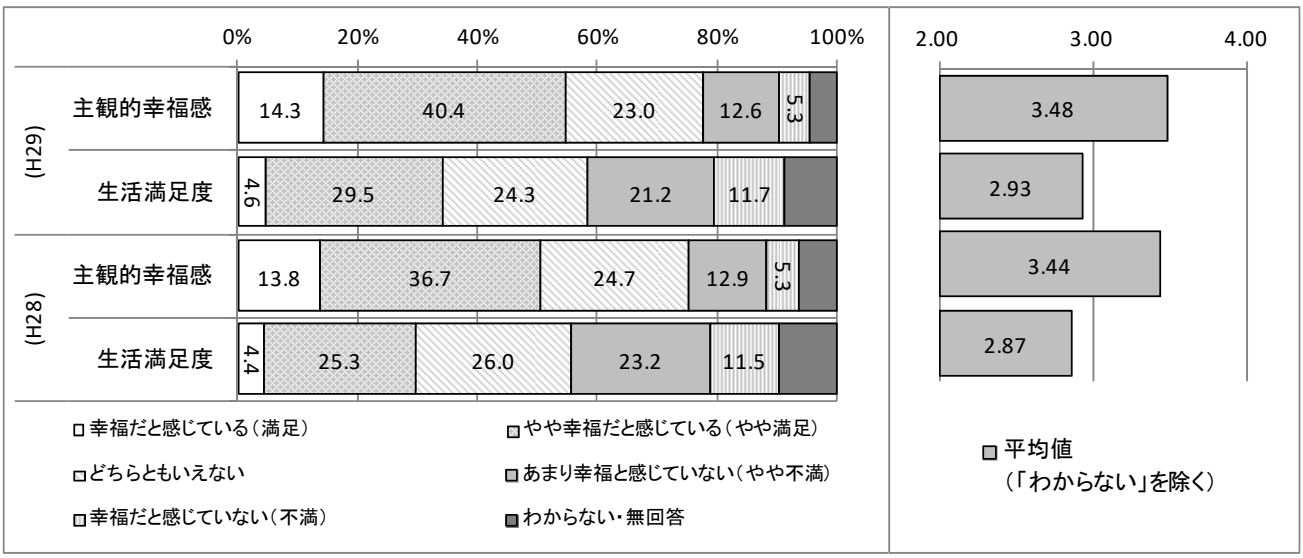
設問	あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。
選択肢	５　幸福だと感じている ４　やや幸福だと感じている ３　どちらともいえない ２　あまり幸福だと感じていない １　幸福だと感じていない ０　わからない

２　集計結果

（１）県全体

半数以上が「幸福」、「やや幸福」と回答し、生活満足度とは異なる結果を示した。

図１　主観的幸福感と生活満足度の結果（県全体）

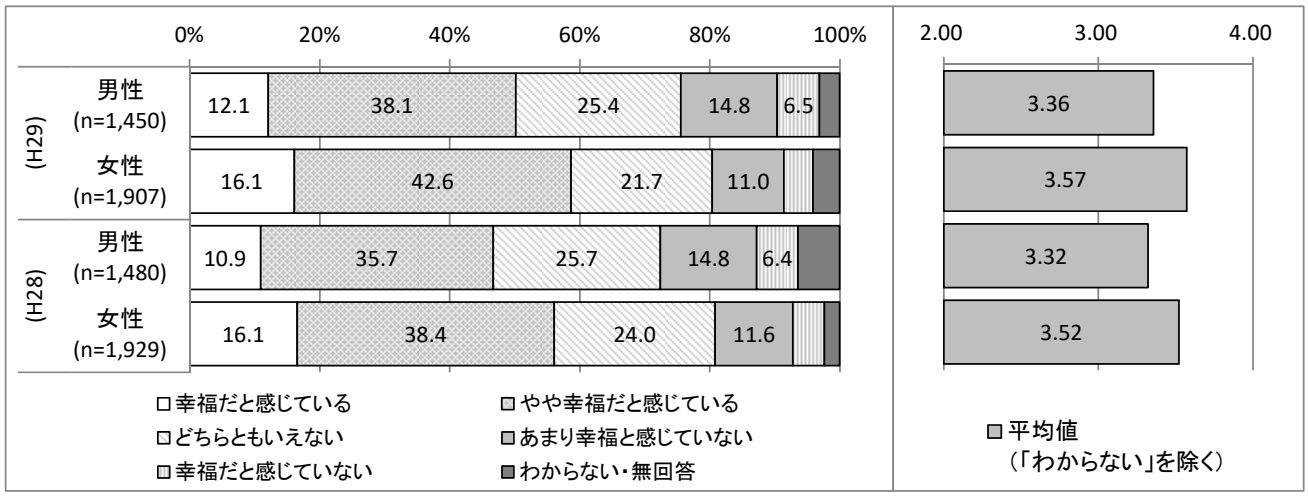


※選択肢の(　)内は、生活満足度の設問における選択肢を表す

（２）性別集計

男性よりも女性の主観的幸福感が高かった。

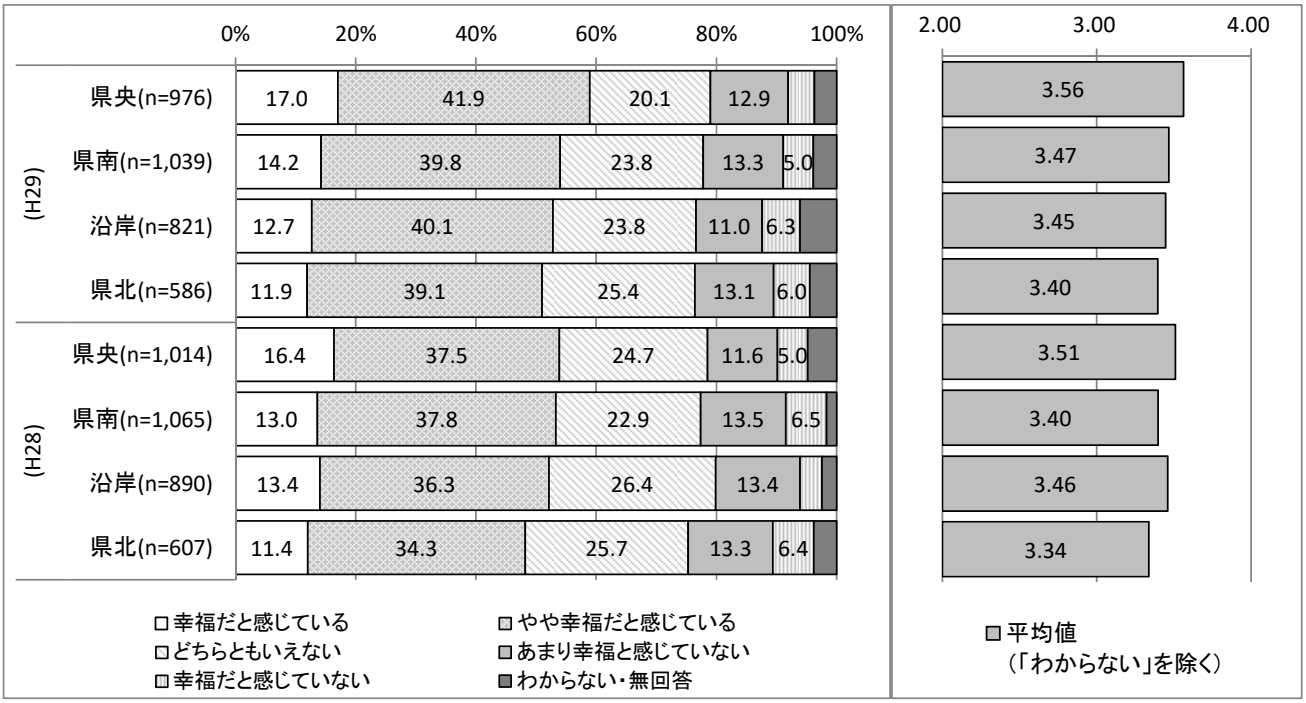
図２　主観的幸福感（性別）



（３）居住地別集計

県央地域の主観的幸福感は高く、県北地域の主観的幸福感は低かった。

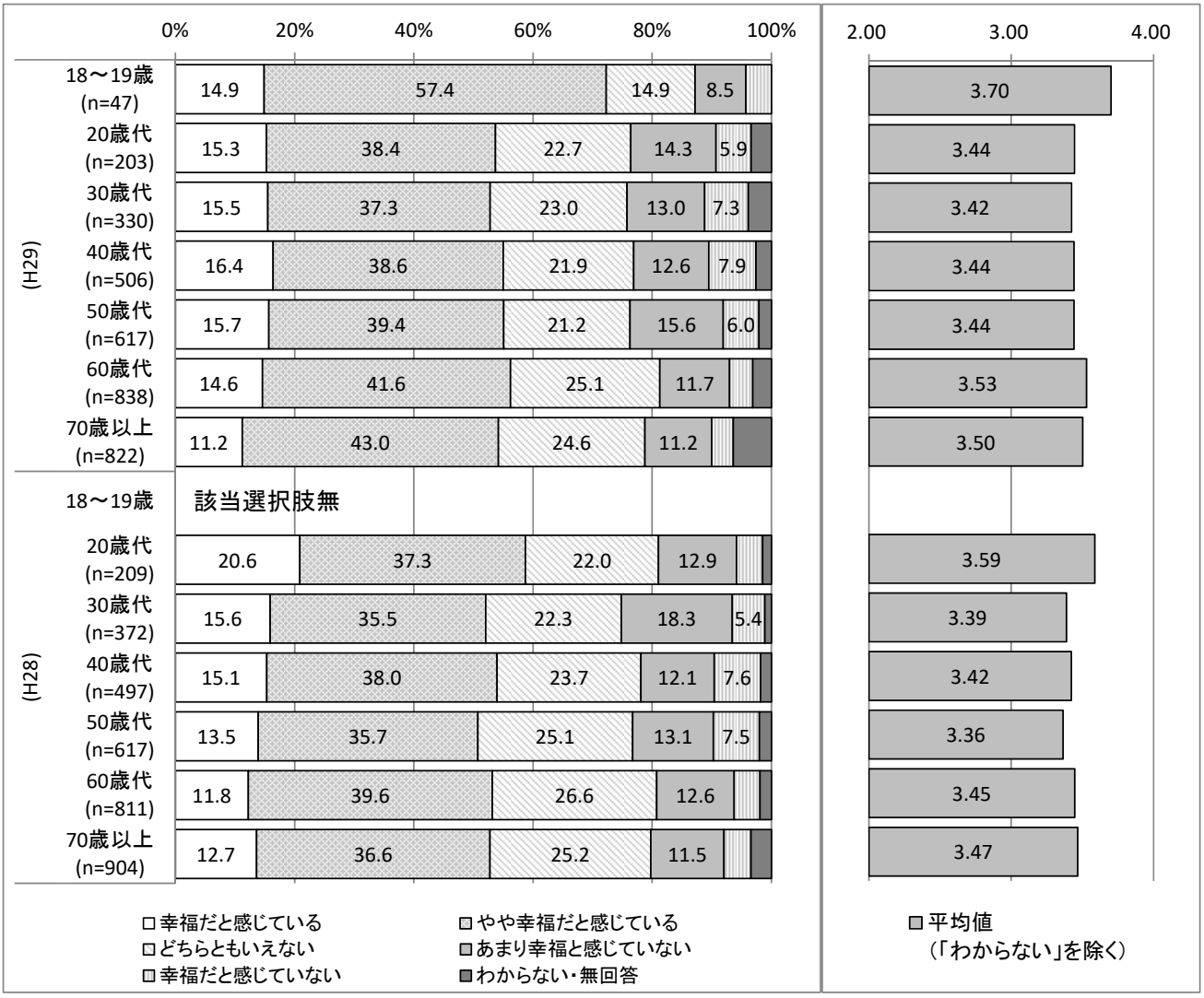
図３　主観的幸福感（居住地別）



（４）　年齢階層別集計

年齢階層別に顕著な差はみられなかったが、30～50 歳代の主観的幸福感が低い傾向があった。

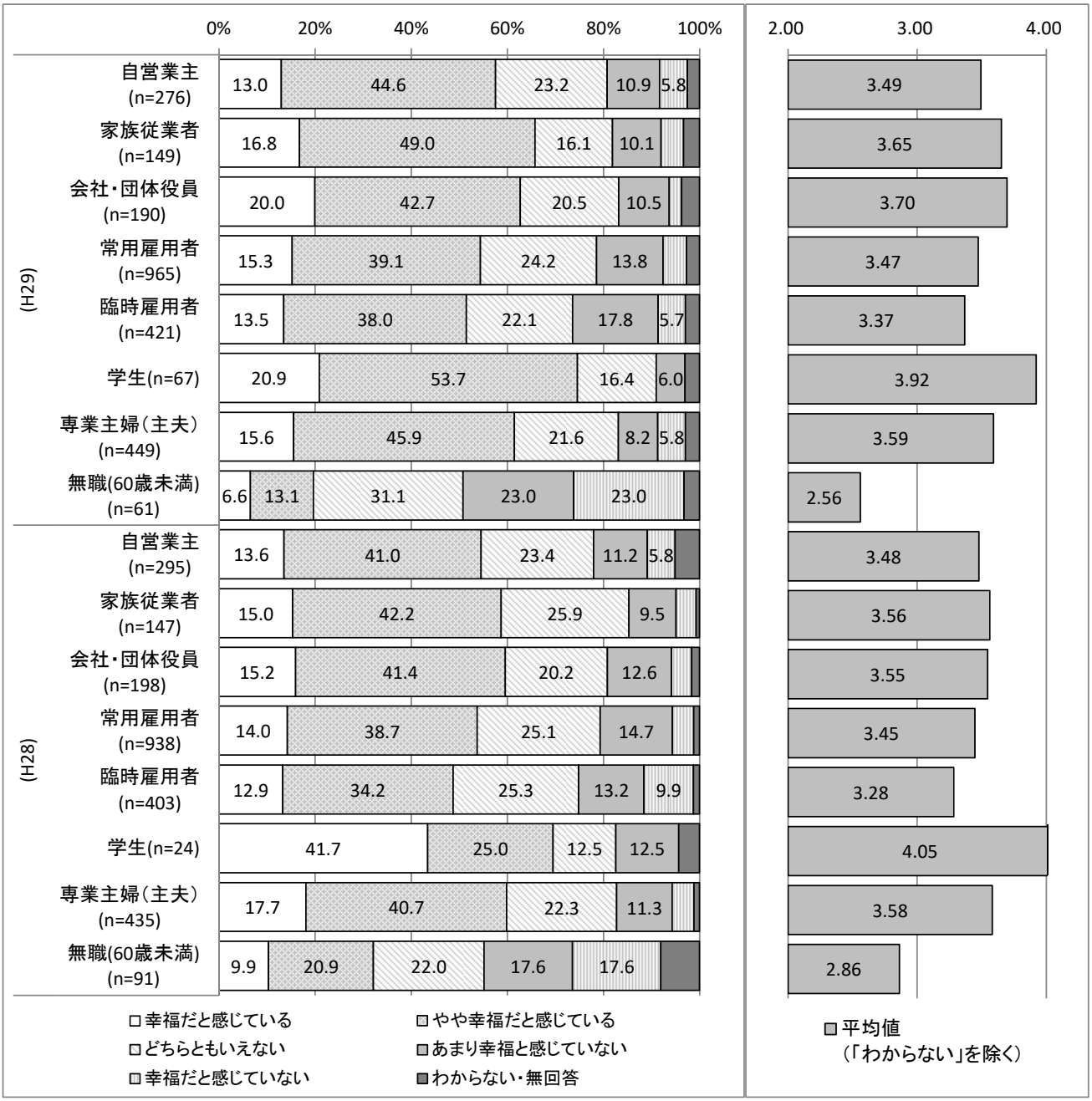
図４　主観的幸福感（年齢階層別）



（５）職業別集計

学生の主観的幸福感は高く、臨時雇用者及び無職の主観的幸福感は低かった。

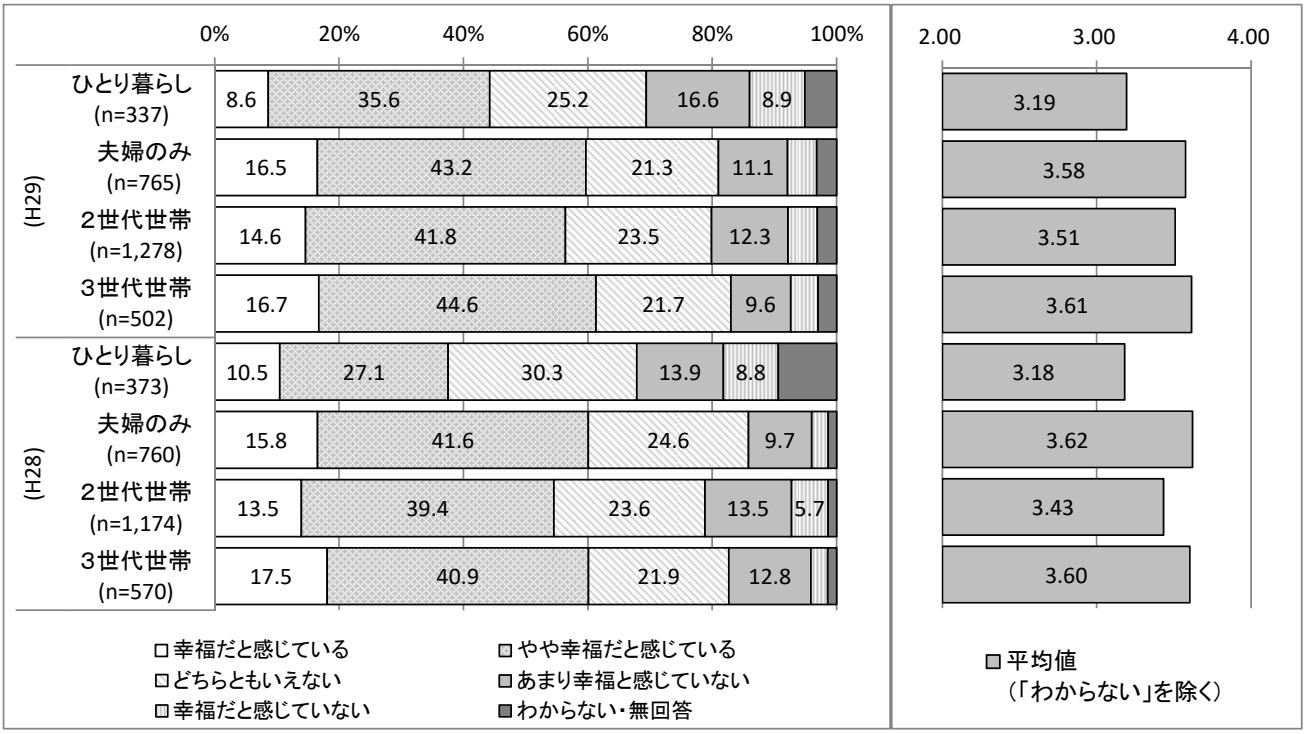
図５　主観的幸福感（職業別）



（６）世帯構成別集計

他の世帯構成に比べ、一人暮らしの主観的幸福感は低かった。

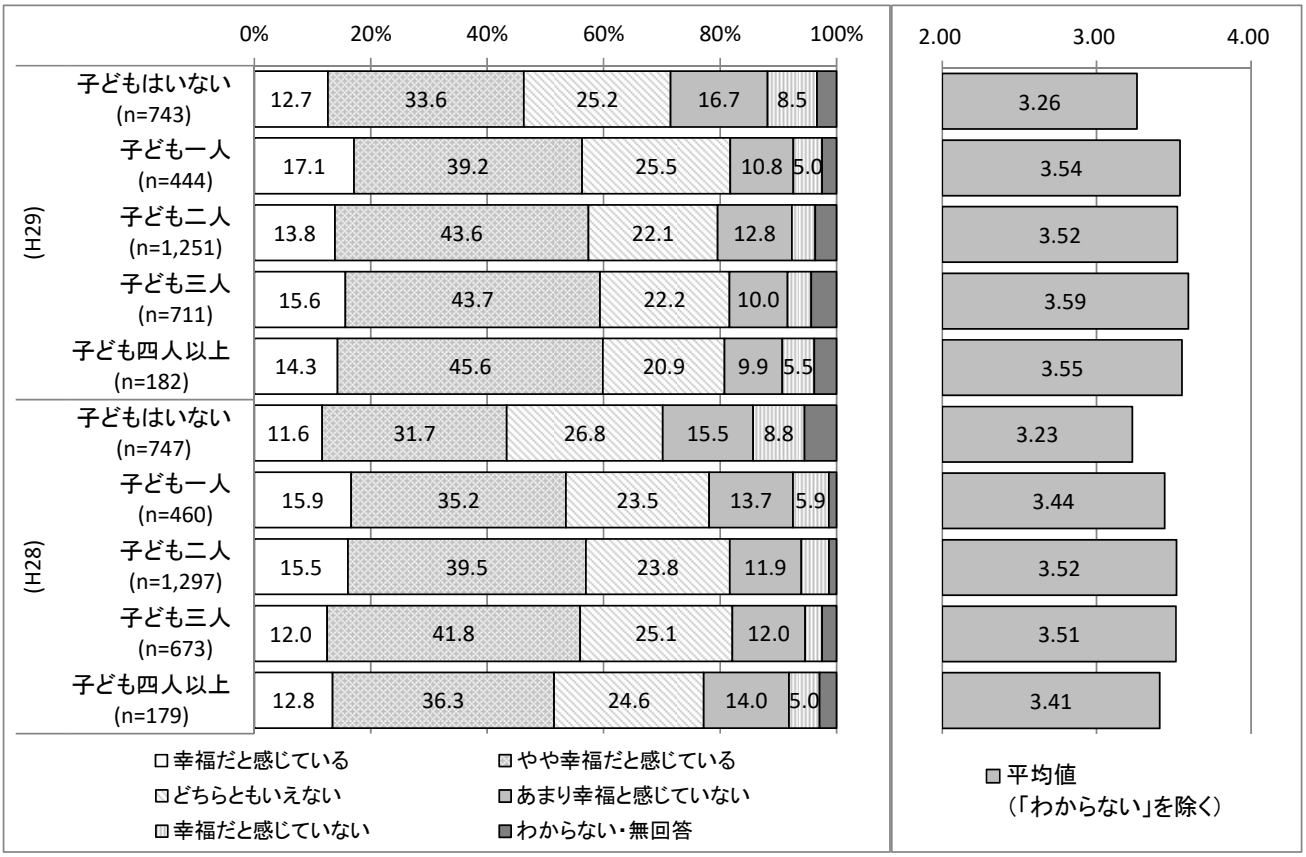
図６　主観的幸福感（世帯構成別）



（７）子どもの人数別集計

子どもがいない場合に比べ、子どもがいる方が主観的幸福感が高かった。

図７　主観的幸福感（子どもの人数別）



第２章　幸福を判断する際に重視した項目について

【結果概要】

- 平成 28 年及び 29 年の調査結果で、大きく傾向が異なる項目はなかった。
- 内閣府（2013）の調査結果と大きな差はみられなかった。
- 性別や年齢階層によって重視する項目が異なっていた。
- 幸福感が高い層※１は関係性を重視し、幸福感が低い層※２は家計の状況を重視する傾向があった。

※１：幸福感が高い層：主観的幸福感の設問で、「幸福」「やや幸福」を選択した回答者

※２：幸福感が低い層：主観的幸福感の設問で、「あまり幸福でない」「幸福でない」を選択した回答者

１　設問

先行研究等における事例を参考に、調査対象者が幸福かどうか判断する際に重視した事項を調査した。

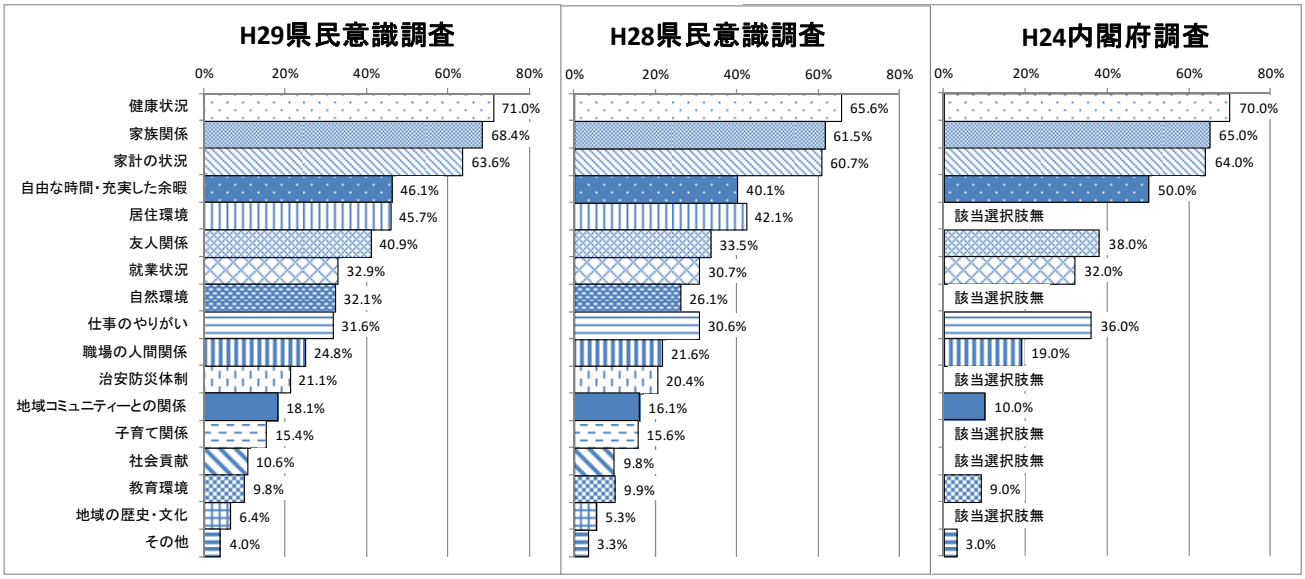
設問	あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。（複数回答可）	
選択肢	1　家計の状況 2　就業状況 3　健康状況 4　自由な時間・充実した余暇 5　仕事のやりがい 6　社会貢献 7　家族関係 8　友人関係 9　職場の人間関係	10　地域コミュニティーとの関係 11　子育て環境 12　治安・防災体制 13　教育環境 14　地域の歴史・文化 15　自然環境 16　居住環境 17　その他（具体的に：　　）

２　集計結果

（１）県全体

全国と同様に、健康状況、家族関係及び家計の状況が重視される傾向があった。

図８　幸福かどうか判断する際に重視する項目（県全体）



出所：内閣府経済社会総合研究所(2013)「生活の質に関する調査」。

（２）属性別順位

性別、年齢階層別に重視した項目の順位については、性別では大きな差がなかったのに対して、年齢階層別では比較的大きな差があった。

表１　幸福かどうか判断する際に重視する項目の順位（性別、年齢階層別）

平成29年

	全体	男性	女性	18～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代
1位	健康状況	健康状況	健康状況	友人関係	自由な時間・充実した余暇	家計の状況	家族関係	健康状況	健康状況	健康状況
2位	家族関係	家計の状況	家族関係	自由な時間・充実した余暇	健康状況	家族関係	家計の状況	家族関係	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家族関係	家計の状況	健康状況	家族関係	健康状況	健康状況	家計の状況	家計の状況	家計の状況
4位	自由な時間・充実した余暇	居住環境	自由な時間・充実した余暇	家族関係	友人関係	自由な時間・充実した余暇	就業状況	居住環境	居住環境	居住環境
5位	居住環境	自由な時間・充実した余暇	居住環境	家計の状況	家計の状況	就業状況	自由な時間・充実した余暇	就業状況	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇
6位	友人関係	友人関係	友人関係	居住環境	就業状況	居住環境	居住環境	自由な時間・充実した余暇	自然環境	友人関係
7位	就業状況	仕事のやりがい	就業状況	就業状況	仕事のやりがい	友人関係	仕事のやりがい	仕事のやりがい	友人関係	自然環境
8位	自然環境	就業状況	自然環境	教育環境	職場の人間関係	仕事のやりがい	職場の人間関係	友人関係	仕事のやりがい	治安防災体制
9位	仕事のやりがい	自然環境	仕事のやりがい	自然環境	居住環境	職場の人間関係	友人関係	職場の人間関係	就業状況	地域コミュニティーとの関係
10位	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	仕事のやりがい	自然環境	子育て関係	子育て関係	自然環境	治安防災体制	仕事のやりがい
11位	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	職場の人間関係	子育て関係	自然環境	自然環境	治安防災体制	地域コミュニティーとの関係	就業状況
12位	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	地域コミュニティーとの関係	職場の人間関係	社会貢献
13位	子育て関係	子育て関係	子育て関係	地域の歴史・文化	地域コミュニティーとの関係	教育環境	教育環境	子育て関係	社会貢献	地域の歴史・文化
14位	社会貢献	社会貢献	教育環境	その他	社会貢献	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	社会貢献	子育て関係	教育環境
15位	教育環境	教育環境	社会貢献	社会貢献	教育環境	社会貢献	社会貢献	教育環境	地域の歴史・文化	子育て関係
16位	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	子育て関係	その他	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	教育環境	職場の人間関係
17位	その他	その他	その他	地域コミュニティーとの関係	地域の歴史・文化	その他	その他	その他	その他	その他

平成28年

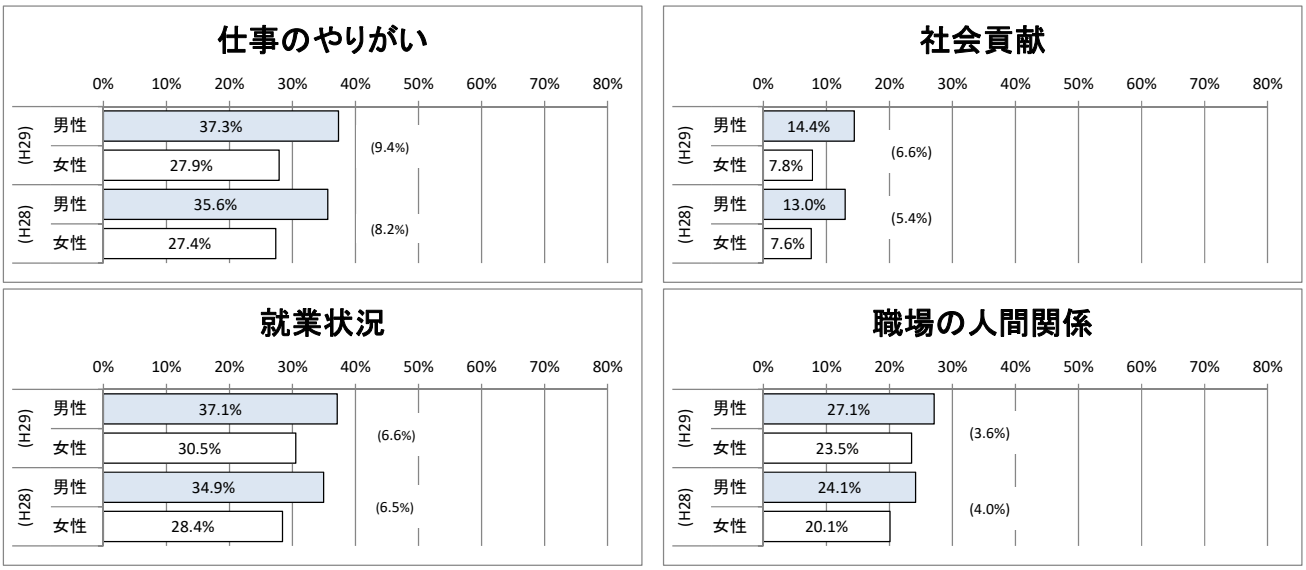
	全体	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1位	健康状況	健康状況	健康状況	－	自由な時間・充実した余暇	家計の状況	家計の状況	健康状況	健康状況	健康状況
2位	家族関係	家計の状況	家族関係	－	家族関係	家族関係	健康状況	家計の状況	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家族関係	家計の状況	－	健康状況	健康状況	家族関係	家族関係	家計の状況	家計の状況
4位	居住環境	居住環境	居住環境	－	家計の状況	就業状況	就業状況	居住環境	居住環境	居住環境
5位	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	－	友人関係	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	就業状況	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇
6位	友人関係	仕事のやりがい	友人関係	－	就業状況	仕事のやりがい	仕事のやりがい	自由な時間・充実した余暇	友人関係	友人関係
7位	就業状況	就業状況	就業状況	－	仕事のやりがい	居住環境	居住環境	仕事のやりがい	自然環境	自然環境
8位	仕事のやりがい	友人関係	仕事のやりがい	－	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	友人関係	仕事のやりがい	治安防災体制
9位	自然環境	自然環境	自然環境	－	居住環境	友人関係	友人関係	自然環境	就業状況	地域コミュニティーとの関係
10位	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	－	子育て関係	子育て関係	子育て関係	職場の人間関係	治安防災体制	仕事のやりがい
11位	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	－	自然環境	治安防災体制	自然環境	治安防災体制	地域コミュニティーとの関係	社会貢献
12位	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	子育て関係	－	治安防災体制	自然環境	治安防災体制	地域コミュニティーとの関係	職場の人間関係	教育環境
13位	子育て関係	子育て関係	地域コミュニティーとの関係	－	社会貢献	教育環境	教育環境	子育て関係	社会貢献	就業状況
14位	教育環境	社会貢献	教育環境	－	教育環境	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	教育環境	子育て関係	地域の歴史・文化
15位	社会貢献	教育環境	社会貢献	－	地域コミュニティーとの関係	社会貢献	社会貢献	社会貢献	地域の歴史・文化	子育て関係
16位	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	－	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	その他	地域の歴史・文化	教育環境	職場の人間関係
17位	その他	その他	その他	－	その他	その他	地域の歴史・文化	その他	その他	その他

（３）性別集計

男性が重視していた項目は、仕事のやりがい、就業状況、社会貢献、職場の人間関係であった。

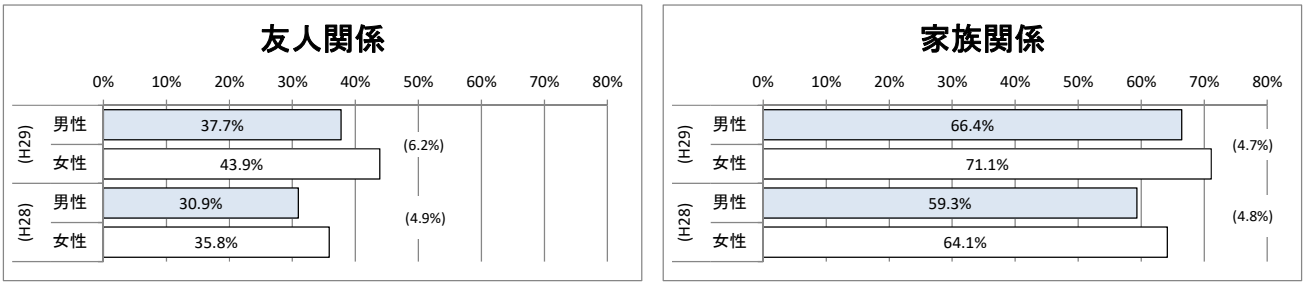
女性が重視していた項目は、友人関係、家族関係であった。

図９　男性が重視していた項目



※カッコ内に差を示す。

図 10　女性が重視していた項目



※カッコ内に差を示す。

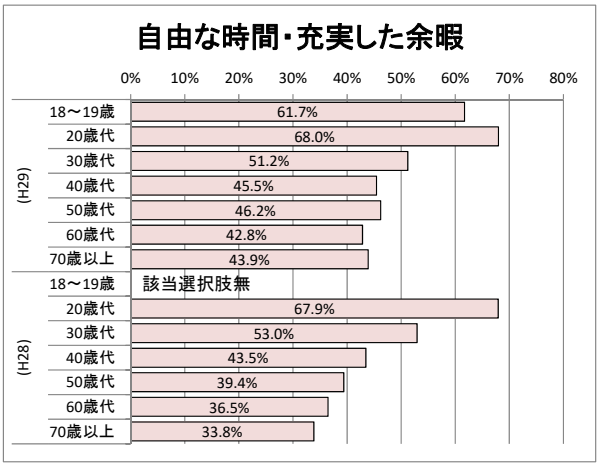
（４）年齢階層別集計

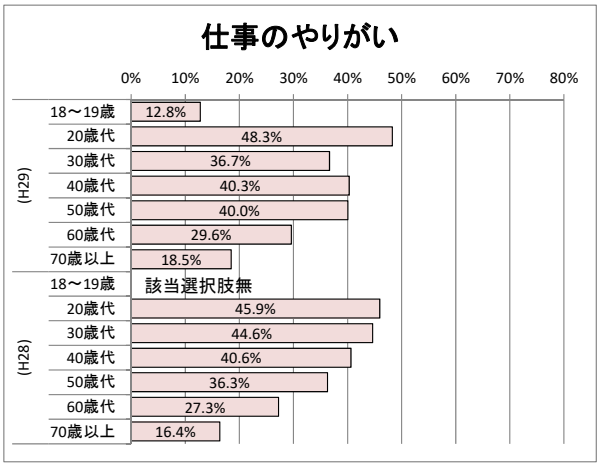
年齢が低い程重視される項目は、自由な時間・充実した余暇、仕事のやりがい、職場の人間関係であった。

年齢が高い程重視される項目は、自然環境、地域コミュニティーとの関係であった。

30～50 歳代に重視される項目は、家族関係、家計の状況、子育て関係、教育環境であった。

図 11　年齢が低い程重視される項目





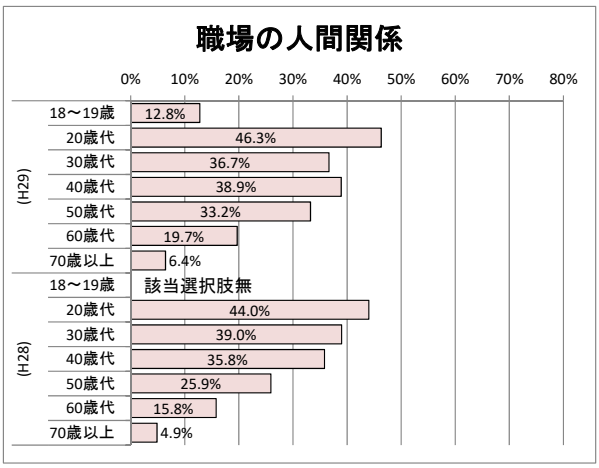
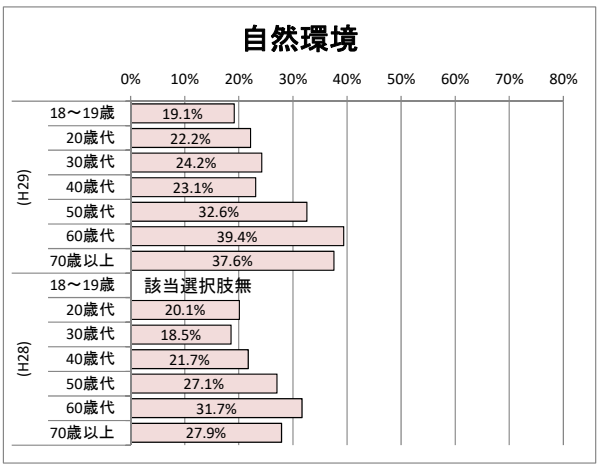


図 12　年齢が高い程重視される項目



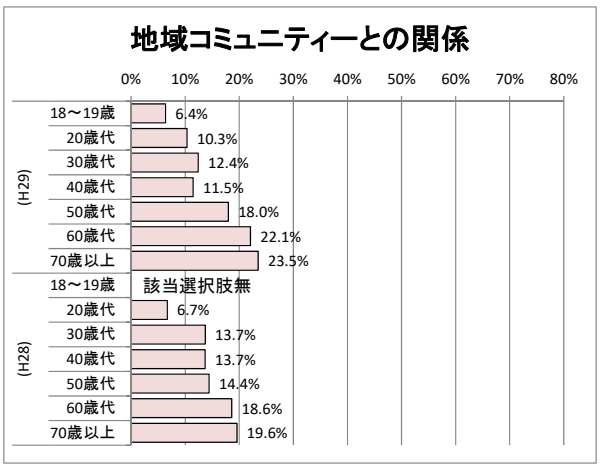
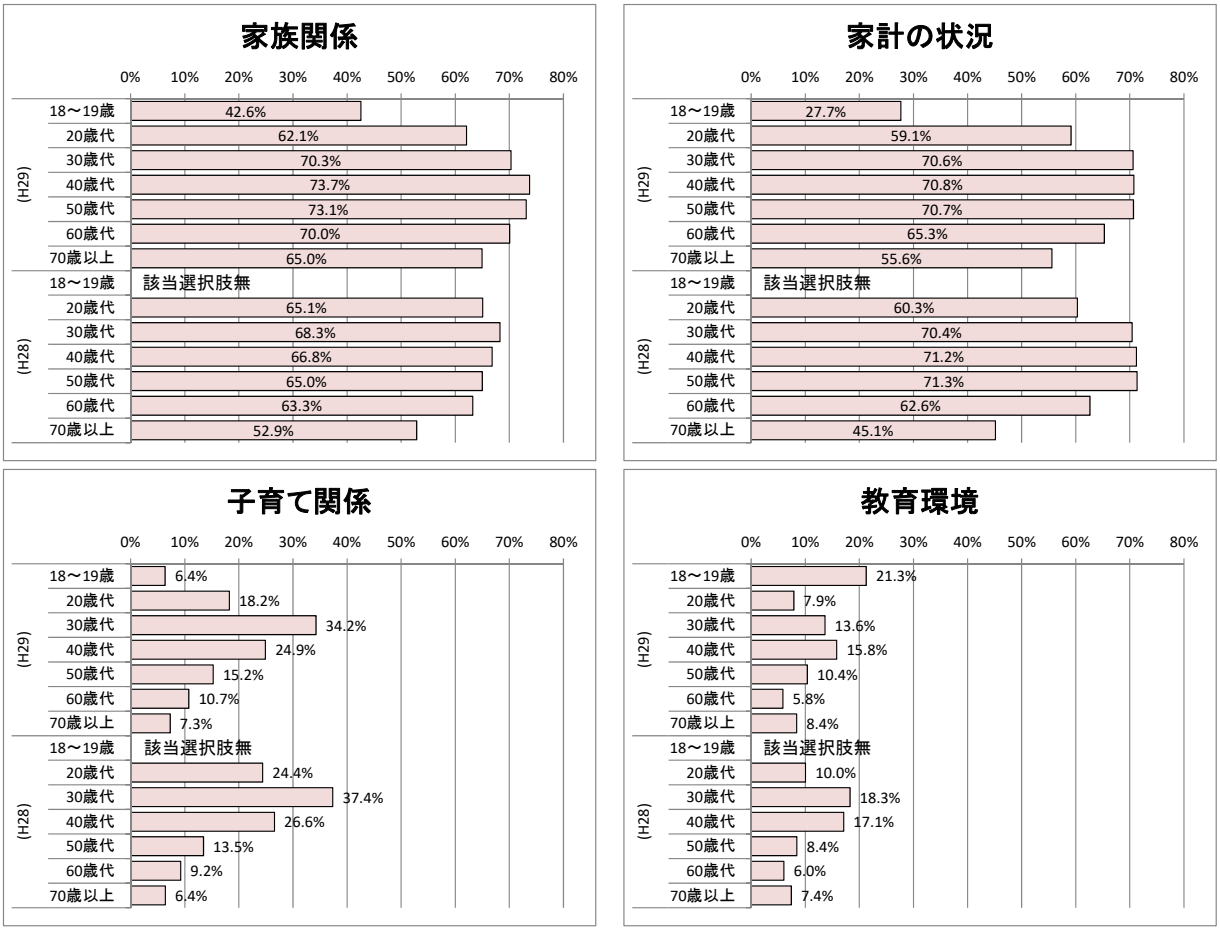


図 13　30～50 歳代に重視される項目



（５）主観的幸福感の評価結果別集計

幸福感が高い層※１は関係性を重視し、幸福感が低い層※３は家計の状況を重視する傾向がみられた。

※１　幸福感（高）：主観的幸福感の設問で、「幸福」「やや幸福」を選択した回答者

※２　幸福感（中間）：主観的幸福感の設問で、「どちらでもない」を選択した回答者

※３　幸福感（低）：主観的幸福感の設問で、「あまり幸福でない」「幸福でない」を選択した回答者

図 14　主観的幸福感が高い層が重視する項目

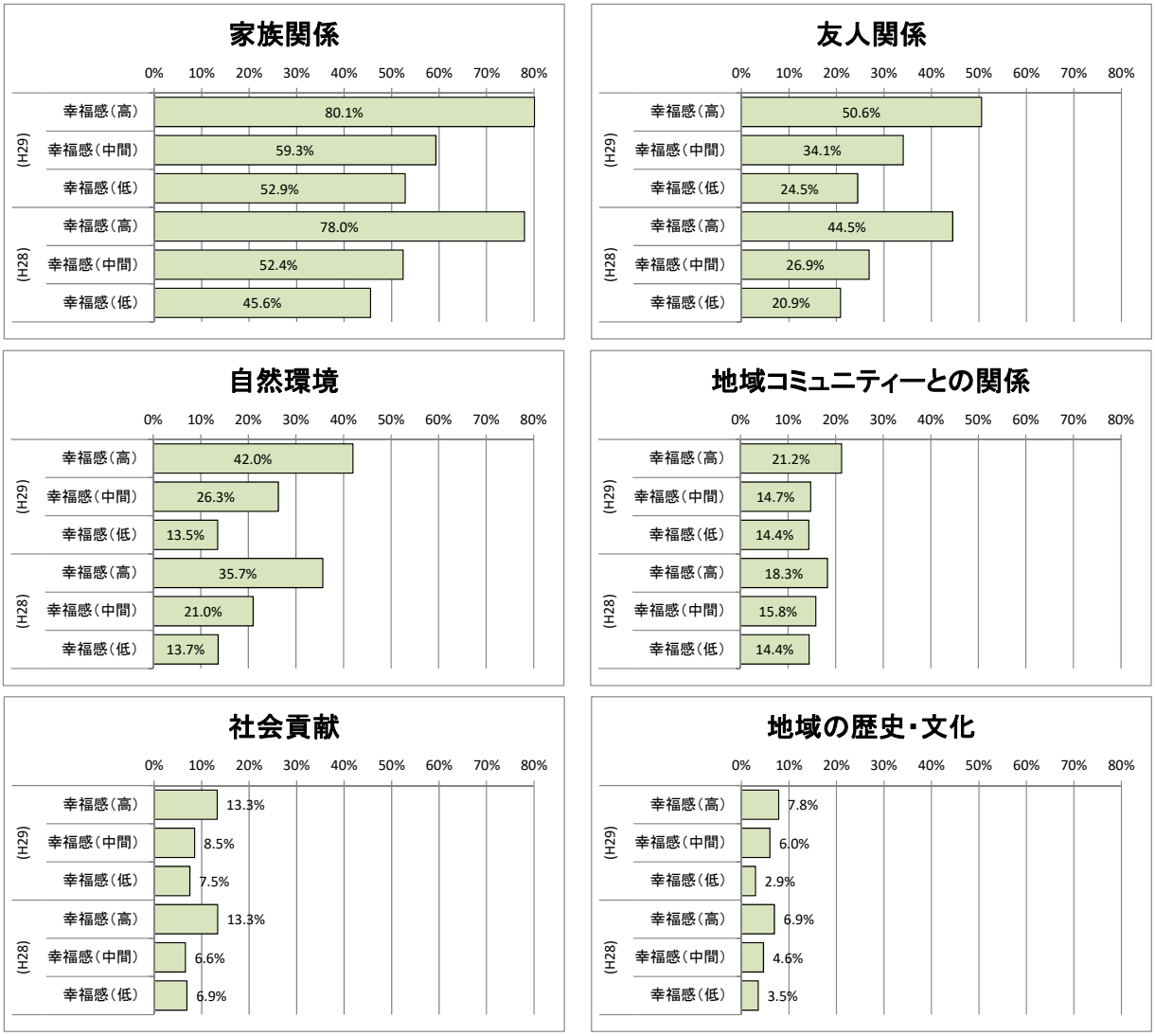
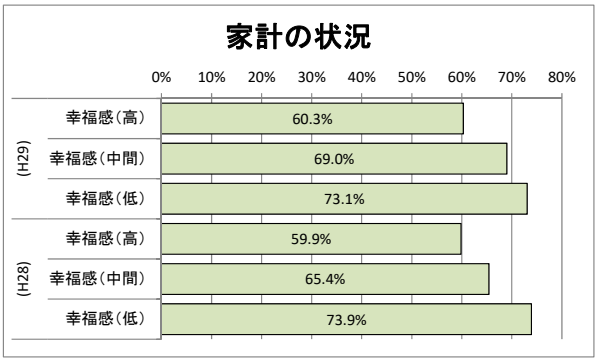


図 15　主観的幸福感が低い層が重視する項目



（６）その他重視した項目として挙げられたもの

平成 28 年調査では 101 件、平成 29 年調査で 142 件の回答があり、主に次のような内容があった。

	平成 28 年調査	平成 29 年調査
①東日本大震災津波の幸福への影響に関する意見	・仮設住宅生活のため心がいつも晴れない。 ・震災により、たくさんのものを失ったが、家族全員の命が助かった。 ・震災を経験し、現在は電気や水道が使えることを判断材料とした。	・家を流されて仮設住宅に住んでいるので幸福感を感じない。 ・被災により居住地が変わり、まだ環境に慣れずにいる。
②職場環境に関する意見	・職場での理不尽な扱い。 ・会社のコンプライアンスに疑問がある。	
③介護等に関する意見	・介護中心の生活で自分を見失いがち。	・高齢者のケアは大変である。
④障がい者福祉に関する意見	・障がい者施設に通所できなくなり家族の生活も変わってしまった。	・障がい児、障がい者がすごしやすい環境。
⑤世帯構成に関する意見		・３人の子供がいたのに今１人暮らしであり残念。 ・子どもの家族が近くに住み、時折見守ってくれる事。
⑥安定した生活等に関する意見		・その日が何事もなく生きられれば幸せ。 ・全ての項目において、人並みに生活できていることが幸福であると思う。
⑦内面や宗教に関する意見	・なりたい自分に近づいているか。 ・自分はクリスチャンであり、自分が死んでから天に行くことが最高の幸せ。	・己の存在理由があるかどうか。
⑧ガバナンスに関する意見	・市民、県民の訴え、お願い事項について、速やかに対処する県であること。	・国が良い方へ向っているか。
⑨その他	・農家の後継ぎがいない。 ・出会い。 ・犬と猫がいる。 ・世界平和。	・農業の担い手関係について ・好きな人がいない。 ・動物が守られている社会環境にあるか。

※自由記述欄の回答に基づき記載

第３章　領域別実感について

【結果概要】

- 平成 28 年及び 29 年の調査結果で、大きく傾向が異なる項目はなかった。
- 家族関係、地域の安全に関する実感が高く、子育て、余暇の充実、心身の健康、収入や所得に関する実感が低かった。
- 12 の領域別実感は、強弱の差はあるものの、主観的幸福感と一定の相関が見られた。

1　設問

既存の調査において幸福に関連するとされている 12 領域の実感と、主観的幸福感との相関等を調べるため、先行研究等における事例を参考に、次の設問により調査対象者の領域別実感を調査した。

選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、５段階評価とした。

設問	【仕事】　仕事にやりがいを感じますか[仕事のやりがい] 【収入】　必要な収入や所得が得られていると感じますか[必要な収入や所得] 【健康】　こころやからだが健康だと感じますか[心身の健康] 【家庭】　家族と良い関係がとれていると感じますか[家族関係] 【子育て】子育てがしやすいと感じますか[子育て] 【安全】　お住まいの地域は安全だと感じますか[地域の安全] 【地域】　地域社会とのつながりを感じますか[地域社会とのつながり] 【教育】　子どものためになる教育が行われていると感じますか[子どもの教育] あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか[自身の学習]（平成 29 年新規設問） 【歴史･文化】地域の歴史や文化に誇りを感じますか[歴史・文化への誇り] 【自然環境】地域の自然環境が守られていると感じますか[自然環境の保護] 自然に恵まれていると感じますか[自然のゆたかさ]（平成 29 年新規設問） 【居住環境】住まいに快適さを感じますか[住まいの快適さ] 【余暇】　余暇が充実していると感じますか[余暇の充実]
選択肢	5　感じる 4　やや感じる 3　どちらともいえない 2　あまり感じない 1　感じない 0　わからない

領域別実感の調査項目

平成 28 年調査は、各領域 1 問ずつ、計 12 の設問を設定しました。

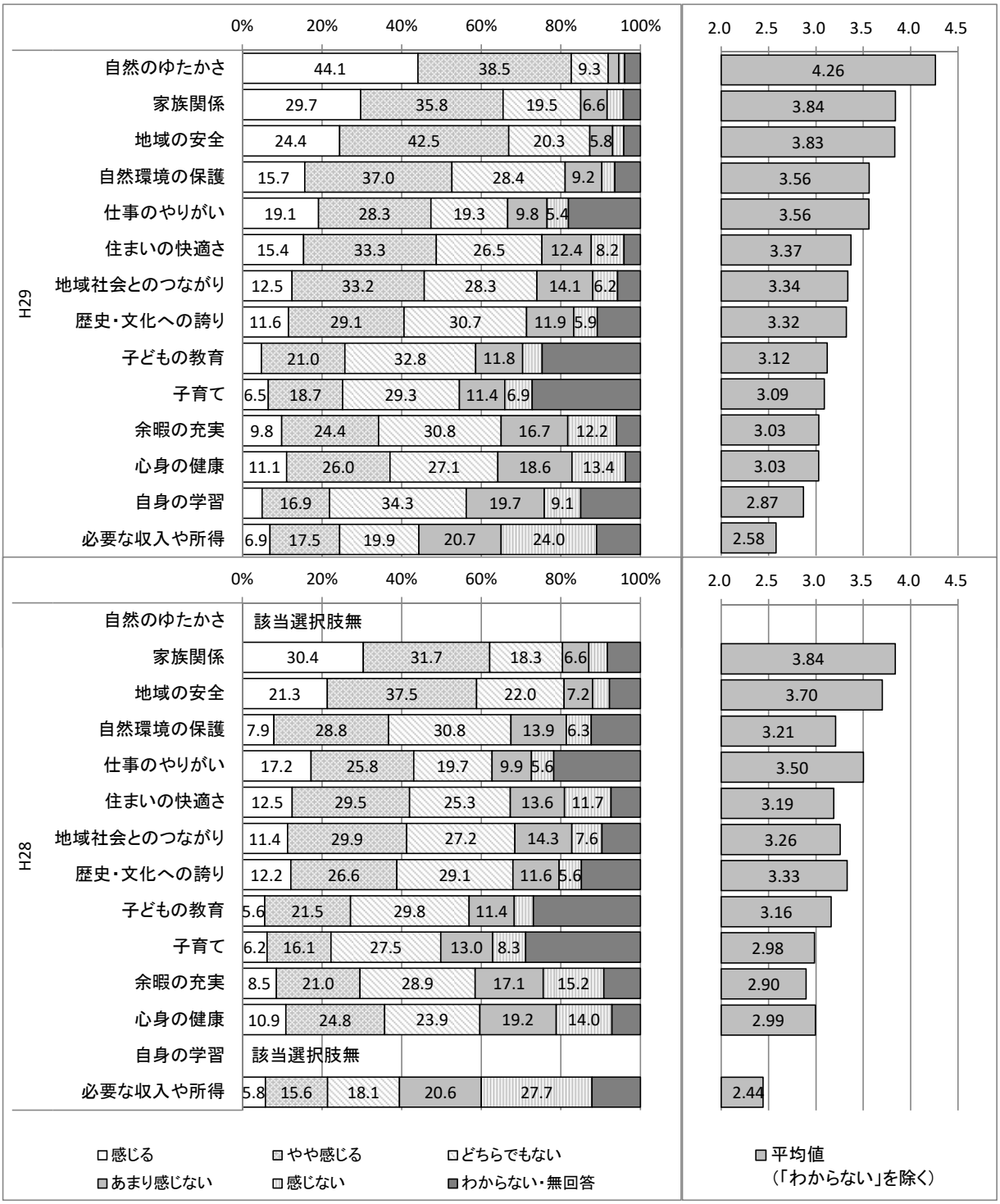
平成 29 年調査は、【教育】領域として、「子どもの教育」に加え「自身の教育」を追加しました。また、【自然】領域として、「自然環境の保護」に加え「自然環境のゆたかさ」を追加しました。この結果、平成 29 年は、計 14 の設問を設定しました。

２　集計結果

（１）県全体

家族関係、地域の安全に関する実感が高く、子育て、余暇の充実、心身の健康、収入や所得に関する実感は低かった。

図 16　領域別実感



※平成 29 年調査結果の平均で降順している。

（２）属性別集計

男性よりも女性の実感が高く、年齢階層別では 70 歳以上の実感が高い傾向がみられた。

表２　属性別（性別、年齢階層別）の領域別実感の平均値

設問項目	県平均	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①自然のゆたかさ	4.26	4.23	4.29	4.35	4.37	4.28	4.30	4.30	4.24	4.20
②家族関係	3.84	3.82	3.86	3.80	4.06	3.85	3.79	3.76	3.81	3.93
③地域の安全	3.83	3.86	3.82	3.91	3.80	3.75	3.79	3.81	3.83	3.94
④自然環境の保護	3.56	3.51	3.60	3.83	3.61	3.43	3.61	3.53	3.52	3.63
⑤仕事のやりがい	3.56	3.57	3.55	3.27	3.35	3.47	3.54	3.53	3.64	3.63
⑥住まいの快適さ	3.37	3.32	3.40	3.41	3.33	3.28	3.33	3.18	3.40	3.55
⑦地域社会とのつながり	3.34	3.32	3.35	3.27	3.05	2.96	3.27	3.25	3.39	3.62
⑧歴史・文化への誇り	3.32	3.27	3.36	3.40	3.29	3.16	3.28	3.23	3.30	3.52
⑨子どもの教育	3.12	3.08	3.14	3.27	2.91	3.04	3.08	3.02	3.10	3.34
⑩子育て	3.09	3.02	3.14	3.00	2.84	2.94	3.07	3.04	3.13	3.25
⑪余暇の充実	3.03	2.96	3.08	3.44	2.99	2.88	2.82	2.85	3.09	3.30
⑫心身の健康	3.03	3.03	3.04	3.15	3.06	2.88	2.88	2.96	3.11	3.15
⑬自身の学習	2.87	2.87	2.86	3.64	2.84	2.64	2.73	2.77	2.91	3.10
⑭必要な収入や所得	2.58	2.60	2.56	2.81	2.52	2.47	2.56	2.52	2.57	2.70

※県平均より高い属性に網掛けをしている。

（３）主観的幸福感との相関

主観的幸福感と 12 領域ごとの実感に一定の相関が見られ、領域ごとに相関の強弱があった。

表３　主観的幸福感と領域別実感の相関

平成29年調査		主観的幸福感	領域別実感														生活満足度
			仕事のやりがい	必要な収入や所得	心身の健康	家族関係	子育て	地域の安全	地域社会とのつながり	自身の学習	子どもの教育	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ	自然環境の保護	住まいの快適さ	余暇の充実	
主観的幸福感		1.00															
領域別実感	仕事のやりがい	0.38	1.00														
	必要な収入や所得	0.40	0.45	1.00													
	心身の健康	0.47	0.41	0.40	1.00												
	家族関係	0.51	0.23	0.23	0.39	1.00											
	子育て	0.42	0.26	0.32	0.35	0.41	1.00										
	地域の安全	0.29	0.21	0.21	0.27	0.27	0.36	1.00									
	地域社会とのつながり	0.33	0.29	0.27	0.30	0.30	0.39	0.45	1.00								
	自身の学習	0.33	0.28	0.29	0.34	0.24	0.40	0.33	0.49	1.00							
	子どもの教育	0.26	0.23	0.23	0.24	0.23	0.44	0.27	0.39	0.46	1.00						
	歴史・文化への誇り	0.30	0.30	0.21	0.19	0.22	0.26	0.28	0.40	0.41	0.40	1.00					
	自然のゆたかさ	0.20	0.17	0.08	0.16	0.17	0.15	0.36	0.31	0.18	0.22	0.41	1.00				
	自然環境の保護	0.18	0.16	0.13	0.17	0.14	0.22	0.32	0.33	0.22	0.30	0.33	0.47	1.00			
	住まいの快適さ	0.47	0.29	0.35	0.33	0.34	0.38	0.32	0.31	0.36	0.28	0.33	0.25	0.29	1.00		
	余暇の充実	0.49	0.31	0.36	0.41	0.34	0.40	0.28	0.33	0.43	0.30	0.30	0.17	0.22	0.54	1.00	
生活満足度		0.57	0.30	0.50	0.39	0.33	0.36	0.28	0.28	0.32	0.27	0.27	0.14	0.19	0.44	0.45	1.00

平成28年調査		主観的幸福感	領域別実感														生活満足度
			仕事のやりがい	必要な収入や所得	心身の健康	家族関係	子育て	地域の安全	地域社会とのつながり	自身の学習	子どもの教育	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ	自然環境の保護	住まいの快適さ	余暇の充実	
主観的幸福感		1.00															
領域別実感	仕事のやりがい	0.42	1.00														
	必要な収入や所得	0.41	0.42	1.00													
	心身の健康	0.50	0.42	0.36	1.00												
	家族関係	0.52	0.28	0.23	0.42	1.00											
	子育て	0.40	0.24	0.31	0.36	0.37	1.00										
	地域の安全	0.34	0.24	0.27	0.33	0.29	0.43	1.00									
	地域社会とのつながり	0.33	0.26	0.22	0.32	0.28	0.38	0.49	1.00								
	自身の学習	–	–	–	–	–	–	–	–	–							
	子どもの教育	0.28	0.25	0.22	0.30	0.25	0.46	0.37	0.50	–	1.00						
	歴史・文化への誇り	0.24	0.24	0.19	0.21	0.22	0.25	0.23	0.38	–	0.40	1.00					
	自然のゆたかさ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–				
	自然環境の保護	0.24	0.18	0.23	0.27	0.21	0.33	0.40	0.40	–	0.43	0.44	–	1.00			
	住まいの快適さ	0.50	0.31	0.34	0.41	0.35	0.42	0.40	0.36	–	0.36	0.33	–	0.38	1.00		
	余暇の充実	0.53	0.32	0.35	0.48	0.38	0.40	0.33	0.38	–	0.33	0.28	–	0.33	0.58	1.00	
生活満足度		0.55	0.30	0.46	0.40	0.31	0.34	0.30	0.28	–	0.23	0.18	–	0.23	0.44	0.44	1.00

0≦r≦0.2　　0.2＜r≦0.4　　0.4＜r≦0.7

第４章　協調的幸福感について

【結果概要】

主観的幸福感との間でかなりの相関が、領域別実感とも一定の相関がみられた。
また、属性によって協調的幸福感に違いがみられた。

１　設問

先行研究等における事例を参考に、次の設問により調査対象者の協調的幸福感を調査した。
選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、５段階評価とした。

設問	①身近な周りの人が幸福であると感じますか。[身近な人の幸福] ②周りの人に認められていると感じますか。　[周囲からの承認] ③大切な人を幸福にしていると感じますか。　[大切な人の幸福への寄与] ④安定した日々を過ごしていると感じますか。[安定した日々] ⑤人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができていると感じますか。[他者に迷惑をかけない自己実現] ⑥周りの人たちと同じくらい幸福だと感じますか。[人並み感]
選択肢	５　感じる ４　やや感じる ３　どちらともいえない ２　あまり感じない １　感じない

※協調的幸福感とは

北米に比べて日本では、幸福かどうか考える際に、人との関係性を重視し、他者との協調性や他者の幸福、平穏な感情状態に焦点を置く傾向があり、これらを踏まえた幸福感の考え方として協調的幸福感という概念が示されている。

ゆたかさを示す新しい考え方の一つの可能性として、協調的幸福感とされている項目を新たに調査し、主観的幸福感、領域別実感との関連について分析を行った。

項目	日本	北米
幸福感情	低覚醒感情「おだやかさ」 関与的感情「親しみ」	高覚醒感情「うきうき」 脱関与的感情「誇り」
幸福の捉え方	バランス志向的幸福像	増大的幸福像
幸福の予測因	関係志向 協調的幸福、人並み感 関係性調和　等	個人達成志向 自己価値・自尊心

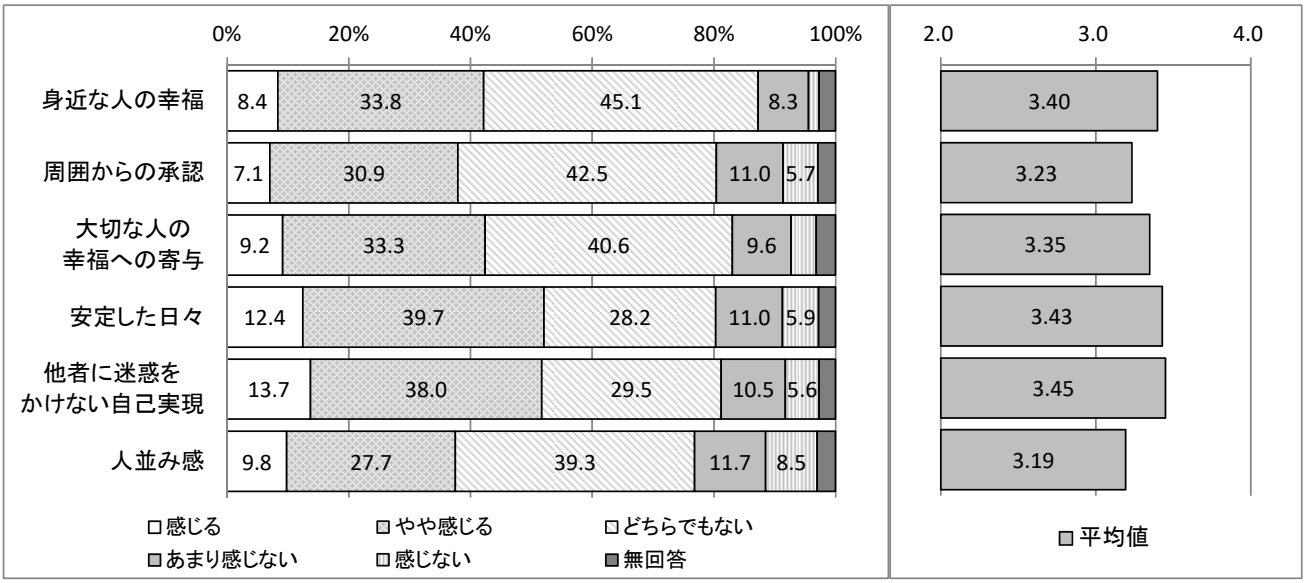
出所：内田由紀子（2013）「日本人の幸福感と幸福度指標」、『心理学ワールド 60 号』：5-8、日本心理学会。

２　集計結果

（１）県全体

他者に迷惑をかけない自己実現の実感が高く、人並み感の実感が低い傾向がみられた。

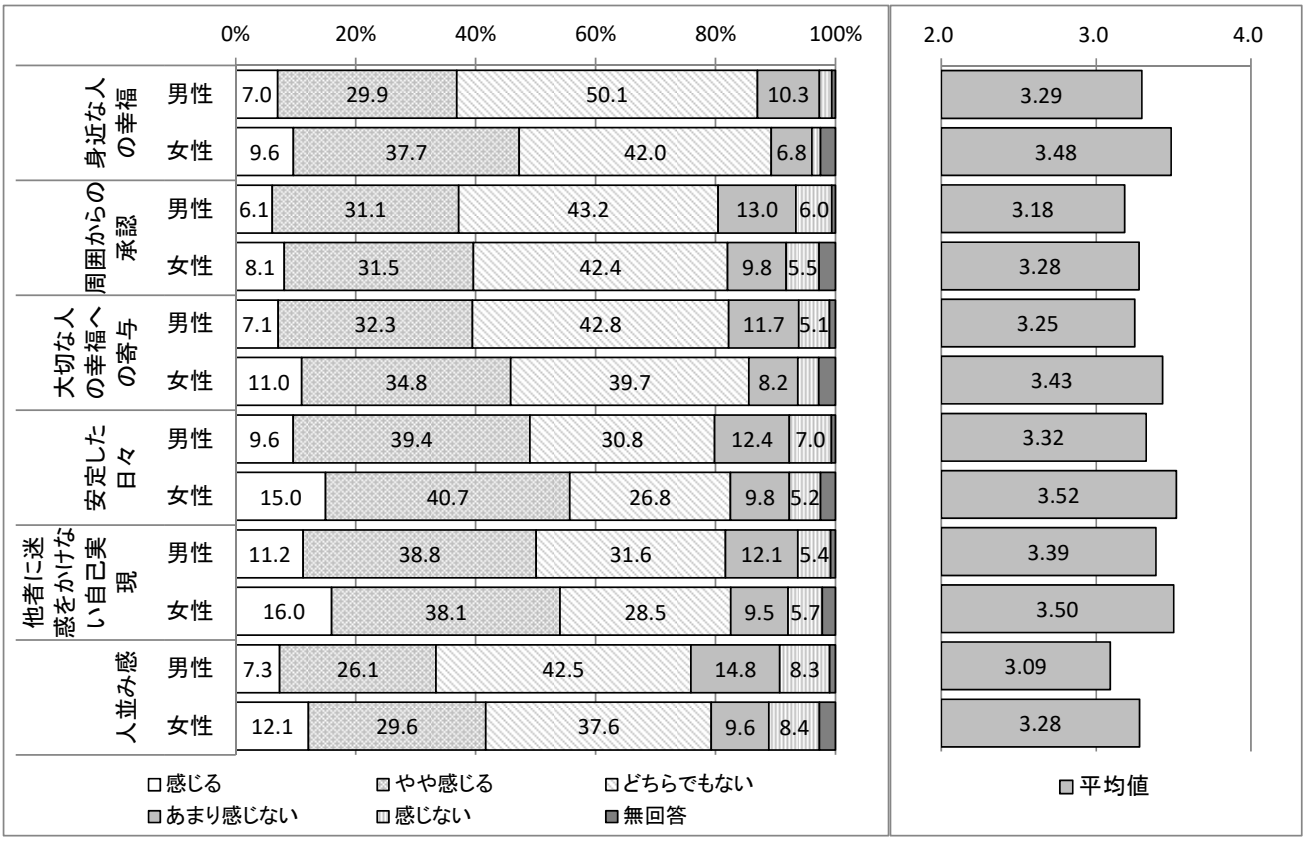
図 17　協調的幸福感



（２）男女別集計

調査項目の全てにおいて、女性の実感が高かった。

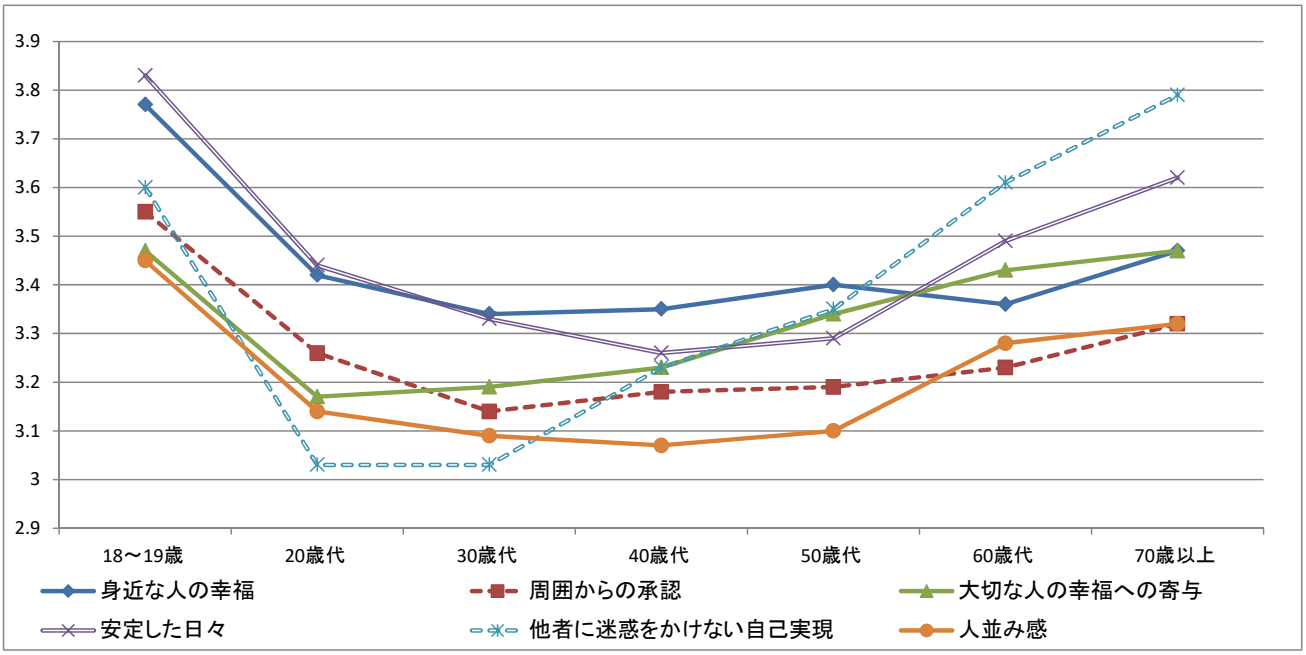
図 18　協調的幸福感（男女別）



（３）年齢階層別集計

Ｕ字カーブを描く傾向がみられた。

図 19　協調的幸福感の平均値（年齢階層別）



（４）主観的幸福感との相関

協調的幸福感は、主観的幸福感との間にかなりの相関がみられた。
また、領域別実感には、一定の相関がみられた。

表４　主観的幸福感等と協調的幸福感の相関

		主観的幸福感	領域別実感														生活満足度	協調的幸福感					
			仕事のやりがい	必要な収入や所得	心身の健康	家族関係	子育て	地域の安全	地域社会とのつながり	自身の学習	子どもの教育	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ	自然環境の保護	住まいの快適さ	余暇の充実		身近な人の幸福	周囲からの承認	大切な人の幸福への寄与	安定した日々	他者に迷惑をかけない自己実現	人並み感
協調的幸福感	身近な人の幸福	0.32	0.19	0.20	0.24	0.23	0.27	0.23	0.23	0.23	0.28	0.24	0.18	0.21	0.24	0.29	0.27	1.00					
	周囲からの承認	0.42	0.36	0.30	0.39	0.34	0.32	0.25	0.35	0.30	0.26	0.32	0.23	0.25	0.32	0.33	0.34	0.41	1.00				
	大切な人の幸福への寄与	0.51	0.26	0.27	0.40	0.46	0.37	0.23	0.26	0.29	0.28	0.25	0.15	0.20	0.34	0.37	0.38	0.39	0.52	1.00			
	安定した日々	0.60	0.34	0.41	0.48	0.45	0.41	0.31	0.31	0.31	0.28	0.28	0.18	0.21	0.43	0.47	0.52	0.40	0.51	0.62	1.00		
	他者に迷惑をかけない自己実現	0.49	0.29	0.34	0.43	0.36	0.33	0.28	0.30	0.33	0.25	0.20	0.16	0.20	0.35	0.45	0.42	0.31	0.47	0.55	0.62	1.00	
	人並み感	0.67	0.32	0.40	0.48	0.45	0.41	0.31	0.35	0.35	0.27	0.30	0.20	0.20	0.44	0.46	0.53	0.36	0.55	0.56	0.70	0.59	1.00

第５章　ソーシャル・キャピタルについて

【結果概要】

- **本県は、全国と比較してソーシャル・キャピタルが高い傾向が確認できた。**
- **主観的幸福感及び領域別実感との間に一定の相関がみられた。**
- **属性によって、ソーシャル・キャピタルに違いがみられた。**

１　設問

（１）ソーシャル・キャピタルに関する行動等の調査

先行研究等における事例を参考に、次の設問によりソーシャル・キャピタルを調査した。設問については、全国との比較を行うため、滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所の調査[1]を参考にした。

構成要素	設問	選択肢
つきあい・交流（ネットワーク）	①あなたは、ご近所の方とどのようなおつきあいをされていますか。［隣近所とのつきあいの程度］	１　互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている人もいる【４点】 ２　日常的に立ち話をする程度のつきあいはしている【３点】 ３　あいさつ程度の最小限のつきあいしかしていない【２点】 ４　つきあいは全くしていない【１点】
	②つきあっているご近所の方の数について、次のうちから当てはまるものを１つだけ選び、番号に○をつけてください。［隣近所とつきあっている人の数］	１　近所のかなり多くの人と面識・交流がある（概ね 20 人以上）【４点】 ２　ある程度の人との面識・交流がある（概ね５～19 人）【３点】 ３　近所のごく少数の人とだけと面識・交流がある（概ね４人以下）【２点】 ４　隣の人がだれかも知らない【１点】
	③あなたは、友人・知人とどのようなおつきあい（学校や職場以外で）をされていますか。［友人・知人とのつきあいの頻度］ ④あなたは、親戚・親類（同居している方を除く）とどのようなおつきあいをされていますか。［親戚とのつきあいの頻度］	５　日常的にある（毎日から週に数回程度）【５点】 ４　ある程度頻繁にある（週に１回～月に数回程度）【４点】 ３　ときどきある（月に１回～年に数回程度）【３点】 ２　めったにない（年に１回～数年に１回程度）【２点】 １　全くない【１点】 ０　該当する人がいない【１点】
	⑤あなたは現在、スポーツ・趣味・娯楽活動（各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習など）をされていますか。［スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況］	２　活動している【２点】 １　活動していない【１点】
社会的信頼	⑥あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。［一般的な人への信頼］ ⑦「旅先」や「見知らぬ土地」で出会う人に対して、信頼できると思いますか。［見知らぬ土地での人への信頼］	３　ほとんどの人は信頼できる【３点】 ２　両者の中間【２点】 １　注意するに越したことはない【１点】 ０　わからない

[1] 滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所（2016）『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』。

社会参加（互酬性の規範）	⑧あなたは現在、地縁的な活動（自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会など）をされていますか。[地縁的な活動への参加状況]	2　活動している【２点】 1　活動していない【１点】 各設問ごとの平均値は、各選択肢ごとに、【　】内の点数を配点し算出した。
	⑨あなたは現在、ボランティア・NPO・市民活動（まちづくり、高齢者・障がい者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、国際協力活動など）をされていますか。[ボランティア・NPO・市民活動への参加状況]	

（２）ソーシャル・キャピタルに対する実感の調査

ソーシャル・キャピタルと主観的幸福感等の相関を調べるため、次の設問によりソーシャル・キャピタルに対する実感を調査した。選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、５段階評価とした。

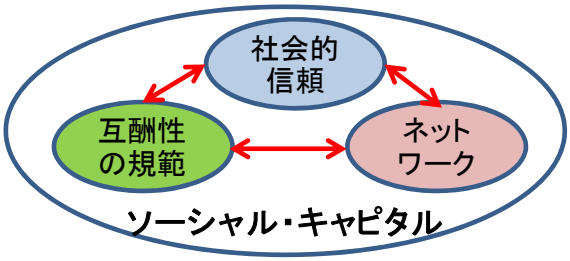
設問	①地域への愛着を感じていますか。[地域への愛着感] ②ご近所とのつきあいはよいと感じますか。[近所付き合い実感] ③信頼できる人が身近にいると感じますか。　[信頼できる人がいる実感] ④地域での活動や社会貢献活動に参加できていると感じますか。[地域活動への参加実感]
選択肢	5　感じる 4　やや感じる 3　どちらともいえない 2　あまり感じない 1　感じない

※　ソーシャル・キャピタルとは

人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、【信頼】、【規範】、【ネットワーク】といった社会組織の特徴のこと。

【規範】とは、「情けは人の為ならず」「持ちつ持たれつ」「お互い様」といった互酬性の規範、【ネットワーク】とは、人やグループの間の絆を意味しており、ソーシャル・キャピタルが豊かな地域ほど、完全失業率や犯罪率が低く、合計特殊出生率が高い、などの結果が報告されています。

ゆたかさを示す新たな指標の一つの可能性として調査を行い、先行事例との比較を行うとともに、主観的幸福感、領域別実感との関連について分析を行った。



出所：内閣府（2003）『ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』。
滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所（2016）『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』。

２　集計結果

集計結果については、全国の結果として、滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所での調査結果を示している。

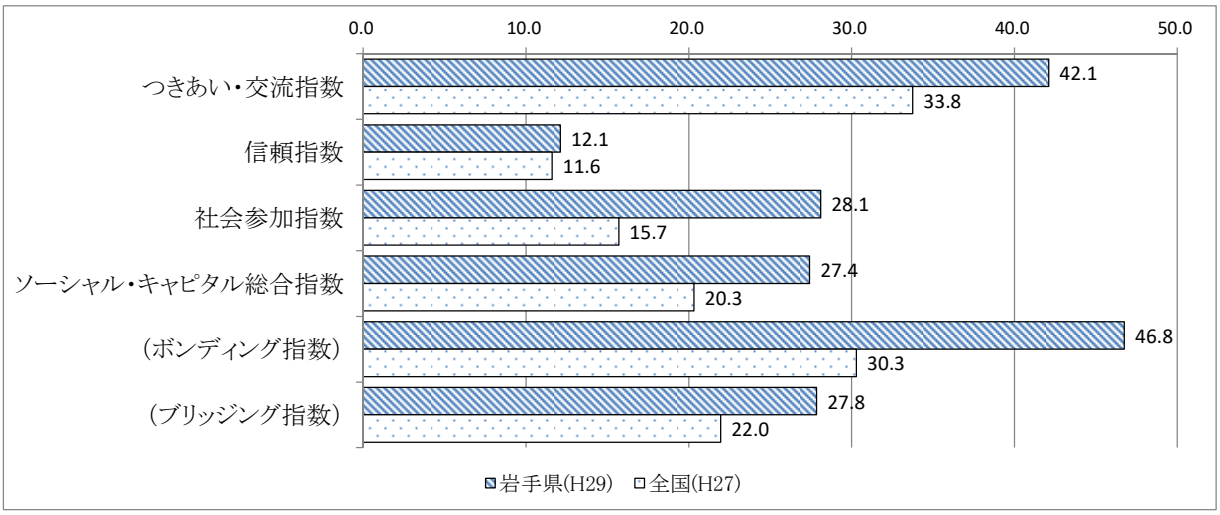
なお、当該調査とは抽出方法等が異なるため、調査結果を直接比較することはできないが、参考に記載しているものであること。

（１）ソーシャル・キャピタル指数

滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所の調査の手法にならい、各種指数を算出した。

本県は、全国と比較してソーシャル・キャピタルが高い可能性がみられた。

図 20　ソーシャル・キャピタル指数



・ボンディング指数とは

結合型（bonding）ソーシャル・キャピタルを指数化したもの。結合型ソーシャル・キャピタルとは、組織の内部における人と人との同質的な結びつきで、内部で信頼や協力、結束を生むものであり、例えば、家族内や民族グループ内のメンバー間の関係を指す。

一般的には、結合型ソーシャル・キャピタルは、社会の接着剤とも言うべき強いきずな、結束によって特徴づけられ、内部志向的であると考えられる。このため、この性格が強すぎると、「排他性」につながる場合もあり得る。

・ブリッジング指数とは

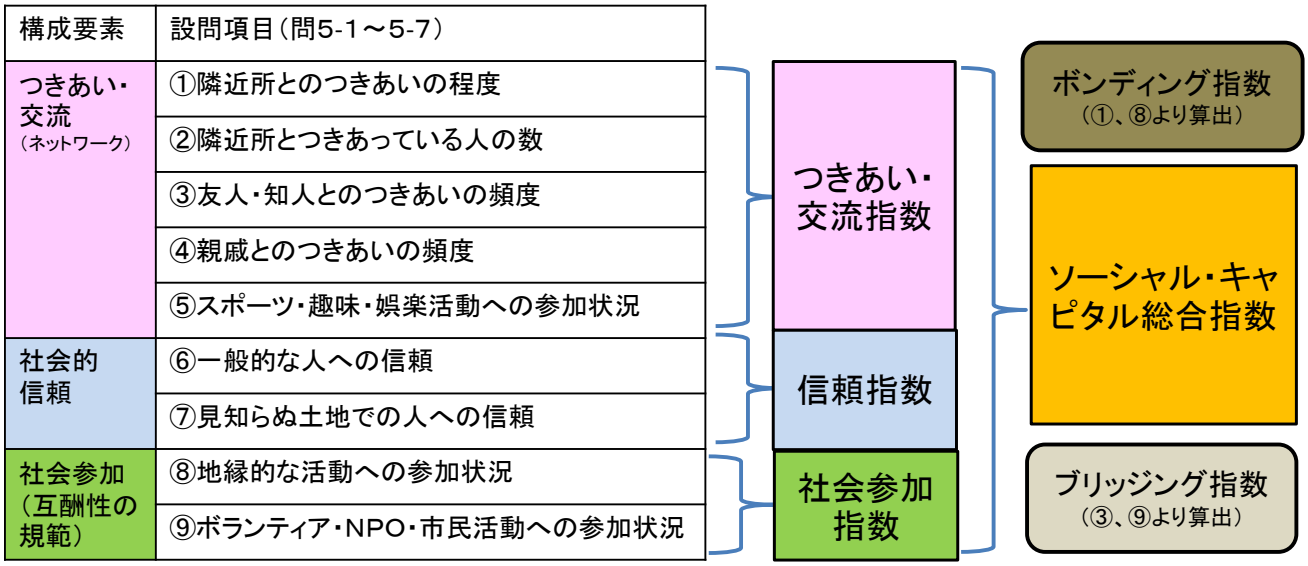
橋渡し型（bridging）ソーシャル・キャピタルを指数化したもの。橋渡し型ソーシャル・キャピタルとは、異なる組織間における異質な人や組織を結び付けるネットワークであるとされ、例えば、民族グループを越えた間の関係とか、知人、友人の友人などとのつながりを指す。

橋渡し型のソーシャル・キャピタルは、より弱く、より薄いが、より横断的なつながりとして特徴付けられ、社会の潤滑油とも言うべき役割を果たすとみられている。

出所：内閣府（2003）『ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』。

※各指数の算出方法

つきあい・交流指数	下記の数値の平均値で算出した。 ・「①隣近所とのつきあいの程度」において「１　生活面で協力」「２　立ち話程度」と回答した割合 ・「②隣近所とつきあっている人の数」において、概ね５人以上と回答した割合 ・「③友人・知人とのつきあいの頻度」において、「５　日常的にある」「４　ある程度頻繁にある」と回答した割合 ・「④親戚とのつきあいの頻度」において、「５　日常的にある」「４　ある程度頻繁にある」と回答した割合 ・「⑤スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況」において、「２　活動している」と回答した割合
信頼指数	下記の数値の平均値で算出した。 ・「⑥一般的な人への信頼」において「３　ほとんどの人は信頼できる」と回答した割合 ・「⑦見知らぬ土地での人への信頼」において「３　ほとんどの人は信頼できる」と回答した割合
社会参加指数	下記の数値の平均値で算出した。 ・「⑧地縁的な活動への参加状況」において、「２　活動している」と回答した割合 ・「⑨ボランティア・ＮＰＯ・市民活動への参加状況」において、「２　活動している」と回答した割合
ソーシャル・キャピタル総合指数	つきあい・交流指数、信頼指数、社会参加指数の平均値で算出した。
ボンディング指数	下記の数値の平均値で算出した。 ・「①隣近所とのつきあいの程度」において「１　生活面で協力」「２　立ち話程度」と回答した割合 ・「⑧地縁的な活動への参加状況」において、「２　活動している」と回答した割合
ブリッジング指数	下記の数値の平均値で算出した。 ・「③友人・知人とのつきあいの頻度」において、「５　日常的にある」「４　ある程度頻繁にある」と回答した割合 ・「⑨ボランティア・ＮＰＯ・市民活動への参加状況」において、「２　活動している」と回答した割合



（２）各設問の集計結果

①　県全体

ア　つきあい・交流関連

全国よりも平均値が高い項目が多かった。

図 21　隣近所とのつきあいの程度

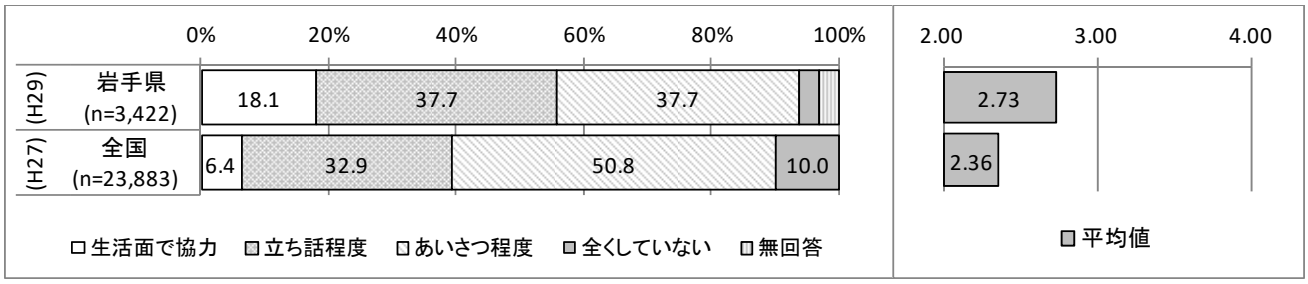


図 22　隣近所とつきあっている人の数

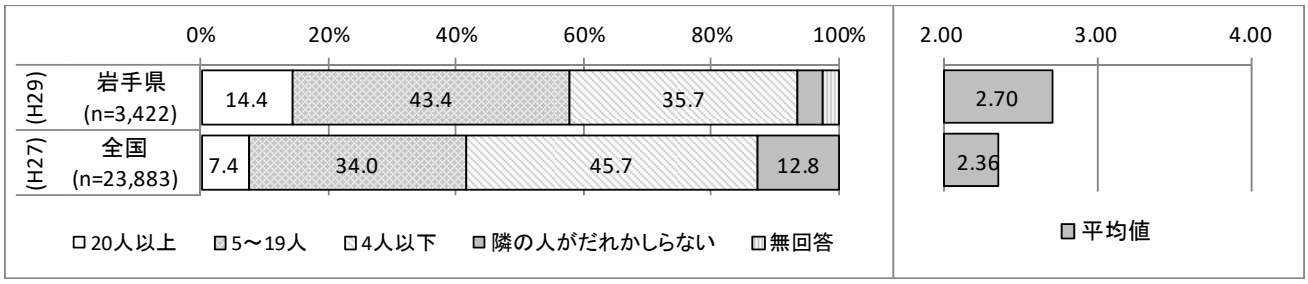


図 23　友人・知人とのつきあいの頻度

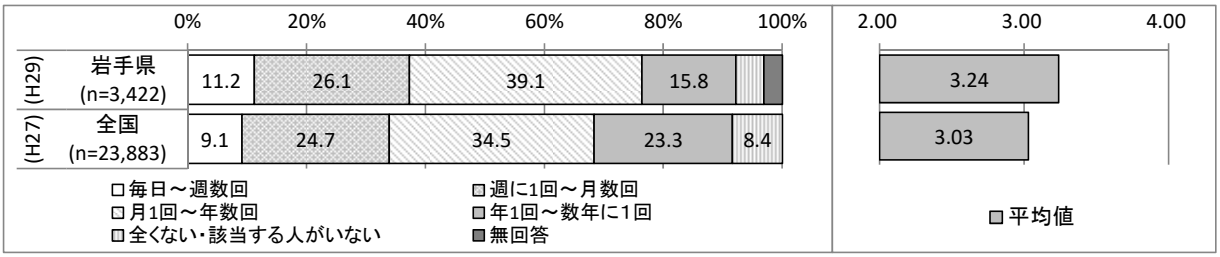


図 24　親戚とのつきあいの頻度

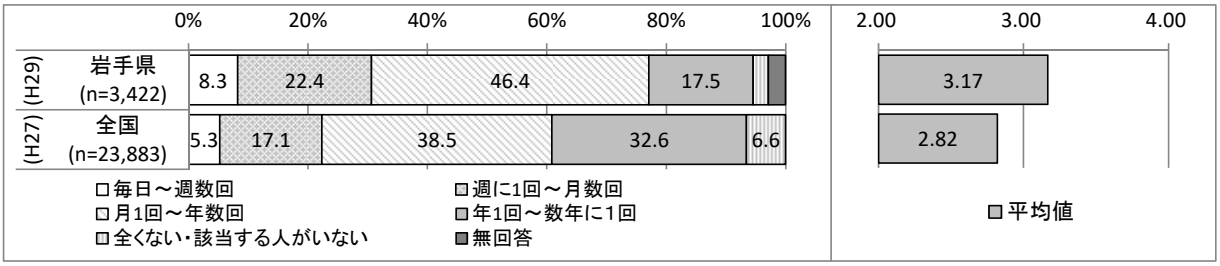
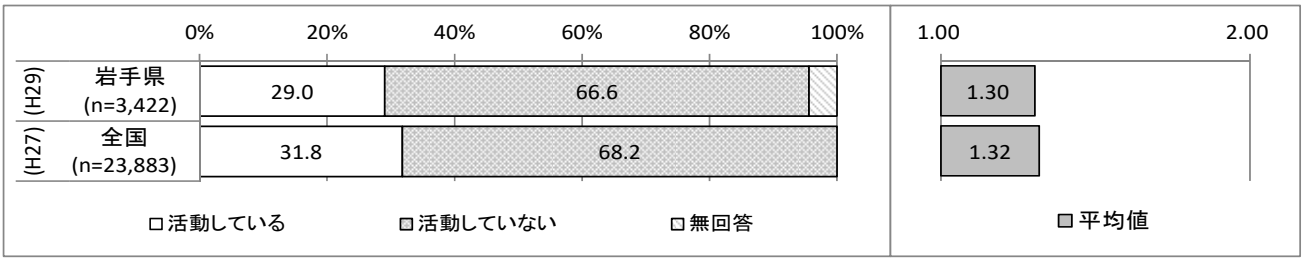


図 25　スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況



イ　信頼関連

一般的な人への信頼については、全国よりも高い傾向がみられた。

図 26　一般的な人への信頼

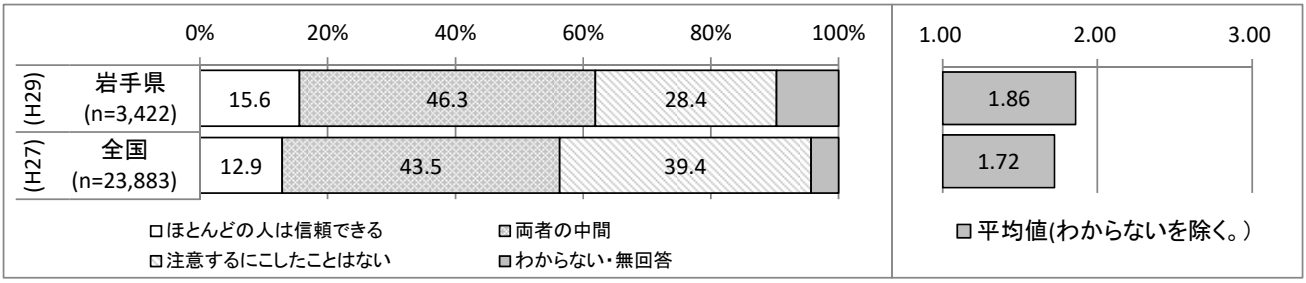
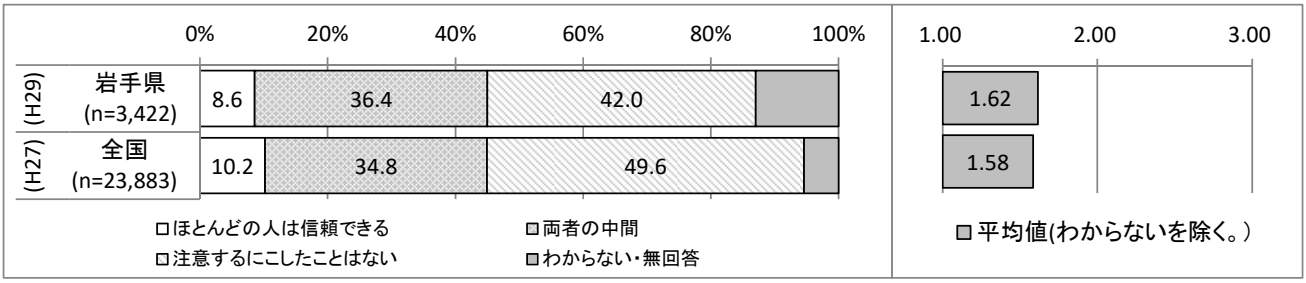


図 27　見知らぬ土地での人への信頼



ウ　社会参加指数関連

いずれの設問においても、全国よりも平均値が高い傾向がみられた。

図 28　地縁的な活動への参加状況

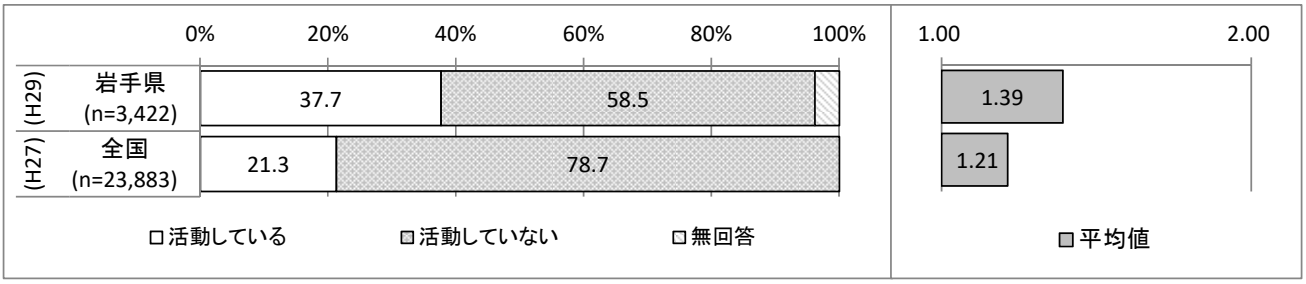
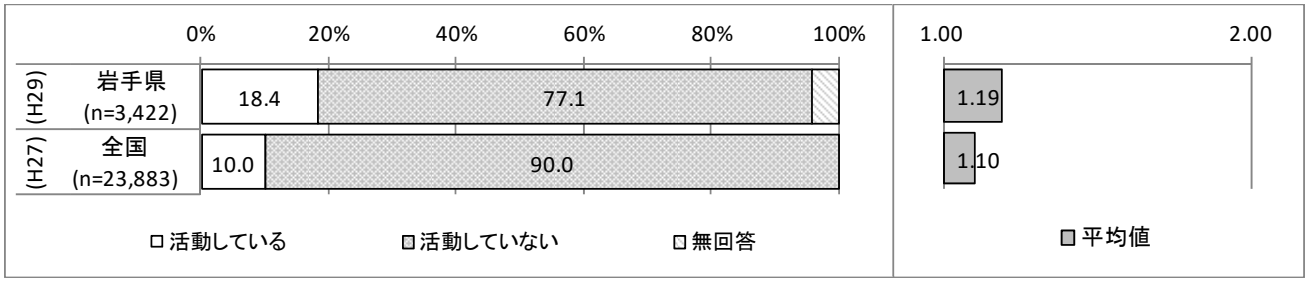


図 29　ボランティア・ＮＰＯ・市民活動への参加状況



②　属性別結果

ア　性別、年齢階層別

各設問の平均値は、60 歳代及び 70 歳以上で高い傾向がみられた。

表５　ソーシャル・キャピタルの属性別の平均値

	項　目	県平均値	国平均値	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	備　考
つきあい・交流	①隣近所とのつきあいの程度	2.73	2.36	2.67	2.78	2.30	2.14	2.30	2.43	2.67	2.92	3.13	生活面で協力（4点） 立ち話程度（3点） あいさつ程度（2点） 全くしていない（1点）
	②隣近所とつきあっている人の数	2.70	2.36	2.74	2.67	2.49	2.28	2.38	2.50	2.72	2.87	2.89	20人以上（4点） 5～19人（3点） 4人以下（2点） 隣の人が誰か知らない（1点）
	③友人・知人とのつきあいの頻度	3.24	3.03	3.19	3.28	3.81	3.46	3.03	2.89	3.00	3.31	3.57	毎日～週数回（5点） 週に1回～月数回（4点） 月1回～年数回（3点） 年1回～数年に1回（2点） 全くない・該当する人がいない（1点）
	④親戚とのつきあいの頻度	3.17	2.82	3.10	3.22	3.15	3.03	3.05	2.97	3.04	3.25	3.39	
	⑤スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況	1.30	1.32	1.34	1.27	1.28	1.34	1.26	1.22	1.30	1.30	1.37	活動している（2点） 活動していない（1点）
信頼	⑥一般的な人への信頼	1.86	1.72	1.87	1.85	1.84	1.74	1.73	1.83	1.89	1.90	1.89	ほとんどの人は信頼できる（3点） 両者の中間（2点） 注意するにこしたことはない（1点）
	⑦見知らぬ土地での人への信頼	1.62	1.58	1.68	1.57	1.70	1.49	1.53	1.66	1.70	1.65	1.55	
社会参加	⑧地縁的な活動への参加状況	1.39	1.21	1.40	1.38	1.13	1.10	1.32	1.40	1.42	1.45	1.42	活動している（2点）、活動していない（1点）
	⑨ボランティア・NPO・市民活動への参加状況	1.19	1.10	1.23	1.16	1.15	1.10	1.13	1.14	1.18	1.23	1.25	

※県平均値より高い数値に網掛けをしている。

イ　幸福感別

主観的幸福感の高い層は、ソーシャル・キャピタルも高い傾向がみられた。

図 30　隣近所とのつきあいの程度

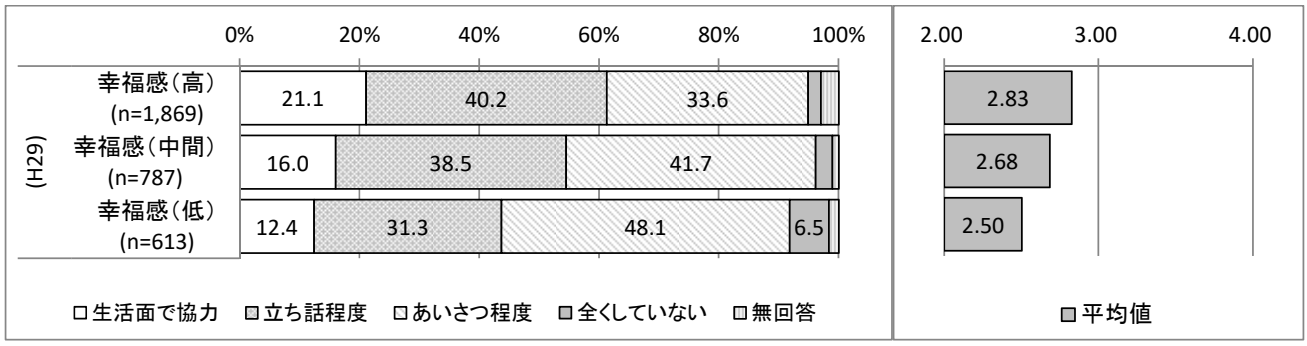


図 31　隣近所とつきあっている人の数

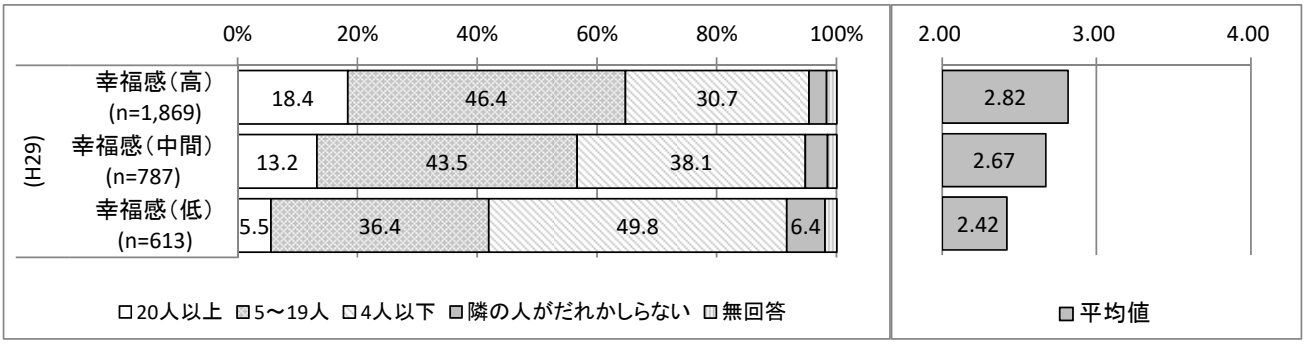


図 32　友人・知人とのつきあいの頻度

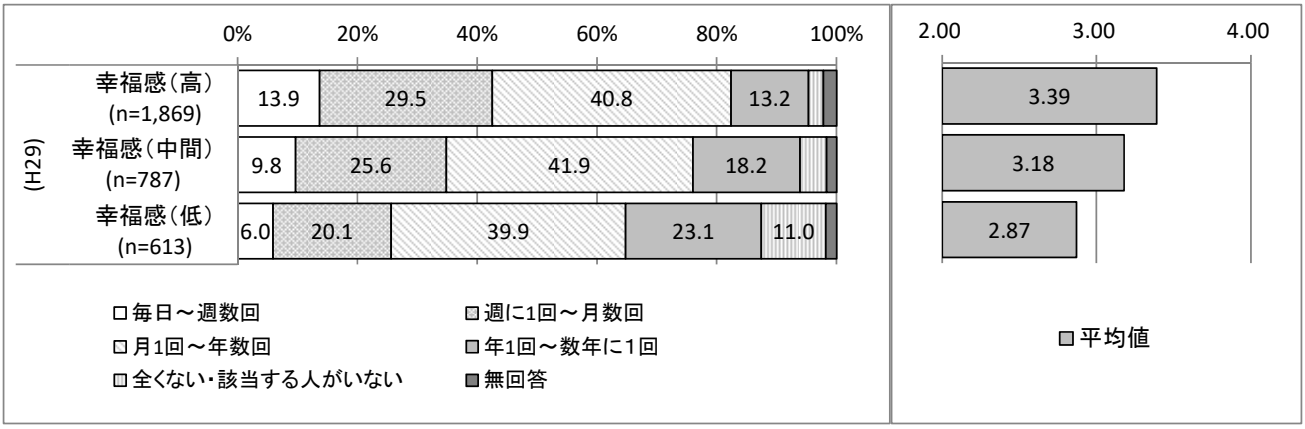


図 33　親戚とのつきあいの頻度

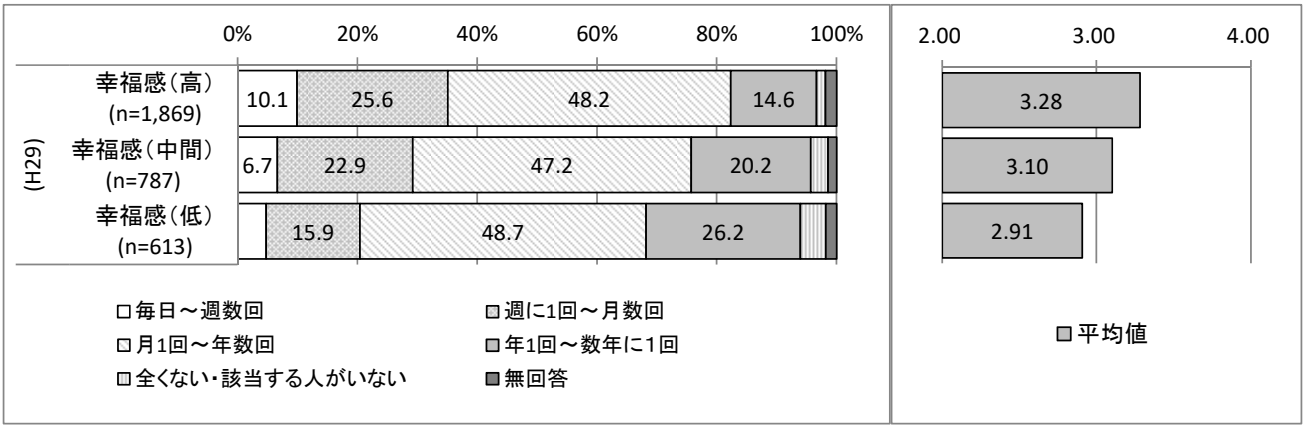


図 34　スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況

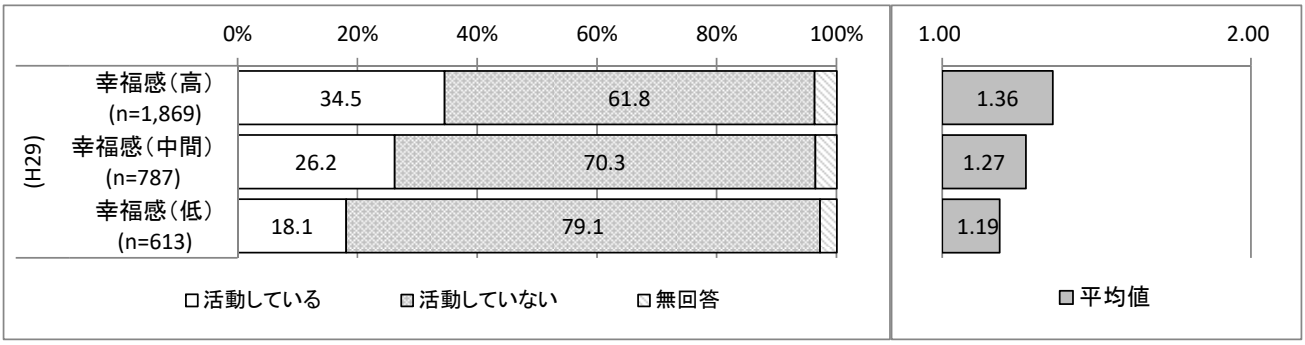


図 35　一般的な人への信頼

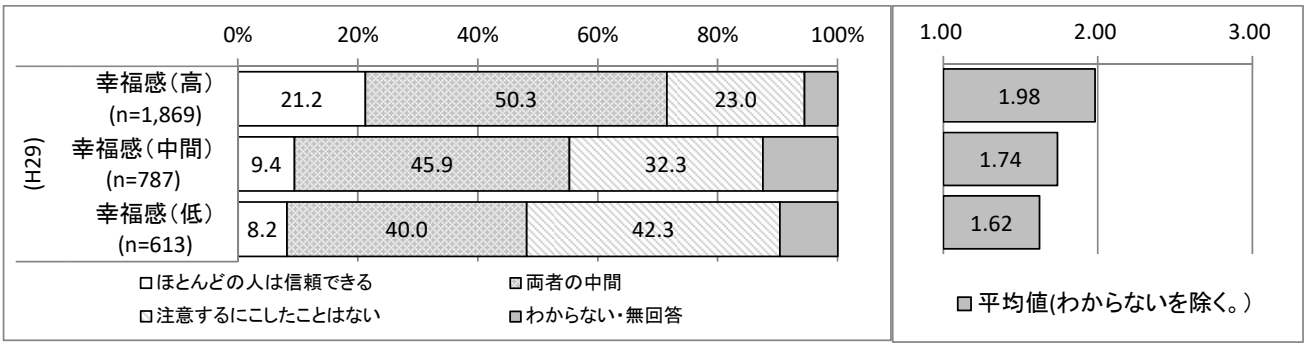


図 36　見知らぬ土地での人への信頼

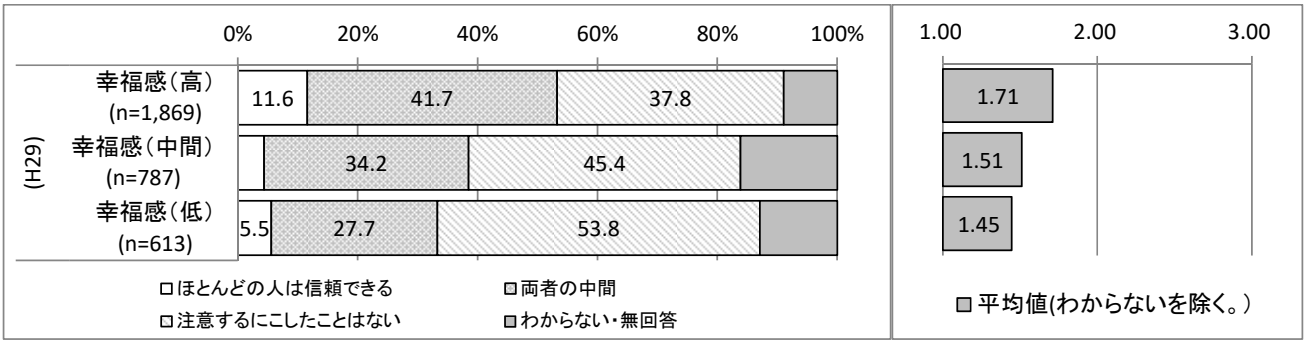


図 37　地縁的な活動への参加状況

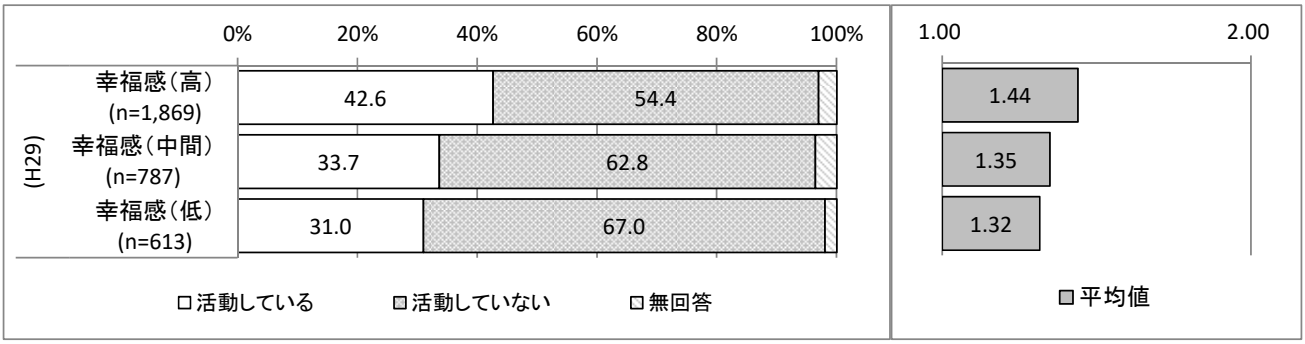
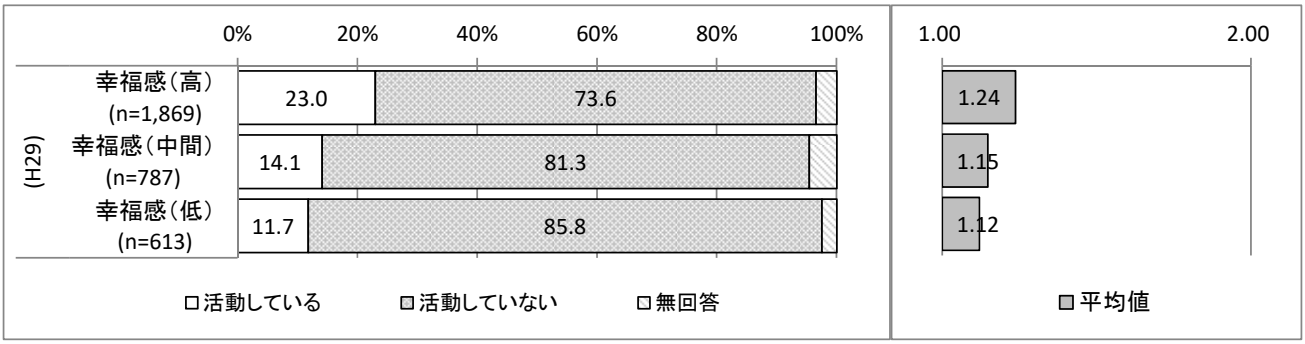


図 38　ボランティア・ＮＰＯ・市民活動への参加状況

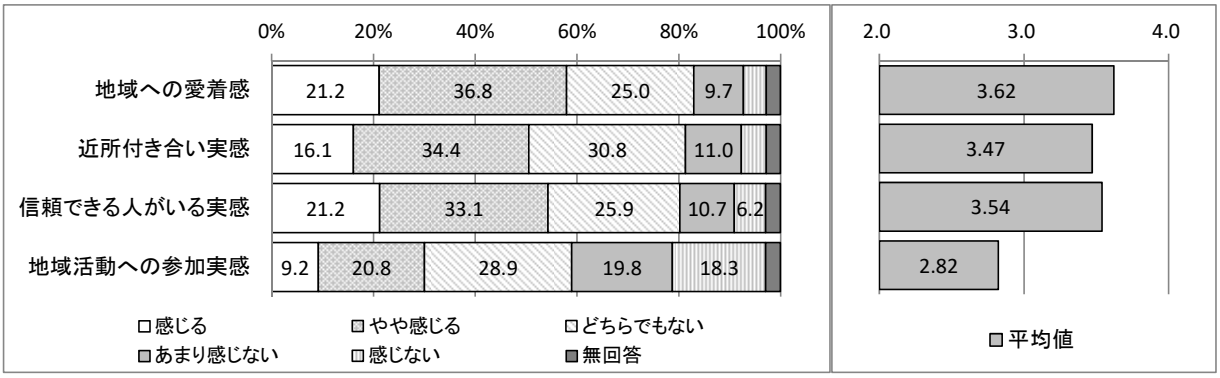


（３）ソーシャル・キャピタルに対する実感

① 県全体

地域への愛着感が高く、地域活動への参加実感が低い傾向がみられた。

図 39　ソーシャル・キャピタルに対する実感



② 属性別結果

60 歳代、70 歳以上で高い傾向がみられた。

表 6　ソーシャル・キャピタルに対する実感（属性別）

項　目	県平均値	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①地域への愛着感	3.62	3.66	3.59	3.70	3.50	3.41	3.44	3.49	3.69	3.88
②近所付き合い実感	3.47	3.44	3.49	3.34	3.12	3.12	3.17	3.36	3.59	3.86
③信頼できる人がいる実感	3.54	3.49	3.58	3.89	3.63	3.41	3.33	3.38	3.55	3.80
④地域活動への参加実感	2.82	2.88	2.77	2.77	2.38	2.43	2.57	2.80	3.02	3.07

※5段階評価の平均値。県平均より高い数値に網掛けをしている。

（４）主観的幸福感等との相関

ソーシャル・キャピタルに対する実感と、主観的幸福感及び領域別実感との間に一定の相関がみられた。

また、ソーシャル・キャピタルとその実感の間に相関がみられた。

表７　主観的幸福感等とソーシャル・キャピタルに対する実感の相関

	主観的幸福感	領域別実感														生活満足度	地域への愛着感	近所付き合い実感	信頼できる人がいる実感	地域活動等への参加実感
		仕事のやりがい	必要な収入や所得	住まいの快適さ	地域の安全	余暇の充実	心身の健康	子育て	自身の学習	子どもの教育	家族関係	地域社会とのつながり	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ	自然環境の保護					
地域への愛着感	0.30	0.29	0.21	0.32	0.27	0.28	0.22	0.25	0.31	0.30	0.21	0.43	0.44	0.31	0.25	0.26	1.00			
近所付き合い実感	0.25	0.21	0.16	0.28	0.26	0.24	0.24	0.25	0.28	0.28	0.22	0.49	0.31	0.26	0.21	0.19	0.57	1.00		
信頼できる人がいる実感	0.31	0.25	0.18	0.24	0.24	0.29	0.26	0.25	0.26	0.25	0.26	0.40	0.33	0.25	0.17	0.21	0.51	0.60	1.00	
地域活動への参加実感	0.25	0.26	0.18	0.21	0.16	0.28	0.25	0.25	0.33	0.27	0.18	0.46	0.34	0.20	0.16	0.20	0.46	0.55	0.52	1.00

表８　ソーシャル・キャピタルとその実感の相関

ソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタルに対する実感	相関係数
隣近所とのつきあいの程度	近所付き合い実感	0.59
隣近所と付き合っている人の数		0.52
一般的な人への信頼	信頼できる人がいる実感	0.32
地縁的な活動への参加状況	地域活動への参加実感	0.51
ボランティア・NPO・市民活動への参加状況		0.47

「岩手の幸福に関する指標」研究会報告書　別冊参考資料

発　行　平成 29 年　月
発行者　「岩手の幸福に関する指標」研究会
事務局　岩手県政策地域部政策推進室
TEL 019-629-5181　　FAX 019-629-5254